

スクーリング講義概要・目次

履修方法：Sの科目は下記の『レポート課題集』に掲載されています

- ◆平成20年度以前入学者のみ履修可
- ★平成21～23年度入学者のみ履修可
- 平成24年度以降入学者のみ履修可

- レポA = 『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照
- レポB = 『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照
- レポC = 『レポート課題集C（心理専門編）』参照

共通基礎科目

AB1002	ボランティア論	98
AB1020	科学的な見方・考え方	99
AB1332	情報処理Ⅰ	100
AH1003	福祉と経済	102
AH1007	法の基礎（日本国憲法を含む）	103
AH1017	人間と教育	104
AL1011	コミュニケーション英語	105
AS1024	スポーツ（バーンゴルフ）	106
AT1022	特講（現代社会論）	レポB

社会福祉士・精神保健福祉士 共通指定科目

CA3104	社会福祉原論 （職業指導を含む）	107
CA3104	社会福祉原論（職業指導を含む） （札幌開講分）	108
CA3104	社会福祉原論（職業指導を含む） （東京開講分）	109
CA3105	地域福祉論	110
CA3105	地域福祉論（札幌開講分）	112
CA3105	地域福祉論（東京開講分）	113
CA4107	社会保障論	114
CA4108	公的扶助論	115
CA4108	公的扶助論（東京開講分）	117
CB3063	★■福祉法学	118
CB3102	◆福祉法学	119
CC2101	福祉社会学	119
CC2103	福祉心理学	120
CC3079	★■医学一般	121
CC3079	★■医学一般（東京開講分）	121
CC3106	◆医学一般	122
CC4080	★■福祉行財政と福祉計画	123
CD2118	障害者福祉論	123
CD2118	障害者福祉論（新潟開講分）	125
CD2118	障害者福祉論（東京開講分）	126

CD4075	★■保健医療サービス論	127
CD4075	★■保健医療サービス論 （東京・新潟開講分）	128

社会福祉士 指定科目

CE3070	★■社会福祉援助技術総論	129
CE3071	★■社会福祉援助技術論A	130
CE3072	★■社会福祉援助技術論B	131
CE4073	★■社会調査の基礎	132
CJ3127	◆社会福祉援助技術論Ⅱ	132
CE4074	★■福祉経営論	133
CL2064	★■高齢者福祉論（仙台・盛岡開講分）	134
CL2064	★■高齢者福祉論（仙台3月開講分）	135
CL2064	★■高齢者福祉論（東京開講分）	136
CL2117	◆高齢者福祉論	136
CL2065	★■介護概論	137
CL2066・116	児童（・家庭）福祉論 （仙台・盛岡開講分）	137
CL2066・116	児童（・家庭）福祉論 （札幌開講分）	138
CL2066・116	児童（・家庭）福祉論 （東京・新潟開講分）	140
CM3069	★■更生保護制度論	141
CM4076	就労支援サービス論	レポA
CN3082	★■社会福祉援助技術演習A	142
CN4083	★■社会福祉援助技術演習B	143
CN5084	★■社会福祉援助技術演習C	144
CN3130・4131	◆社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ	142・143
CP3190	★■社会福祉援助技術実習指導A	145
CP5191	★■社会福祉援助技術実習指導B	146

CP5132 ◆社会福祉援助技術現場実習指導
..... 147

精神保健福祉士 共通指定科目

CQ4140 精神医学 147
 CR3153 ■精神保健福祉援助技術総論Ⅰ ... 149
 CR3154 ■精神保健福祉援助技術総論Ⅱ ... 149
 CR3137 ◆★精神保健福祉援助技術総論 149
 CR3148・156
 精神保健福祉援助技術各論 150
 CS3133 ◆★精神保健福祉論Ⅰ 151
 CS3155 ■精神保健福祉の理論 151
 CS4139 精神科リハビリテーション学 ... 152
 CT3134 ◆★精神保健福祉論Ⅱ 153
 CT3150 ■精神保健福祉のサービス 153
 CT4135 ◆★精神保健福祉論Ⅲ 154
 CT4152 ■精神保健福祉の制度 154
 CW3157 ■精神保健福祉援助演習 A 155
 CW4141 ◆★精神保健福祉援助演習 156
 CW4158 ■精神保健福祉援助演習 B 157
 CW5159 ■精神保健福祉援助演習 C 159
 CX4188 ■精神保健福祉援助実習指導 A ... 162
 CX5189 ■精神保健福祉援助実習指導 B ... 163
 CX5902 ◆★精神保健福祉援助実習
 (事前・事後指導) 165

社会福祉学科関連専門科目

DA2050 社会福祉の基礎 167
 DA2145 基礎演習 レポB
 DD2211 発達障害者の地域支援 レポB
 DD3119 知的障害者福祉論 168
 DD4196 ケアマネジメント論 169
 DE2113 NPO論 169
 DE4125 ◆福祉施設管理論 133
 DF3122 リハビリテーション論 171
 DH3123 ◆福祉計画法 123
 DH3144 家族法 172
 DH4111 社会福祉法制 173
 DL4281 レクリエーション実技 174

特講・社会福祉学

DT2201 特講・社会福祉学Ⅰ(介護保険と
 社会福祉士の課題) レポB

DT2210 特講・社会福祉学10(スクール・
 ソーシャルワーク論) レポB
 DT2213 特講・社会福祉学13
 (福祉産業論) レポB
 DT5207 特講・社会福祉学7(精神保健福
 祉士国家試験対策講座B) ... レポB
 DT2218 特講・社会福祉学18(生活困窮者
 自立支援の実際) 未定

高等学校教諭一種免許状(福祉) 関連科目

EA4193 ★■介護技術 176
 EB4701・741 介護実習の事前(・事後)指導
 176
 EC4710 教育実習の事前(事後)指導... 177
 EC5913 教職実践演習(高) 178

特別支援学校教諭免許状関連科目

ED3718 障害者教育総論 179
 EE4721 知的障害者の心理 180
 EF3719 肢体不自由教育 181
 EF3727 知的障害教育 182
 EG4732 重複障害教育総論 184
 EG4733 発達障害者の心理 185
 EG4734 発達障害教育総論 186
 EG4735 自閉症教育総論 186
 EG3737 視覚障害教育総論 188
 EH4740・EK4716
 障害者(児)教育実習の事前
 (・事後)指導 188
 ET3771 特別支援教育支援員概論 189

福祉心理学科関連専門科目

CC2103 福祉心理学 120
 FA2501 心理学概論 190
 FB2505 心理学実験Ⅰ 192
 FB2506 心理学実験Ⅱ 193
 FB3508 心理学研究法Ⅰ 195
 FB3509 心理学研究法Ⅱ 196
 FC2514 社会心理学 197
 FC2514 社会心理学(東京開講分) 198
 FC2515 家族心理学 199
 FC2689 人間関係論 レポC

FC3504	環境心理学	200
FD2502	生涯発達心理学	201
FD2516	児童青年心理学	202
FD2517	老年心理学	204
FE2513	教育心理学	205
FE3518	障害児の心理	206
FF2511	人格心理学	207
FF2519	心理アセスメント	209
FF3503	臨床心理学（仙台・東京開講分）	209
FF3503	臨床心理学（新潟開講分）	211
FF3520	心理療法	212
FF3520	心理療法（札幌開講分）	213
FG2682	カウンセリングⅠ	レボC
FG2683	カウンセリングⅡ	レボC
FG3680	産業カウンセリングⅠ	レボC
FG3681	産業カウンセリングⅡ	レボC
FG3685	カウンセリング演習Ⅰ	レボC
FG3686	カウンセリング演習Ⅱ	レボC
FH3510	認知心理学	214
FH3512	学習心理学	215

特講・福祉心理学

FT2601	特講・福祉心理学 1 （表情の心理学）	レボC
FT2604	特講・福祉心理学 4 （スクール・カウンセリング）	レボC
FT2608	特講・福祉心理学 8 （ストレスとつきあう心理学）	レボC
FT2609	特講・福祉心理学 9 （コミュニティ心理学）	レボC
FT2611	特講・福祉心理学 11 （受容と排斥の心理学）	レボC
FT2612	特講・福祉心理学 12 （犯罪心理学）	レボC

福祉心理学科関連専門科目 B 群

DA3146	統計情報を見る眼	216
DK3690	人的資源論	レボC

幼保特例講座科目

HH2802	相談支援	幼保ガイド
HH2804	乳児保育	幼保ガイド

スクーリング講義概要・科目別索引

ページ数が入っているものは、この冊子に掲載されています。
履修方法：Sなど本冊子に掲載されていない科目は、下記でご確認ください。

レポA = 『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

レポB = 『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

レポC = 『レポート課題集C（心理専門編）』参照

28年度開講 → 28年度に開講予定の科目です（27年度 開講せず）

◆平成20年度以前入学者のみ履修可

★平成21～23年度入学者のみ履修可

■平成24年度以降入学者のみ履修可

ア行

CC3079	★■医学一般	121
CC3106	◆医学一般	122
DF3147	医療・福祉経済論	28年度開講
DE2113	NPO論	169

カ行

CL2065	★■介護概論	137
EA4193	★■介護技術	176
EB4701・741	介護実習事前事後指導	176
FG2682	カウンセリングⅠ	レポC
FG2683	カウンセリングⅡ	レポC
FG3685	カウンセリング演習Ⅰ	レポC
FG3686	カウンセリング演習Ⅱ	レポC
AB1020	科学的な見方・考え方	99
FH3512	学習心理学	215
FC2515	家族心理学	199
DH3144	家族法	172
FC3504	環境心理学	200
DA2145	基礎演習	レポB
EC4710	教育実習の事前事後指導	177
FE2513	教育心理学	205
EC5913	教職実践演習（高）	178
DD4196	ケアマネジメント論	169
CM3069	更生保護制度論	141
CA4108	公的扶助論	115
CL2064	★■高齢者福祉論	134
CL2117	◆高齢者福祉論	136
AL1011	コミュニケーション英語	105

サ行

FG3680	産業カウンセリングⅠ	レポC
FG3681	産業カウンセリングⅡ	レポC

EG3737	視覚障害教育総論	188
EF3719	肢体不自由教育	181
CL2066	児童・家庭福祉論	137
FD2516	児童青年心理学	202
CL2166	児童福祉論	137
EG4735	自閉症教育総論	186
FC2514	社会心理学	197
CE4073	★■社会調査の基礎	132
CN3130	◆社会福祉援助技術演習Ⅰ	142
CN4131	◆社会福祉援助技術演習Ⅱ	143
CN3082	★■社会福祉援助技術演習A	142
CN4083	★■社会福祉援助技術演習B	143
CN5084	★■社会福祉援助技術演習C	144
CP5132	◆社会福祉援助技術現場実習指導	147
CP3190	★■社会福祉援助技術実習指導A	145
CP5191	★■社会福祉援助技術実習指導B	146
CE3070	★■社会福祉援助技術総論	129
CE3071	★■社会福祉援助技術論A	130
CE3072	★■社会福祉援助技術論B	131
CJ3127	◆社会福祉援助技術論Ⅱ	132
CA3104	社会福祉原論 （職業指導を含む）	107
DA2050	社会福祉の基礎	167
DH4111	社会福祉法制	173
CA4107	社会保障論	114
CM4076	就労支援サービス論	レポA
FE3518	障害児の心理	206
ED3718	障害者教育総論	179
EH4740・EK4716	障害者（児）教育実習の事前・ 事後指導	188
CD2118	障害者福祉論	123
FD2502	生涯発達心理学	201
AB1332	情報処理Ⅰ	100
FF2511	人格心理学	207

DK3690	人的資源論	レボC
FF2519	心理アセスメント	209
FA2501	心理学概論	190
FB3508	心理学研究法Ⅰ	195
FB3509	心理学研究法Ⅱ	196
FB2505	心理学実験Ⅰ	192
FB2506	心理学実験Ⅱ	193
FF3520	心理療法	212
AS1024	スポーツ (バングolf)	106
AS1023	スポーツ (バレーボール)	28年度開講
CQ4140	精神医学	147
CS4139	精神科リハビリテーション学	152
CW4141	◆★精神保健福祉援助演習	156
CW3157	■精神保健福祉援助演習A	155
CW4158	■精神保健福祉援助演習B	157
CW5159	■精神保健福祉援助演習C	159
CR3148	・156精神保健福祉援助技術各論	150
CR3153	■精神保健福祉援助技術総論Ⅰ	149
CR3154	■精神保健福祉援助技術総論Ⅱ	149
CR3137	◆★精神保健福祉援助技術総論	149
CX5902	◆★精神保健福祉援助実習 (事前・事後指導)	165
CX4188	■精神保健福祉援助実習指導A	162
CX5189	■精神保健福祉援助実習指導B	163
CT3150	■精神保健福祉のサービス	153
CT4152	■精神保健福祉の制度	154
CS3155	■精神保健福祉の理論	151
CS3133	◆★精神保健福祉論Ⅰ	151
CT3134	◆★精神保健福祉論Ⅱ	153
CT4135	◆★精神保健福祉論Ⅲ	154
AK1005	生命の科学	28年度開講
HH2802	相談支援	幼保ガイド

夕行

CA3105	地域福祉論	110
EF3727	知的障害教育	182
EE4721	知的障害者の心理	180
DD3119	知的障害者福祉論	168
EF3730	聴覚障害教育	28年度開講
EG4732	重複障害教育総論	184
DA3146	統計情報を見る眼	216
ET3771	特別支援教育支援員概論	189
AT1022	特講 (現代社会論)	レボB

DT2201~213・DT5207	特講・社会福祉学1~13	レボB
DT2218	特講・社会福祉学18 (生活困窮者 自立支援の実際)	未定
FT2601~612	特講・福祉心理学1~12	レボC

ナ行

HH2804	乳児保育	幼保ガイド
FC2689	人間関係論	レボC
AH1017	人間と教育	104
FH3510	認知心理学	214

ハ行

EG4734	発達障害教育総論	186
EG4733	発達障害者の心理	185
DD2211	発達障害者の地域支援	レボB
DF3121	福祉機器論→福祉用具と生活支援	28年度開講
CC4080	★■福祉行財政と福祉計画	123
CE4074	★■福祉経営論	133
DH3123	◆福祉計画法	123
DE4125	◆福祉施設管理論	133
CC2101	福祉社会学	119
CC2103	福祉心理学	120
AH1003	福祉と経済	102
CB3063	★■福祉法学	118
CB3102	◆福祉法学	119
DF3121	福祉用具と生活支援	28年度開講
DE3143	福祉リスクマネジメント	28年度開講
AH1007	法の基礎(日本国憲法を含む)	103
CD4075	★■保健医療サービス論	127
AB1002	ボランティア論	98

ラ行

DF3122	リハビリテーション論	171
FF3503	臨床心理学	209
DL3280	レクリエーション概論	28年度開講
DL4281	レクリエーション実技	174
FD2517	老年心理学	204

スクーリング講義概要・ご利用にあたってのお断り

【教科書変更科目】

教科書が変更された科目について、通常変更後2年間は、変更直前の教科書を所持している場合は、何らかの配慮をいたします。

教科書が変更されて2年以上経過された科目について、スクーリング時に新規教科書の所持が求められたり、事前学習において新規教科書が必要とされる場合は、所持していない方は事前に購入などをしてスクーリング時に持参をしてください。

通信教育部へ購入を申込む場合は、余裕をもって、本冊子巻末の「教材購入申込書」をご利用いただき事前に郵送で、料金分の定額小為替も同封の上お申込みください。当日の購入は原則としてできません。本冊子巻末の「教材購入申込書」に記載のない科目の料金はお問い合わせください。

「旧版所持でも可」などと記載されている科目は、スクーリング受講時に新教科書の所持は必須とはされていません。

なお、教科書の変更年度が本冊子で確認できない場合は『レポート課題集』でご確認いただくか、通信教育部 履修登録係にお問い合わせください。

【オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングの際のご注意】

オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングにおいて、録画が前年度である科目も多いため、今年度教科書変更の科目の場合は以前の教科書にもとづく講義の場合もあります。その際は、最新の教科書を所持している方に、必要な資料は配付します。また、講義内容も本冊子に記載の内容と若干異なる場合がありますが、ご了承ください。

【スクーリング 遅刻・欠席の扱い】

スクーリングにおいて遅刻・欠席した場合、原則としてスクーリング試験は受けられなくなり、単位修得不可になります。ただし、公共交通機関の遅延により「遅延証明書」を持参した場合は受講が可能な場合もありますので、お問い合わせください。

【スクーリング事前学習・事後学習】

5部扉参照

【その他スクーリング受講上の留意点】

『学習の手引き』8章をご覧ください。

スクーリング講義概要

ボランティア論 小野 芳秀

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

わが国の少子高齢化の急速な進展に伴い、福祉施策による公的サービスは財政的逼迫あるいは人員不足等による限界が生じています。地域住民が自立して安心・安全に生活するためには、インフォーマルな支援が提供される仕組みづくりが不可欠であり、その一つの担い手としてのボランティアへの期待は益々高まっています。地域社会における福祉コミュニティの構築に、ボランティア活動が果たす役割と可能性について共に考えましょう。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) ボランティアとは何か	ボランティアの定義・性格と関係思想の歴史の変遷
2) ボランティア活動の実際①	ボランティア活動のマネジメント
3) ボランティア活動の実際②	災害ボランティア・NPOとボランティア
4) ボランティアを支える仕組み	ボランティアセンターとコーディネートの実際
5) ボランティア活動の展望と課題	地域福祉の推進と自立生活支援
6) 講義のまとめ	補足・質疑応答
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

授業では板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価。スクーリングで学んだ内容をふまえ、試験問題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います（教科書・ノート・資料持込可）。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、特に教科書は使用しませんが下記の指定教科書を参考図書として持参されることを推奨します。

柴田謙治・原田正樹・名賀亨編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ』みらい、2010年

※平成22年7月以前に履修登録された方は、小谷直道著『市民活動時代のボランティア』中央法規出版、1999年

■スクーリング事前学習

ボランティアの意義と役割について教科書等を参考にしながら自身の考えをまとめてから講義に臨んでください。

科学的な見方・考え方 大内 真弓

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

数多くの情報のなかから必要な情報を取り出すことや、ある情報を説明してみることにチャレンジしつつ、互いに指摘し合う場面も盛り込み、全員で見方や考え方は様々であることを体感します。そしてどうすれば内容を科学的に見ていることになり、考えられたことになるのか、さらには、どうすれば理解した内容をわかり易かつ正確に他者に伝えられるのかを実践を通して考えます。論理の飛躍や矛盾に気付かない場合も多々出てくるはずですが、それらの失敗や様々な材料を通じて自身の癖に気付くこともあります。新しい何かを他者の姿から、そして他者との関わりから学び取る場になれば幸いです。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 科学的な見方・考え方とは何か	主観と客観の相違を理解する。
2) 多様な表現方法	グループ単位でテーマを設定する。他者の意見に触れる。
3) 何を述べたいのか	テーマを理解する。研究目的を設定する。
4) どのように説明するか	資料検索を通して、他者への説明方法を考える。
5) どうしたら正しく伝わるか	説明するための流れを構成する。必要な資料を収集する。
6) わかりやすい表現とは	収集した資料を読み取る。分析する。言語化する。
7) 全体のバランスを考えたまとめ	適した形態に整える（選択・まとめ・加工）。
8) 最終調整～ブラッシュアップ～	全体の論理展開を考える。論理に矛盾や飛躍がないか精査する。
9) 他者に説明してみよう	プレゼンテーションをする。質問とディスカッションをする。
10) 相互評価を通じた見直し	目的に沿ってテーマを深め考えることができたか考察する。
11) 文字情報としての表現方法	文章化する際のポイントと注意点を理解する。
12) 質疑応答（文章の推敲方法についてのアドバイスを含む）	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に講義を進めます。演習として途中でグループワークも行い、参加者と協力して作業の流れを確認します。また、実際に国見キャンパスの図書館を利用し、必要な資料の検索および収集方法を体験します。全体を通して、受講生が学んだことを実践を通じて理解できる体験型の内容を目指しています。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%＋スクーリング試験50%（持込はすべて不可）

試験は上記「到達目標」に挙げているスクーリングで習得する内容について、どれだけ実践に

盛り込めるかを問います。そのためにも、スクーリングを受けるという受動的な姿勢ではなく、スクーリング内容に沿って「主体的に行動する」という気持ちで臨んでください。スクーリングを実践練習の場に行えば、試験はその確認作業のようなものですので、問題なくクリアできる流れになっています。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習

- 1) 教科書の「序論 論理とは何か」を読んできてください。
- 2) 現在、環境問題としてどんなことが注目されているかを調べ、最も興味を持ったテーマについて、自身の考えを述べられるようにしてきてください。また、その図表データのコピー（出典を明示したもの）を当日持参してください。なお、文字で表現されている資料は適しません。

■参考図書

山田ズーニー著『話すチカラをつくる本』三笠書房

情報処理 I 岩田 一樹

講義・実習

■スクーリングで学んでほしいこと

本スクーリングでは、パーソナルコンピュータの操作について、初心者レベルを想定し、下記に関して、入門的な内容を実習形式で行う。なお、使用するOSはWindows 7とする。

- ・ Windowsの基本的な操作方法
- ・ Local Area Network (LAN) の概要と設定方法
- ・ インターネットを用いた情報収集
- ・ Excelを用いた情報分析
- ・ PowerPointを用いたプレゼンテーション

■到達目標

スクーリングにおいては、Excelも用いて、情報分析を行い、PowerPointを用いてプレゼンテーションできることに主眼をおき、下記を到達目標とする。

- 1) インターネットにアクセスでき、そのProcessを人に説明できる。
- 2) PowerPointを用いて、スライドを作成し、プレゼンテーションができる。
- 3) Excelを用いて、シートの作成できる。
- 4) 関数と使用した基本的なデータ分析ができる。
- 5) Excelを用いて、適当なグラフの作成ができる。
- 6) Excelの分析結果を、PowerPointを用いて、プレゼンテーションができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) Windowsの基本操作とLANの概要	キーボード入力とIME, Wordのページおよびフォント設定, フォルダ及びファイルの操作, LANの概要

2) LANの設定方法とインターネットの操作	ブラウジングと情報収集
3) PowerPointを用いたプレゼンテーション①	スライド作成の基本操作, 自己紹介スライドの作成
4) PowerPointを用いたプレゼンテーション②	自己紹介スライドの発表, PowerPointのまとめ
5) Excelを用いたデータ処理①	Excelの基本操作 (データ入力・編集, 表の作成・編集 etc.)
6) Excelを用いたデータ処理②	基本的な関数とその使用方法 (データカウント, 合計平均, 最大・最小値の選出, 絶対参照と相対参照 etc.)
7) Excelを用いたデータ処理③	基本的な関数とその使用方法 (条件判定, 条件付きカウント, 条件付き合計 etc.)
8) Excelを用いたデータ処理④	グラフと図形の利用, Excelの分析結果をPowerPointで利用する方法
9) プレゼンテーションを行う際のポイント	プレゼンテーションの大まかな流れ, およびスライド作成時のポイント
10) ExcelとPowerPointを組合せたプレゼンテーションの作成①	発表データの収集とデータ分析
11) ExcelとPowerPointを組合せたプレゼンテーションの作成②	発表用スライドの作成
12) まとめ	
13) 評価試験=プレゼンテーションの発表 (※登録者が多く, 発表の時間が不足しそうな場合, 評価試験は変更になります)	

■講義の進め方

上記講義内容にそって, 教員の指定するパソコン操作の例題や課題を受講者が行うものとする。

■スクーリング評価の基準

- ・ 授業への参加状況20%+プレゼンテーションの内容80% (詳細は以下のとおり)。
- ・ 前者は, 講義への参加状況を鑑み, 20点満点で採点する。
- ・ 13コマ目のプレゼンテーションの評価基準は以下の 4 点を各20点満点で評価。
 - ① Excelの関数機能が適切に使用できているか。
 - ② Excelのグラフ機能を適切に使用できているか。
 - ③ PowerPointの機能を適切に使用できているか。
 - ④ スライド, およびプレゼンテーションの流れが適当か。

■スクーリング時の教科書

教科書『学生のためのOffice2013 & 情報モラル』noa出版 を必ず持参してください。

■スクーリング事前学習・受講条件

本スクーリングは, 教科書のSection 1, Section 2 STEP 2 STEP 4 の内容を実習形式で行う。ついては, 提示した部分を一通り目を通しておくこと。

また, 原則としてスクーリング申込締切日までに, 1 単位め課題の提出を目標にすること。完全にできていない方は途中のものを提出すること。受講者多数で受講定員を超える場合, 提出の

ない方は受講できない。また、コンピュータ実習室の定員を超えて受講条件を達成する方が出た場合、別の日程での受講をお願いする可能性がありますので、ご了承ください。

福祉と経済 小松 洋吉

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

現代の福祉は経済システムの重要な役割を担っている。そこでまず、①わが国の経済社会をどのような眼で見たらよいのか。②福祉と経済がどのように関わっているのか。③昨今の社会保障、税、行政、政治の一体改革はわが国の経済状態とどのように関わっているのか。④国民の生活そのものである国民所得はどのようなプロセスで決定されるのか。また、望ましい姿をめざしてどのような政策がとられているのか、等である。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 現代社会の視点	現代の経済社会をどのような眼で見たらよいのか わが国の経済社会における福祉の位置づけをどう考えるか 戦後、わが国の福祉はどのような軌跡をたどったのか、それが経済社会の動きとどのように関わっていたのか 「措置の福祉」と「契約・利用の福祉」は、そのカルチャー、システム、スタイルにおいてどのようにちがうのか 福祉改革の現代的意義、方向性とは何か 利用者本位の実現に向かって何が必要か 社会保障が行われる経済学的根拠とは何か 国民経済はどのように循環しているのか 国民所得はどのようなプロセスで決定されるのか 望ましい国民所得水準をめざしてどのような政策がとられるのか アベノミクスの現代的意義
2) 福祉の位置づけ	
3) 福祉の流れ	
4) 進む福祉改革	
5) これからの福祉	
6) 利用者本位とは	
7) 分配問題としての市場の失敗	
8) 経済循環	
9) 総供給と総需要	
10) 総需要管理政策	
11) アベノミクスとは	
12) まとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

講義ノートを用意し、概ねそれにそって進める。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（何を参照してもよい）

試験問題は事前に提示します。

■スクーリング時の教科書

指定テキストを持参ください。

■スクーリング事前学習

レポート課題を一読のうえ参加ください。

■その他

スクーリング参加者は履修課題としてすでに提示しているものとは別に、スクーリング時に課題を提示します。レポートの作成はどちらの課題についてもかまいません。できるだけスクーリングに参加し、レポートを効率よくまとめよう。

法の基礎（日本国憲法を含む）

渡辺 信英・菅原 好秀

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉の現場では発生する多様な価値観の衝突に対して、迅速かつ的確な判断能力が必要です。その的確な判断能力を身につけるためには、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという素養が必要となります。

講義では社会福祉の対象となる市民に対しての単なる法学的知識を習得するにとどまらず、社会福祉サービスの対象の属性別（児童、高齢者、障害者など）にそれぞれの領域で専門職としてふさわしい法的思考能力を修得するために、日本国憲法の中核である「個人の尊重」の視点から判例の事例を踏まえて具体的に学んでいきます。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 日本国憲法の基本原理	個人の尊重の意義について
2) 基本的人権	社会権の意義について
3) 統治機構の課題	国会・内閣・裁判所について
4) 地方自治	住民自治・団体自治について
5) 民法の基本原理	私的自治の原則について
6) 総則	意思表示・代理について
7) 物権・債権	物権・債権の種類と内容について
8) 成年後見制度の概要	成年後見制度の制度趣旨について
9) 成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
10) 更生保護制度の概要	更生保護制度の制度趣旨について
11) 更生保護制度の現状と課題	更生保護制度の現実的な問題点について
12) まとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング時の教科書

志田民吉編著『改訂 法学』建帛社、2007年の所持が必要です。

■スクーリング事前学習

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』、南窓社などで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題をチェックしておいて下さい。

人間と教育 寺下 明

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

教育の今日的課題を視野に入れながら、人間にとってなぜ教育は必要なのか、人間の成長・発達を生涯学習の視点から深く学んでほしい。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 教育とは何か	教育とは何かについて学ぶ。
2) 人間の成長・発達	人間の成長の特徴を遺伝と環境の問題を踏まえて考える。
3) 脳科学からみた発達	脳科学の成果から、教育の問題について考えてみる。
4) 西欧の子ども観	西欧の子ども観の変遷について学ぶ。
5) 日本の子ども観	日本の子ども観と子育てについて学ぶ。
6) 古代・中世の教育目的	教育の理想ないし目的が、時代や社会とともに変化し、国家や社会の事情によって異なることを概観する。
7) ルネッサンス期・近代の教育	ルネッサンスおよび近代の教育の特徴について学ぶ。
8) 日本の近代教育	日本の近代における教育の目的を理解する。
9) 日本の戦後教育	戦後教育の教育理念について理解する。
10) 現代教育に問われているもの	戦後教育の流れを学習指導要領の変遷を通して学ぶ。
11) 生涯学習と教育改革	これからの教育をどのように構想していけばよいのかを探求する。
12) 学校教育の課題	学校教育の抱える課題について考える。
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に進める。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%によって評価する。

講義を基礎とした学習が進められ、学習課題が達成できたかどうかの評価の基準となる。試験課題に対する解答は、自分の意見や考察を加えることは歓迎するが、テーマをふまえた客観的な考察が前提である。

■スクーリング時の教科書

寺下明著『教育原理』ミネルヴァ書房（最新版でなくても可）

■スクーリング事前学習

教科書に目を通しておいてください。

コミュニケーション英語 シュミット・ケネス

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、多様なテーマ（日本の文化と外国の文化など）について、オーラルコミュニケーションを中心に学習していきます。ペアワーク、グループワークをおこない、リスニング、スピーキング、リーディング、ボキャブラリーを強化することをねらいとしています。

上記のほかにはパズルやクイズ、会話練習も行います。また、「多読」という英語能力を楽しくレベルアップする学習も行います。

自主学習した内容をぜひスクーリングの場で楽しく発揮してみてください。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) オリエンテーション	お互いの自己紹介など
2) 日本の特別な日	行事／お祝い
3) 海外の特別な日	行事／お祝い
4) 多読①	オリエンテーションと本の選択
5) ボディーランゲージ①	身体各部
6) ボディーランゲージ②	日本と海外
7) ボディーランゲージ③	説明, 実行, クイズ
8) コミュニケーション活動	お互いについて知る
9) 世界の食べ物①	日本料理, 好き嫌い, お薦めなど
10) 多読②	本について話す, 英語のオンライン学習
11) 世界の食べ物②	ゲームやクイズ
12) 世界の食べ物③	飢餓と世界食糧デー

■講義の進め方

ペアワークやグループワークなど、オーラルコミュニケーションを中心に講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

オーラルコミュニケーションなどへの積極的参加50%+スクーリング中に配付するワークシートの提出50%

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

※スクーリング当日は、英和辞典、ノート、A4 バインダーかファイルを持参してください。

■スクーリング事前学習

スクーリング受講前（『レポート課題集』記載の期日まで）に、PEIの教科書やPEIオンラインを参照してモジュールAを終了しておいてください。

また、時間があればスクーリング講義内容を見て、それぞれの項目について自分でインターネットなどで調べておいてください。例えば、英語での自己紹介、英語を習うための多読の理論、日本と海外の特別な日についての単語、ボディランゲージの単語、料理の英語での説明などです。

スポーツ（バーンゴルフ）

小野寺浩三

実技

■スクーリングで学んでほしいこと

バーンゴルフは、初めて聞くスポーツかと思います。ガーターのないボーリングのレーンをイメージしてください。テンピンの中央に丸いカップがあり、スタート台にボールをセットし、ゴムを貼ったパターで、振り子の要領でカップをめがけ、集中して打つだけです。

コースは全て形が異なります。各コースの攻略法を身につけることが大切です。

バーンゴルフは、ゴルフのパターによる18ホールのストロークプレーです。見た目はやさしいですが、高度なテクニックや頭脳プレー、集中力が求められます。障がい者や高齢者にはリハビリの効果があり、子どもから大人まで年齢、性別、身体的ハンディにかかわらず、誰もが参加できるバリアフリーのニュースポーツです。

本スクーリングにおいて、歴史、意義を論じ、ルールとマナー、コースの攻略法を身につけるとともに基礎体力、基礎技術の向上を図ります。また、楽しみ、喜びを共有しながら、リハビリスポーツ、生涯スポーツとして取り入れ体験学習をします。

※運動できる服（ジャージ）、運動靴を持参してください。

※更衣室は用意しますが、貴重品は各自で自己管理をお願いいたします。

※バーンゴルフの実技を行う会場は建物の屋上ですが、エレベータは設置されておらず、バリアフリー対応にはなっておりませんので、ご了承ください。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) バーンゴルフの基本①	ルールの説明、クラブの特徴
2) バーンゴルフの基本②	魅力・取り組む意義
3) バーンゴルフの基本③	活用と効果
4) パターとボール	パターの種類とボールの数（数百種類あり）
5) コースとショット①	フェルトコースとエタニートコースの攻略 ストレートショット・ハードショット・カット ショット方法
6) コースとショット②	各コースによるボール選択
7) レクリエーションゲーム	4人1組のグループで意見交換しながらプレー
8) ゲーム①	フェルト（F）コース9ホールプレー スコア記入
9) ゲーム②	エタニート（E）コース9ホールプレー スコア記入
10) ゲーム③	フェルト（F）コース9ホールプレー スコアカード提出

11) ゲーム④	エタニート（E）コース9ホールプレー スコアカード提出
12) 競技結果発表	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

理論と実技のドリル方式で行う。

■スクーリング評価の基準

授業に取り組む姿勢50%+スコアメイク10%+スクーリング試験40%

■スクーリング時の教科書

講義中にプリントを配布する。

■スクーリング事前学習

NPO法人日本ミニゴルフスポーツ協会のホームページ (<http://www.geocities.jp/bahngolf/kyoukaianai.html>) を参照してきてください。

特講（現代社会論）

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

社会福祉原論（職業指導を含む）

田中 治和

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の3点について検討することによります。

- (1) 社会福祉とは何か（基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む）
- (2) 社会福祉が歴史的社会的にどのようにして形成され発展してきたか。
- (3) 社会福祉の援助活動の思想・理念について、考察する。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉とは	正村公宏の所説、および拙稿を用いて、社会福祉の概念の説明
2) 社会福祉の歴史①	社会福祉史の概略の説明と日本の社会福祉史の骨格の説明
3) 社会福祉の歴史②	慈善救済（恤救規則）、慈善事業、および感化救済事業の説明
4) 社会福祉の歴史③	社会事業、厚生事業についての説明

5) 社会福祉・公的扶助の必要性	籠山京・江口英一の所説を用いて、社会福祉等の必然性の論拠の説明
6) 社会福祉の思想①	糸賀一雄の“福祉の思想”を論評
7) 社会福祉の思想②	社会福祉実践の根拠，社会福祉学の視点についての説明
8) 社会福祉の支援と援助の方法	支援と援助の違い，ならびに「バイステックの原則」の読み方
9) 社会福祉の援助活動―“利用者本位”の批評	本田哲郎の所説を援用し，利用者本位の言説の吟味
10) 社会福祉専門職の課題―人間理解の方法論序説	本田哲郎の所説を援用し，人間理解の方法つまり他者を理解するための方法
11) 社会福祉学の要諦	「社会福祉学」であるための根拠を，林竹二の学問論を援用し仮説提示
12) まとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

講義レジュメ集にもとづいて進める。教科書も適宜用いる。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（40%）＋スクーリング試験（教科書，自筆ノート，配付した講義レジュメ集は，持込可）（60%）です。

■スクーリング時の教科書

教科書『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉（第2版）（第3版）（第4版）』中央法規出版

※ただし，旧版を持っている場合等でも受講に支障がないよう，当日参考資料を配付します。できれば教科書を一読しておいてください。また健康に留意されて受講ください。

■スクーリング事前学習

事前に教科書に目を通しておいてください。

社会福祉原論（職業指導を含む）（札幌開講分） 齋藤 征人 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

現代に生きる人びとの「受苦」を，他人事ではなく自分事として問い直しながら，社会福祉のあるべき姿について考えます。また，そうした人びとに寄り合い，支援しようとする専門職のあり方，役割などについても考えてみたいと思います。

■到達目標

- 1) 社会福祉とは何か（基本的性格，存立の根拠，そこに包摂されている理念や原理，原則などを含む）を説明できる。
- 2) 社会福祉の形成過程について歴史的かつ社会的な視点から説明できる。
- 3) 社会福祉の援助活動はどのように展開されているか，具体例をあげて解説できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉とは何か①	憲法と社会福祉

2) 社会福祉とは何か②	先行研究による検討
3) 私たちを取り巻く社会情勢および暮らしの変化①	人口・労働
4) 私たちを取り巻く社会情勢および暮らしの変化②	地域・家族
5) 社会福祉のあゆみ①	戦前～戦中
6) 社会福祉のあゆみ②	戦後～高度成長期
7) 社会福祉のあゆみ③	低成長期以降
8) 社会福祉の主体と対象①	公的機関による見解
9) 社会福祉の主体と対象②	社会福祉の思想
10) 社会福祉専門職のあり方とその役割①	国家資格制度
11) 社会福祉専門職のあり方とその役割②	事例検討
12) 質疑応答	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可）。ただし試験では、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規出版（最新版でなくても可）、を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書の1章・2章・5章・6章を読んできてください。

■スクーリング事後学習

社会福祉とは何かについては、さらに学習を深めていってください。

■参考図書

講義中に紹介します。

社会福祉原論（職業指導を含む）（東京開講分） 元村 智明 講義

■スクーリングで学んで欲しいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。特に、社会福祉の基本的視点（専門性）への理解、現代社会における社会福祉の成立根拠（必要性）への理解、自らの対象認識および援助観を含んだ社会福祉観の再確認と醸成を目指します。

■到達目標

- 1) 社会福祉の基本的視点について理解し説明することができる。
- 2) 現代社会に社会福祉が成立する根拠について理解し説明することができる。
- 3) 社会福祉の援助原理について理解し説明することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉とは何か	福祉と社会福祉の差異とその必要性を考える
2) 社会福祉のあゆみ①	近代以前の福祉理念と福祉実践
3) 社会福祉のあゆみ②	近代社会の福祉理念と福祉実践
4) 社会福祉のあゆみ③	現代社会の福祉理念と福祉実践
5) 社会福祉の援助原理①	愛他理念と福祉実践
6) 社会福祉の援助原理②	専門職倫理と援助論理, 福祉の思想と哲学
7) 社会福祉の援助論①	援助の視点
8) 社会福祉の援助論②	援助の方法
9) 社会福祉の諸理論①	戦前の政策論と技術論
10) 社会福祉の諸理論②	構造論と関係論
11) 社会福祉の諸理論③	経営論と政策論
12) 質疑応答とまとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料も用いながら、講義を進める。

■スクーリング評価の基準

授業の受講態度10% + 授業成果カード20% + スクーリング試験70% (持込は、教科書、配付資料、講義で使用した自筆ノートのみ可)

■スクーリング時の教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉(第4版)』中央法規出版、2014年

※ただし旧版を持参した場合にも受講に支障がないよう、当日参考資料を配付します。

■スクーリング事前学習

「社会福祉はなぜ必要性なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えて受講してください。

また、教科書の「第2章 福祉と福祉政策」「第5章 福祉政策の発展過程」「第6章 少子高齢化時代の福祉政策」「第7章 福祉政策における必要と資源」「第12章 福祉サービスと援助活動」を一読して受講してください。

■スクーリング事後学習

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心をもち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。

■参考図書

授業時に適宜紹介していきますので事後学習に際して活用してください。

地域福祉論 都築 光一

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

国民の個人の尊厳に立脚した社会福祉に関する構造の構築と併せて、福祉サービスを必要とする地域住民の自立生活を支える地域福祉の推進は、今後の社会福祉の基調を示すものとなっている

る。福祉コミュニティを目指す実践を理論構築していく地域福祉論は、複雑な今日の地域社会の諸問題に向き合いながら、住民主体の諸活動を支援していく専門職の役割を理解するとともに、次の点を学びとってください。

- (1) 地域福祉の歴史と理念をしっかりと学んでください。
- (2) 地域福祉推進の実践手法について理解しましょう。
- (3) 地域福祉において実践する際の人的社会的資源と、その活用法を理解しましょう。
- (4) 地域福祉における住民参加の意義と、住民主体の原則について、理解しましょう。
- (5) 地域トータルケアシステムや、ソーシャルサポートネットワークに関する理解を深めましょう。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) 地域福祉の概念と理念 2) 地域福祉の原理と実践	地域福祉の基本的な考え方と理念 地域福祉の原理として、住民主体、地域性、人的社会的資源のシステム形成の原理について、主体と対象、資源、固有の展開手法にもとづく実践について学ぶ。
3) 外国における地域福祉のあゆみ	地域福祉の先行事例（デンマーク〔理念〕、イギリス〔制度〕、アメリカ〔ソーシャルワーク〕）について学ぶ。
4) 日本における地域福祉のあゆみ	日本型福祉社会の形成と、地域福祉の形成過程を理解する。
5) 今日における地域福祉の課題	現代日本の地域福祉の課題を理解する。
6) 社会福祉協議会	社会福祉協議会の役割・組織・機能
7) 各種福祉関係団体等	民生委員・地域福祉関係団体・ボランティア・NPO組織・行政機関等
8) 住民による地域福祉活動	地域福祉活動計画・地域福祉活動プログラム等
9) 専門機関による地域福祉の取り組み	ニーズ把握と社会資源・地域トータルケアシステムの実際
10) 福祉教育	地域住民の福祉理解と福祉教育の意義
11) 福祉サービスの提供と評価	福祉サービスの評価・第三者評価等の方法
12) まとめ	地域福祉論のまとめ
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

テキストおよび配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%） 試験は記述問題とし持込可。

■スクーリング時の教科書

教科書『福祉ライブラリ 地域福祉の理論と実際』建帛社、は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

まちづくりの主体は地域住民であるという原則から、地域福祉は地域の課題解決に向けた地域による取り組みが基本です。そのための基本的な考え方を、予習してきてください（特に教科書の第1章と第4章）。

講義は、具体的かつ実践的な内容で行いますので、とりわけ実務経験を有していない方にとっては、事例なども読んでおいた方が望ましいです。

地域福祉論（札幌開講分） 齋藤 征人 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

自らが暮らす地域を常に意識しながら、地域コミュニティのあるべき姿やコミュニティ・ソーシャルワークの具体的な展開方法について考えてみたいと思います。

■到達目標

- 1) 地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂などを含む）を説明できる。
- 2) 地域福祉に係るさまざまな社会資源について解説できる。
- 3) 自らの居住地域において地域福祉を推進する「主体者」として、どんな地域コミュニティを構想するかを具体的に論述することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) 地域福祉の見方・考え方①	コミュニティの範囲と機能
2) 地域福祉の見方・考え方②	コミュニティの分析枠組み
3) 地域福祉の主体	先行研究による検討
4) 地域福祉の対象	先行研究による検討
5) 地域福祉に係る組織や団体	社協・NPO・ボランティア
6) 地域福祉に係る専門職の役割とその実際	民生委員・児童委員
7) 地域福祉におけるネットワークの意義と方法	先行研究による検討
8) 地域福祉におけるネットワークの実際	先行研究による検討
9) 地域福祉の推進方法①	社会福祉調査・ニーズ把握
10) 地域福祉の推進方法②	住民参加・地域協働モデル
11) 地域福祉の推進方法③	事例検討
12) 質疑応答	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可）。ただし試験では、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

都築光一編『福祉ライブラリ 地域福祉の理論と実際』建帛社、を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書の1章・4章・5章を読んできてください。

■スクーリング事後学習

住民による地域福祉活動については、さらに学習を深めていってください。

■参考図書

『新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法』中央法規出版

地域福祉論（東京開講分）

柴田 邦昭

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

2000（平成12）年6月の「社会福祉事業法等改正一括法」により、「地域福祉の推進」は社会福祉の基調を示すものとなった。地域福祉論は地域の実践を理論構築していく学問であり、日常生活から見えてくる課題、福祉サービス利用者を地域でどう支えていくかという視点に立ちながら次の点について学んでほしい。

- (1) 地域福祉の歴史と理念をしっかりと学んでください。
- (2) 地域において実践する際の人的資源と、その活用法について理解しましょう。
- (3) 地域福祉における住民参加の意義と、住民主体の原則について、理解しましょう。
- (4) 地域トータルケアシステムや、コミュニティソーシャルワーカーに関して理解しましょう。

■到達目標

- 1) 地域福祉の必要性をふまえ、その歴史・理念について基本的な事について説明できる。
- 2) 地域福祉の課題を把握し、解決に向けた方向性を見出すことができる。
- 3) 地域福祉の展開手法や具体的な推進方法に関して説明することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 地域福祉とは何か	地域福祉とは何か・日本の地域福祉の歴史
2) 地域福祉のあゆみ	欧米における地域福祉の歴史・今日における地域福祉の課題
3) 地域福祉の展開における役割と実際①	地域福祉の役割と実際・社会福祉協議会
4) 地域福祉の展開における役割と実際②	民生委員・児童委員・各種福祉団体
5) 地域福祉の展開における役割と実際③	ボランティア・NPO団体等
6) 住民による地域福祉活動①	地域福祉計画・地域福祉活動計画等
7) 住民による地域福祉活動②	地域福祉活動プログラム・住民による地域福祉活動の課題
8) 地域福祉活動実践	グループワークによる個別事例の検討
9) 専門機関による地域福祉の取り組み①	専門機関および専門職による相談支援の実際と地域福祉・ニーズ把握と社会資源
10) 専門機関による地域福祉の取り組み②	福祉教育・福祉サービスの評価
11) 地域福祉の財源	未熟な地域福祉の財政制度・社会福祉協議会の財源
12) これからの地域福祉に向けて	統計指標・東日本大震災・生活支援戦略
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書を中心に講義を進めます。地域福祉実践をより具体的に理解いただくため、DVDの使用およびグループワークを一部取り入れます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（持込可）

試験は記述式とし、特に到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

教科書『福祉ライブラリ 地域福祉の理論と実際』建帛社、は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書の「はしがき」および教科書の事例1～7を読んできてください。

社会保障論 阿部 裕二

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

社会保障は比較的新しい概念ですが、今ではすっかり定着し、われわれの生活になくてはならない基礎的な社会制度に発展しています。しかし、皆さんはこれまでじっくりと「社会保障とは何か」について考えたことがあるでしょうか？

本講義のテーマは「社会保障の考え方と仕組みを理解し、自分なりの『社会保障観』を構築しよう」です。わが国における社会保障は、少子・高齢化をはじめとするさまざまな環境の変化のなかで、構造的転換期を迎えています。その際、「私たちの生き方（価値観の転換）」も同時に問われています。そこで、講義ではこのような問題意識の下、社会保障の考え方や成立過程を考察しつつ、わが国の社会保障制度の現状と課題、そして少子高齢社会におけるあるべき生活保障システムを受講生の皆さんと共に考えていきたいと思います。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

講義の流れを箇条書きとしてあげると、以下のようになります。

テーマ	内容
1) 社会保障研究の視角	少子・高齢化, 就労形態, 国際化等の環境の変化
2) 社会保障とは	定義, 理念, 歴史と制度の範囲
3) 社会保障の機能	社会保険と社会扶助の関係性および機能
4) 社会保障制度の体系	管理運営, 権利擁護のシステム
5) 社会保障制度の概要と諸問題①	社会手当, 年金保険制度(国民年金)
6) 社会保障制度の概要と諸問題②	年金保険(厚生年金)と公的年金をめぐる諸問題
7) 社会保障制度の概要と諸問題③	医療保険制度(健康保険, 国民健康保険)
8) 社会保障制度の概要と諸問題④	高齢者医療制度と医療保険制度の諸問題
9) 社会保障制度の概要と諸問題⑤	介護保険の理念および内容と諸問題
10) 社会保障制度の概要と諸問題⑥	労働保険の内容と諸問題
11) 民間保険	民間保険の原理と社会保険との関係性

12) 社会保障の現状と将来	社会保障給付費の動向と社会保障改革の方向性 (まとめ)
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい社会保障論講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験のみ(100%) (持込不可) で評価します(稀ですが受講態度を加味する場合があります)。試験では2題を選択して解答(記述式)していただきます。なお、試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って皆さん自身の見解をどれだけ論述できるかについて問います。詳しくはスクーリング時に示します。

■スクーリング時の教科書

教科書：旧教科書(阿部裕二責任編集『臨床に必要な社会保障』(弘文堂)、阿部裕二責任編集『社会保障』(弘文堂)および同第2版・3版)と現行教科書(阿部裕二責任編集『社会保障(第4版)』(弘文堂))は参考程度(スクーリング講義内容の肉付け)に使用します。スクーリング時には、前述のように資料集を中心にして講義を行います。したがって、旧教科書と現教科書のいずれをお持ちでも、不利益にならないように配慮しています。

■スクーリング事前学習

担当教員からの事前学習としての要望は次の一言です。

「スクーリング講義内容」に該当する箇所を教科書によってある程度読んで出席してください。つまり少ない講義回数の中、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこを書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えていますので、万一、事前学習なし(準備不足)の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎ去ってしまうかもしれません。

皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

公的扶助論 阿部 裕二

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

講義のテーマは、「豊かな社会における貧困の様相と生活保護の現状・課題」です。社会の基底的なセーフティ・ネットである生活保護の仕組みや現実、豊かさのなかに潜在化し、十分に知られているとはいえません。しかし、貧困が私たちの生活上に直面する共通な危険(リスク)の一つであるとすれば、貧困に対応する公的扶助(生活保護)は、年金や医療と同様に身近な制度ともいえるのです。

そこで本講義においては、拡大しつつある貧困概念(様相)を踏まえながら、生活保護の考え方(目的、原理、原則など)、制度の内容、そして現代社会における生活保護の課題について、受講生の皆さんとともに考えていきたいと思っております。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

講義の流れを項目として列記すると、以下のようになります。

テーマ	内容
1) 現代社会と公的扶助	貧困概念と貧困研究, 公的扶助の概念と歴史 生活保護法の目的, 基本原理, 原則 扶助の種類と内容・方法, 保護施設, 保護基準 行政組織・団体, 福祉事務所および専門職の役割 相談援助活動の枠組みと自立支援プログラム, ホームレス支援 柔構造, ラストセーフティネット・スプリング ボード
2) 生活保護制度の仕組み①	
3) 生活保護制度の仕組み②	
4) 生活保護の実施体制と近年の動向	
5) 生活保護における相談援助活動	
6) 豊かな社会の生活保護（まとめ）	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

スクーリング時には、作成した『理解しやすい公的扶助論講義資料集』を配付して、この資料集を中心にして講義を行います。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験のみ（100%）（持込不可）で評価します（稀ですが受講態度を加味する場合があります）。試験では2題を選択して解答（記述式）していただきます。なお、試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って皆さん自身の見解をどれだけ論述できるかについて問います。詳しくはスクーリング時に示します。

■スクーリング時の教科書

教科書：旧教科書（伊藤秀一責任編集『臨床に必要な公的扶助』（弘文堂）および伊藤修一責任編集『低所得者の支援と生活保護制度（初版および第2版）』（弘文堂））と現行教科書（伊藤秀一責任編集『低所得者の支援と生活保護制度（第3版）』（弘文堂））は参考程度（スクーリング講義内容の肉付け）に使用します。スクーリング時には、前述のように、この資料集を中心にして講義を行います。したがって、旧教科書と現教科書のいずれをお持ちでも、不利益にならないように配慮しています。

■スクーリング事前学習

担当教員からの事前学習としての要望は次の一言です。

「スクーリング講義内容」の項目に該当する部分を教科書によってある程度読んで出席してください。つまり、少ない講義回数なかで、少しでも内容の理解を深めるためには、予習・事前学習が欠かせません。もちろん、すべて完璧に覚えてきてくださいというわけではありません。受講した際に、「なんかその言葉は聞いたこと、見たことがあるぞ。なるほど、あそこに書いてあったことは、そういうことだったのか」という程度で結構です。

私としては、ある程度、予習・事前学習をされてきたことを前提として講義を進めたいと考えています。万一、事前学習なし（準備不足）の場合は、苦痛でしかも怒濤のように時間だけが過ぎてしまうかもしれません。

皆さんにとって、有意義な時間が共有できるように努めますし、同時に祈念しております。

公的扶助論（東京開講分）

下村 幸仁

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

わが国の社会は、長引く経済不況の影響により所得階層の二極化が進んでいます。社会保障制度の前提となる雇用に関しても、不安定な非正規雇用が増大しワーキングプア（働く貧困層）が著しく増加している状況です。こうしたなか、国民の生存権を保障した公的扶助制度の役割は大きいといえます。

本講義では、わが国の公的扶助制度である生活保護制度の目的、基本原理・原則、そして権利と義務等について学ぶとともに、誰もが安心して生活できるためのセーフティネット機能の在り方について考えていきます。

また、ホームレスなど社会的に排除されたマイノリティの人々に対する支援の仕方や平成27年度から本格実施される生活困窮者自立支援法や低所得者に対する支援方法についても学びます。

■到達目標

- 1) 貧困の原因を経済・社会との関連で説明できる。
- 2) 生活保護の理念と基本原理について解説できる。
- 3) 生活保護の権利と義務について実践的に活用できる。
- 4) 低所得者や生活困窮者に対する具体的な支援方法について理解して説明することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 貧困とはなにか	絶対的貧困と相対的貧困の違いについて学びます。
2) 生活保護の基本原理と原則	生活保護制度の目的、基本原理および原則について学びます。
3) 生活保護の扶助の種類と権利・義務、および不服申し立て	生活保護の8つの扶助の内容について触れるとともに、最低生活基準の構造および制度を維持していくための利用者の権利と義務について考えます。
4) 生活保護制度を担う専門職の現状と課題	生活保護業務を担当している現業員（ケースワーカー）や査察指導員（スーパーバイザー）の役割機能について理解します。
5) 低所得者対策と生活困窮者自立支援法	平成27年度から本格実施される生活困窮者自立支援制度の目的と各事業の内容について学びます。また、社会福祉協議会などの実施する低所得者対策やホームレス支援課の実際について学びます。
6) 公的扶助の歴史	イギリスの救貧法の歴史から公的扶助の必要性について考え、また日本の生活保護制度の変遷について学ぶ
7) スクーリング試験	第1回から6回までを通しての、公的扶助に関する基本的知識と生活保護制度に対するクリティカルな検討力を評価します。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料により講義を進める。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（自筆ノートのみ持込可）

■スクーリング時の教科書

伊藤秀一編『低所得者に対する支援と生活保護制度（第3版）』弘文堂

*教科書は初版または第2版でも可能です。

■スクーリング事前学習

事前に教科書に目を通しておいってください。

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉法学の科目は、社会福祉の仕事を行うにあたって必要とされる法学的な知識を、体系的に学ぶことを目的としています。社会福祉士・精神保健福祉士が権利擁護の役割を担うためには、相談援助業務と福祉に関する法との関連を理解する必要があります。憲法では、日本国憲法の中核である「個人の尊重」を踏まえて基本的人権を学んでいきます。民法では、紛争解決のために必要となる法原理を学んでいきます。成年後見制度では、判断能力が不十分な人々の生活全般の支援方法を学んでいきます。

このようにスクーリングでは福祉の現場で発生する多様な価値観の衝突に対して、社会福祉専門職としての法学的知識がどのような場面で、どの程度の活用ができるかという問題に対して、権利擁護と成年後見制度の視点から具体的に学んでいきます。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 福祉法学の基本原理 2) 基本的人権と判例 3) 民法の基本原則 4) 成年後見制度の全体像 5) 成年後見制度の現状と課題 6) まとめ 7) スクーリング試験	福祉と個人の尊重の意義について 社会権に関する判例について 総則・物権・債権、家族法の意義について 後見・保佐・補助の各意義について 成年後見制度の現実的な問題点について

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング時の教科書

平成24年度以降配付の教科書『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』『更生保護制度（南窓社）』の所持が必要です。

■スクーリング事前学習

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

◆福祉法学 菅原 好秀

講義

「★■福祉法学」(p.118)と「★■更生保護制度論」(p.141~142)をご参照ください。

※「★■福祉法学」と「★■更生保護制度論」の2科目の合併授業のため、スクーリング中2回の試験が実施されます。

福祉社会学 赤塚 俊治

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

受講生は、現代社会における社会問題はどのような要因によって生起するのかを自分自身の問題として捉え、さらには、人々の暮らしに関する実態を常に関心を持ちながら社会との関係性について学んでもらいたいと思います。また、「2025年問題」に伴い後期高齢者の増加が予想される中で、介護問題や社会保障制度の問題を理解するだけではなく、重要なのは人々の日常生活を実証的に学ぶことです。

■到達目標

『レポート課題集A(社福・精保指定科目編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 福祉社会学とは何か	連字符社会学と社会変動(生活問題・社会福祉)
2) 現代社会と社会病理現象	精神的貧困, ストレス性疾患, 孤独死(無縁社会)
3) 社会学者と理論	「社会」の存在に対する捉え方
4) 社会システムとは何か	A G I L図式(T. パーソンズ)など
5) 人と社会の関係①	社会集団と組織(集団の概念など)
6) 人と社会の関係②	社会的行為, 自殺, 社会的役割および相互行為
7) 生活の理解①	家族とは何か(家族機能の変容と個人主義の多様化)
8) 生活の理解②	現代家族の構造と機能と家族意識の変化
9) 障害者総合支援法と社会	家事の外部化, ケアの外部化
10) 地域	地域社会の変容と諸問題
11) 現代社会の理解	社会問題の理解と「豊かさ」
12) まとめ	福祉社会学から捉えた社会福祉の展望
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料にもとづいて講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング評価の基準

授業への出席状況20%+スクーリング試験80%で評価する。スクーリング試験は教科書、配付資料を持込可とする。

■スクーリング時の教科書

『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム』中央法規出版(最新版でなくても)

可), は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書は、全ページを読んでください。用語や言葉の意味を理解することよりも、一度、教科書を読んでおくとスクーリング時において授業に入りやすくなります。また、普段から社会の動向に目を向けながら、人間社会の諸問題について考えてください。また、社会学に関する基礎的な参考書を読むことを勧めます。

■スクーリング事後学習

福祉社会学の基本領域である「個人」「集団」「社会」をキーワードにしなが、授業内容のなかでも関心のあるテーマについては「私」生活をヒントに学習を深めてください。

福祉心理学 渡部 純夫

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

「福祉心理学」をどのように活用すれば、人々の幸福感が高まり、生活の質の向上につながる事が出来るのかを学びます。そのためには、「心理学」の考え方が必要になります。「心理学」を日常生活にどのように応用させればよいかを、自分なりの創造性を駆使して考えられるようにして下さい。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）・C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 高齢者の生きがい	社会的生きがい, 反社会的生きがい, 思い出 言語的知能, 動作的知能 徘徊, 異食, 暴力, 性の逸脱 「福祉心理学」の視点と対応の仕方 性と生・死との結びつき
2) 知能	
3) 認知症の問題行動	
4) 問題行動への対応	
5) 高齢者の性	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

高齢者の個々の幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況(20%) + スクーリング試験(80% : 持込不可)

■スクーリング時の教科書

教科書『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

★**■医学一般** 井手 貴治

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉関連の職種で将来必要となる、正常な人体の基本的な構造と機能、身近な疾病（生活習慣病など）、高齢者の特徴と高齢者に多い疾患などについて理解することを学習目標とします。また、講義では国家試験問題やその類題の解説なども行う予定です。

■到達目標

- 1) 正常な人体の構造と機能を説明できる。
- 2) 主な生活習慣病の特徴を説明できる。
- 3) 人体の生体防御（免疫）の仕組みを説明できる。
- 4) 主な感染症の特徴を説明できる。
- 5) 高齢者の身体的特徴や高齢者に多い疾患を説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) 身体の成長・発達	身体と精神の成長と発達，老化 細胞と組織，水分と脱水，血液，循環，呼吸， 消化 泌尿器，神経，内分泌，運動器，感覚器，免疫系 生活習慣病と未病，脳血管疾患，心疾患など 障害，リハビリテーションの概要
2) 身体構造と心身の機能①	
3) 身体構造と心身の機能②	
4) 疾病の概要	
5) 障害とリハビリテーション	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料も用いながら、講義を進める。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込不可）

■スクーリング時の教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病（第3版）』中央法規出版，2015年（旧版を所持でも可）

■スクーリング事前学習

事前に教科書に目を通して、用語に慣れておいてください。

★**■医学一般（東京開講分）** 城戸 裕子

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークにおいては、ケアマネジメント、多職種連携、コーディネーター等の多岐な活動が期待されている。なかでも医療職種との連携強化は必要不可欠である。

そのため、人体の構造や機能、日常生活で遭遇する疾患や障害、リハビリテーションについて医学に関する基礎知識を学び、理解することを学習の目的とする。

■到達目標

- 1) 人体の構造と機能を理解し、それらを言語化（説明）できる。
- 2) わが国における死亡率と罹患率等の統計的推移について現状と課題を言語化（説明）できる。
- 3) 各年代に特有の疾患の特徴を理解し、言語化（説明）できる。
- 4) 障害やリハビリテーションについて、ICFの視点から言語化（説明）できる。
- 5) 我が国の保健医療の現状から課題とその解決施策について述べることができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 人体の構造と機能	身体の成長・発達・老化について 身体部位の名称と器官の構造・働き 生活習慣病・脳血管疾患・悪性新生物・心疾患・認知症など 内分泌系・消化器系・呼吸器系・感染症など 障害とリハビリテーション
2) 身体構造と心身機能	
3) 疾患の理解①	
4) 疾患の理解②	
5) 疾患の理解③	
6) 健康のとらえ方と医療保健に関する制度政策	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

講義を中心とする。テキストをベースに進めるが、その都度、資料を配付して「人の体の仕組み」について理解が深まるような一歩進んだ講義にしたいと考えている。

■スクーリング評価の基準

講義参加度（30％）＋スクーリング試験（70％）（持込不可）

試験は、講義内容の全範囲から出題し、特に人体の構造と機能、疾患の特徴をはじめ、わが国の保健医療の動向等についての理解を問う。

■スクーリング時の教科書

教科書『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病（第3版）』を基本に進めることから持参が望ましい（旧版を所持でも可）。尚、教員作成の資料配付を行う。

■スクーリング事前学習

人体の構造や疾病については医学用語が用いられることが多い。また、教科書『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病（第3版）』（または旧版）を基本に進めることから事前に目を通してほしい。『国民衛生の動向 2014/2015』にも目を通してほしい。

■参考図書

『国民衛生の動向 2014/2015』厚生労働統計協会

◆医学一般 井手 貴治・城戸 裕子・佐藤 英仁・山本 邦男 ————— 講義

- 「★■医学一般」（p.121～122）と「★■保健医療サービス論」（p.127～129）をご参照ください。
※「★■保健医療サービス論」の教科書の所持が必要となります。
※「★■医学一般」と「★■保健医療サービス論」の2科目の合併授業のため、スクーリング中2回の試験が実施されます。

★■福祉行財政と福祉計画・◆福祉計画法 佐藤 英仁 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉行財政では、国・都道府県・市町村の役割や国と地方との関係に留意しながら社会福祉行政の実施体制を学びます。また、国と地方における財政のポイントを整理しながら、福祉財政の現状や動向を見ていきます。福祉計画では、福祉計画の意義や目的を理解しながら、具体的な福祉計画（地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画、障害者計画、障害福祉計画および次世代育成支援行動計画）の内容や特徴について学びます。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 福祉行政の組織	国の役割と組織および地方自治体の組織 国の財政の現状と社会保障関係費の現状 地方自治体の財政の現状と民生費の現状 市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画の概要と相違点
2) 国の福祉財政	
3) 地方自治体の福祉財政	
4) 地域福祉計画の概要	
5) 老人福祉計画の概要	ゴールドプラン策定の歴史および市町村老人福祉計画と都道府県老人福祉計画の概要と相違点
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。講義中表示したパワーポイントのスライドはすべて配付します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%＋スクーリング試験80%（持込すべて可）

*試験はマークシートによる択一式にて実施します。

■スクーリング時の教科書

必要な資料はすべて配付しますが、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉養成講座 10 福祉行財政と福祉計画（第4版）』中央法規出版、2014年（または旧版）は参考になります。

■スクーリング事前学習

財政に関する用語、①一般会計、②特別会計、③本予算、④暫定予算、⑤補正予算について調べておいてください。

自分の出身市町村の財政の現状を可能な範囲で見えておいてください。

障害者福祉論 横山 英史 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

受講生の皆さんは、実践に携わってられる方、福祉分野に関して学び始めたばかりの方、など様々だと思います。スクーリングを通じて「障害者」分野の問題を少しでも身近にとらえ、ご自

分なりの考えが深められるようになることを目指します。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) イントロダクション	障害とは一表記、捉え方について 国際障害分類（ICIDH）、国際生活機能分類（ICF）を中心に ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンなど 障害者福祉の歴史、福祉制度の推移 法の目的、成立の背景、介護給付、訓練等給付 自立支援医療、補装具、日常生活用具、地域生活支援事業 優生思想、社会防衛思想、差別、虐待について 手帳制度、専門職について 1. 保健、医療 2. 教育 3. 雇用、就労 4. 所得保障 5. 生活環境の改善 自立（律）の定義、領域、支援の在り方、自立生活センター（CIL）
2) 障害の構造的な理解	
3) 障害者福祉の理念	
4) 障害者福祉の変遷	
5) 障害者総合支援法に基づく福祉サービス①	
6) 障害者総合支援法に基づく福祉サービス②	
7) 障害者福祉、人権と対立する思想	
8) 障害者施策の概要	
9) 関連施策の概要①	
10) 関連施策の概要②	
11) 自立（律）生活について	
12) 講義のまとめ 質疑応答	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとに講義を進めます。途中、障がい当事者にゲストスピーカーとして話をいただく時間を設けます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況、提出物（スクーリング時に作成のレポート）など…20～30%

スクーリング試験 …70～80%

（持込：教科書・ノート可）ただし、教科書、資料の丸写しではなく、ご自分なりの考察に基づき答案を作成してください。

試験では、単なる知識の確認だけでなく、スクーリングで学んだことや、これまでの実践、様々な体験（身近な例など）を関連づけ、自分の考えをどれだけ説得力をもって述べられているかといった点をふまえ、評価を行います。

■スクーリング時の教科書

『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版（最新版でなくても可）、は必ず持参してください。

『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』弘文堂、は参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』弘文堂を所持している方は「序章 障害者福祉の理念」を読んだ上で、障害当事者にとってどのような生活の実

現が求められるのか、ご自分なりに検討なさってください。

障害者福祉論（新潟開講分）

関川 伸哉

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉法の制定により、地域福祉がはじめて法的に位置付けられ、地域福祉の考え方が明示された。わが国の障害者（身体・知的・精神：手帳保持者）総数は、744.3万人（増加傾向）と推定され、約93%は在宅で生活を行っている。そうした中、障害児・者が、自立・自律した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域（市町村）の特性や個々の状況に応じ、様々な障害種別に対応できる身近な相談支援体制（自立・自律支援）の構築が必要とされる。一方、理念としての「地域福祉の推進・自立支援」と実体は、明らかに乖離している。本論では、「人と環境の相互作用」に着眼し、個の障害に着目するのではなく、環境が生み出す障害について事例をもとに考える。

本講義では、上記をふまえて法的にみた「障害者とは？」といった基本的なところから解説する。一連の講義を通して障害者および障害者福祉を理解する上での基本的知識や支援のあり方を習得していただきたい。また、近代社会の基本的価値と障害者福祉に携わる人々のあり方も考えていきたい。

■到達目標

- 1) 障害者福祉に関する基本的理念について解説することができる。
- 2) 障害者福祉の歴史的展開と今後について解説することができる。
- 3) 障害者総合支援法について説明できる。
- 4) ICFを用いた臨床応用の基本について説明できる。
- 5) 保健医療福祉と障害者福祉の関連性について解説することができる。
- 6) 福祉専門職としての多職種連携の重要性と方法について解説することができる。
- 7) 福祉専門職としての障害者支援の価値・倫理・専門性について解説することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) はじめに（学びにあたって）	わが国の障害者の現状、近代社会の基本的価値と障害者
2) 障害者福祉とは（理念を含む）①	障害とは何を意味するのか、障害者福祉の基本理念
3) 障害者福祉とは（理念を含む）②	普遍的人間理解、自立と自律
4) 障害種別（障害者基本法含む）①	障害者基本法と3障害、各種障害者の定義
5) 障害種別（障害者基本法含む）②	各種障害者の現状、地域生活の実現に向けて
6) 障害者福祉の基本にあるもの	リハビリテーション、インクルージョン
7) 障害の概念と理念	事例から学ぶ、国際生活機能分類
8) 障害者総合支援法（法的制度を含む）	障害者福祉の歴史、各種制度
9) 障害者・児の実態	地域生活、就労支援
10) 障害者施策の体系	事例から学ぶ、各種制度と役割
11) 障害者福祉サービス	地域福祉、自立支援
12) まとめ及び質疑応答	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（指定の資料持込可）。試験では、スクーリング時に話した内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

教科書は、参考程度に使用します。

当日、必要資料を配付します。

■スクーリング事前学習

「障害者福祉の歴史」及び「障害とは何？」について予習しておいて下さい。

障害者福祉論（東京開講分）

小佐々典靖

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

現在、障害者への理解が十分であるとはいえない状況が続いています。本講義で取り上げる内容や事例を通じ、障害者の生活実態や福祉・介護需要（地域移行や就労実態を含む）の実態を知り、社会福祉士を代表とする社会福祉専門職が果たすべき役割とは何かを学んでください。また、障害者支援の基礎となる法制度なども同時に習得してください。

■到達目標

- 1) 「障害とは何か」という問いに対し、自分自身の見解をまとめて述べることができる。
- 2) 障害者福祉の歴史と現在の法制度の概要を説明することができる。
- 3) 障害者支援の実態を理解し、具体例（事例）を挙げて説明することができる。
- 4) 障害者福祉における社会福祉士の役割を説明することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 障害者福祉はなぜ必要か	障害者の生活実態と社会情勢
2) 障害者福祉の制度と歴史	障害者総合支援法と福祉関連法規の関係
3) 障害者に対する支援の実際	支給決定プロセスの仕組み
4) 事例を用いた討議①	働きたい障害者への支援に焦点を当てて
5) 障害者福祉における社会資源の活用	どのような社会資源が活用可能か
6) 地域にある社会資源と障害者支援	社会資源を用いた支援の実際
7) 事例を用いた討議②	障害者ケアマネジメントの実際
8) 障害者総合支援法における専門職の役割と実際	社会福祉士の役割を中心に
9) 障害者総合支援法における多職種連携の実際	専門職の役割と限界
10) 事例を用いた討議③	障害者支援場面における専門職連携
11) 障害者福祉の今後の展望	「障害」の概念と国際情勢
12) 全体のまとめと質疑応答	

13) スクーリング試験

■講義の進め方

パワーポイント（資料として配付）を使用して講義を進める。グループディスカッションや質疑応答も交える。

■スクーリング評価の基準

授業（グループディスカッション・質疑応答など）への参加状況	50%
スクーリング試験（以下を参照）	50%

- ・スクーリング試験には、すべての資料・教科書等の持込を可とします。
- ・社会福祉士国家試験に準ずる問題（選択式）と論述形式の問題を出題します。
- ・論述問題のうち、少なくとも1つは、上記の到達目標のいずれかから出題する予定です。

■スクーリング時の教科書

- ・基本的には、当日配付する授業資料を使用します。
- ・教科書『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版、を解説時に使用します。第5版が最新（2015年3月時点）ですが、手元に無い場合には旧版でもかまいません。また、これに準ずる他のテキストを持参してもかまいません。

■スクーリング事前学習

- ・上記の教科書を通読しておくことが望ましいですが、少なくとも第3章と第4章には目を通しておいてください。
- ・ディスカッションが多いので、体調を万全にして参加してください。

■参考図書

佐藤久夫・小澤温『障害者福祉の世界 第4版補訂版』有斐閣アルマ、2013年

★■保健医療サービス論 佐藤 英仁 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

医療は私たちに非常に身近であり、誰にでも必要なものですが、意外と知られていないことも多いのが現状です。例えば、「病院と診療所はどう違うのか」、「出産したときにもらえるお金はいくらか」などについて自信を持って回答できるでしょうか。講義ではそのような身近な疑問に答えられるように、さまざまな医療・保健分野の仕組みについて学びます。なお、この分野では近年さまざまな制度変更がなされていますが、本講義では、最新データや制度変更にも対応します。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 保健医療サービスにおける専門職	業務独占と名称独占の解説および医師、看護師等の仕事の概要

2) 医療施設の機能と類型	病院と診療所および地域医療支援病院と特定機能病院の概要と相違点 診療報酬制度の解説と近年の改定の特徴 医療保険の種類および高額療養費や出産育児一時金等の解説 国民医療費の概要と現状、推移
3) 診療報酬制度の概要	
4) 医療保険制度の概要	
5) 国民医療費の動向	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。講義中表示したパワーポイントのスライドはすべて配付します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%+スクーリング試験80%（持込すべて可）

*試験はマークシートによる択一式にて実施します。

■スクーリング時の教科書

必要な資料はすべて配付しますが、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉養成講座 17 保健医療サービス（第4版）』中央法規出版、2014年（または旧版）は参考になります。

■スクーリング事前学習

教科書（第4版以前のものでも可）の第5章第1節を事前に読んできてください

★■保健医療サービス論（東京・新潟開講分） 山本 邦男 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

MSWは「保健医療サービスにおいて生活相談・援助を行う社会福祉士」と定義されています。そこで重要なのは保健医療サービス全般の知識と利用者の権利、主体性を尊重するMSWとしての基本的姿勢を学ぶことです。その上でMSWがフィールドとする保健、福祉関連専門職種や地域関係機関との連携に関する実践の知識、支援の技術です。さらに重要視される在宅療養、退院支援等新たな分野について学習を深めて下さい。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 保健医療サービスの変化と専門職の役割	歴史と人、もの、かね等の構成要素を学ぶ
2) 保健医療サービス提供施設とシステム	関連する法律、施設、制度の概要を把握
3) MSWと他専門職の役割を知る	MSWの業務と周辺領域専門職の知識を広げる
4) 医療保険と介護保険制度等の知識	MSWの中核的社会資源知識を習得
5) 保健医療における連携の事例と知識	医療から地域へ、自宅へ、介護への連携
6) 本講義のまとめとレポート記述の助言	重要キーワードの解説とレポートの基礎知識
7) スクーリング試験	試験問題25問

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況10%+スクーリング試験90%（持込不可）講義で資料配布の上、十分解説します。

○×式で25問、到達目標、各関連キーワードの理解を試験します。

■スクーリング時の教科書

教科書『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』（最新版でなくても可）とスライドを用いて講義。

■スクーリング事前学習

下記に関連するキーワードを中心に基礎的学習を行ってください。

試験は教科書を中心として出題します。医療法や介護保険法関連の施設類型とサービスの概要、地域包括支援センターと連携、MSWの業務と関連専門職種の概要、医療と介護保険制度等のキーワードを教科書を読んでしっかり学習すること。

★社会福祉援助技術総論 佐藤 博彦

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

「利用者主体」「自立支援」「利用者利益の最優先」を原則とした、専門職としての相談援助とは何か、ソーシャルワークとは何かを本講義では考えていきたいと思えます。

現代社会の複雑化する地域生活の中で、支援を必要としている人々のニーズも、年々多様化・複雑化してきています。人々が抱えている生活課題を解決するための相談援助とはどのようにあるべきなのでしょうか。一緒に考えてみたいと思えます。

ソーシャルワークの歴史・意義・価値等を踏まえた上で、相談援助の専門職であるソーシャル・ワーカー（社会福祉士）の活動について、具体的な実践例を紹介しながら、「利用者主体」「自立支援」「利用者利益の最優先」の理念に基づいた、ソーシャルワーク実践の重要性を考えていきたいと思えます。ソーシャルワークとは、社会福祉士とは、専門的相談援助とはなにか、を明らかにしていきたいと思えます。

教科書は、よく読んで出席してください。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義	法改正の背景・社会福祉士の定義と専門性・精神保健福祉士の定義と専門性
2) 相談援助の定義と構成要素	ソーシャルワークの概念（IFSWの定義等）・ソーシャルワークの構成要素（クライアントシステム、社会資源等）
3) ソーシャルワークの形成過程①	ソーシャルワークの源流～1930年代
4) ソーシャルワークの形成過程②	1940年代～現代

5) ソーシャルワークの理念①	価値や権利擁護の概念について 自己決定・社会的包摂等 専門職倫理の概念等 地域を基盤とする活動の重要性 ジェネラリスト・ソーシャルワーク 成立要件・実践範囲
6) ソーシャルワークの理念②	
7) 倫理的ジレンマ	
8) 包括的相談援助の全体像	
9) 包括的相談援助を支える理論	
10) ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲	
11) ソーシャルワークにおける専門的機能	
12) 質疑応答	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めていきます。また、社会福祉士の実践例を紹介しその解説を行います。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可：ただし、電子機器類・携帯電話は不可）

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえた上で、試験テーマに沿って自分自身の考えをいかに膨らませながら論述できるかということも評価内容に含めます。用語の解説だけにならないようにしてください。

■スクーリング時の教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版 を使用します。初版～第3版どれでも構いません。必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

ソーシャル・ワーカー（相談援助専門職）とはどのような人のことを指しているのか。また、どのような実践をしている人たちなのか。考えてきてください。

★■社会福祉援助技術論A 川口 正義

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、ソーシャルワークがどのような考え方に基づいて組み立てられているのか。またその支援対象である「人」「問題」「状況」に対し、どのようにかわるのか。その理論と方法について学びたいと思います。そして、その学びを通して、支援を必要とする当事者（利用者）の存在とその呈する生活課題（日常生活世界）を“ソーシャルワーカーらしく考える”とは、どのような視点とスタンスを有する営みであるのか、自問していただきたいと思います。

さらに、スクーリングでの学びが学生の方一人ひとりにとっての「ソーシャルワーカー・アイデンティティ」と「援助観」の構築へとつながる一契機となり得たらと願っています。そのためスクーリングでは、具体的事例の紹介や学生の皆さんとの双方向の意見交換なども行いつつ、一緒に学びの時間を創っていきたいと思っています。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉, ソーシャルワークを取り巻く社会状況	新しい貧困, 専門職による不適切なかかわり
2) 相談援助の概念・構造・機能	定義, 構成要素, 価値と倫理
3) 相談援助における援助関係	概念, 援助関係のあり方
4) 相談援助の展開過程	展開過程の流れ
5) 相談援助に必要な各種技術	意義, 目的, 方法, 留意点
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。途中でワークも行います。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50% (持込はすべて不可)

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング時の教科書

・以下の教科書は必ず持参してください。

- 1) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法 I (第3版)』中央法規出版, 2015年 (最新版でなくても可)
- 2) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法 II (第3版)』中央法規出版, 2015年 (最新版でなくても可)

・スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

■スクーリング事前学習

テキストは各章とも具体的事例を例示、検討するスタイルで理論と方法について記述されています。ソーシャルワークとソーシャルワーカーに対するイメージを構築するうえで参考となるでしょう。テキストを通読され、自らの有するイメージを整理されたうえでスクーリングに参加されることをお勧めします。

★■社会福祉援助技術論B 川口 正義

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

※「社会福祉援助技術論A」の項を参照。

■到達目標

『レポート課題集A (社福・精保指定科目編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 相談援助における対象の理解	社会福祉における対象論

2) さまざまな実践モデルとアプローチ	援助観の変遷, 実践モデルの内容, 構成主義アプローチ, EBSW グループの活用, ケースマネジメント, コーディネーションとネットワーキング, 社会資源の活用・調整・開発 スーパービジョン, ケースカンファレンス, 事例研究, 構築に際して必要な視点, 姿勢
3) 相談援助に必要な技術①	
4) 相談援助に必要な技術②	
5) ソーシャルワーカー・アイデンティティの構築に向けて	
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

※「社会福祉援助技術論A」の項を参照。

■スクーリング評価の基準

※「社会福祉援助技術論A」の項を参照。

■スクーリング時の教科書

※「社会福祉援助技術論A」の項を参照。

■スクーリング事前学習

※「社会福祉援助技術論A」の項を参照。

★■社会調査の基礎・◆社会福祉援助技術論Ⅱ 三浦 剛 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・社会福祉調査の意義と目的
- ・統計法, 社会調査における倫理や個人情報保護
- ・統計的方法の基礎
- ・量的調査の方法
- ・質的調査の方法

■到達目標

『レポート課題集A(社福・精保指定科目編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉調査の歴史と意義, 今日的な目的	貧困調査, 根拠にもとづくソーシャルワーク(EBSW)
2) 統計法と社会福祉調査における倫理	統計法, 個人情報保護法
3) 量的調査の方法①	調査の設計, 調査票の作成
4) 量的調査の方法②	統計分析の基礎
5) 質的調査の方法	KJ法, グループインタビュー法, 質的データ分析の基礎
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料（プリント）を中心に講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（自筆ノート、プリントのみ持込可）

■スクーリング時の教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎（第3版）』中央法規出版、（第2版所持でも可）、およびそれに準拠したプリントをスクーリング時に配付します。

■スクーリング事前学習

テキストの量的調査の方法、質的調査の方法の章を一読しておくこと。

★■福祉経営論・◆福祉施設管理論 高橋 誠一 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

福祉サービスの特質を理解した上で、福祉サービスを提供する法人形態を営利、非営利を含め、多面的に理解する。福祉サービス提供組織として利用者をどのように支援していくのか、そのための組織のあり方を学ぶ。利用者に直接関わる職員、職員を支援する管理機能の役割を人事システム、労務管理の視点も含めて理解する。会計の仕組みを理解する。

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) 福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスと制度
2) 福祉サービスにかかわる組織や団体	法人一般、社会福祉法人、特定非営利活動法人、その他の組織や団体
3) 福祉サービスの組織と経営の基礎理論	戦略、事業計画、集団の力学、リーダーシップ
4) 福祉サービスの管理運営の方法（人事等）	サービスマネジメント、サービスの質の評価、人事労務管理、人材育成
5) 福祉サービスの管理運営の方法（会計等）	会計管理と財務管理
6) 質疑応答	補足とまとめ
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング時の教科書

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営』中央法規出版（最新版でなくても可）、を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリングで学んでほしいこと

制度や政策の内容を、テキストをとおし学ぶことも大切ですが、なによりも対象者となる高齢者（人間）の福祉、すなわち高齢者の「人権・尊厳・自立とはどのようにあるべきなのか」について、受講者の皆様ひとりひとりが感じ考えていただきながら、高齢者福祉の捉え方、その際に必要な視点について、学んでいただきたいと考えております。

なぜなら、高齢者の方々の人権・尊厳・自立のあるべき姿についての学ぶことは、結果、私たちの親を含めた自身の将来、そして、子どもたちの将来にも通ずる大切な学びであると考えます。

具体的な講義の内容については、高齢者の方々を抱える生活上の諸問題について、視聴覚教材を中心に、その現状理解を図っていただくとともに、実践事例の紹介を交えながら、高齢者福祉の現状と課題、改善策、今後のあるべき姿について、受講生の皆さんと共に感じ考えることのできる、スクーリングにしたいと考えております。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 高齢者福祉の捉え方	福祉を一本の木の成長に例え 寿で暮らす高齢者から 自立を目指す知的障害を有する高齢者から 高齢者の虐待から 地域福祉の視点から
2) 高齢者の尊厳についてⅠ	
3) 高齢者の尊厳についてⅡ	
4) 高齢者の尊厳についてⅢ	
5) これからの高齢者福祉の方向性について	
6) まとめ	
7) 試験	

■講義の進め方

視聴覚教材とOHPを中心に、配付資料にそって講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（レポート形式）：持込可

■スクーリング時の教科書

『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版（最新版でなくても可）を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

（予習すべき内容）

- 1) 教科書『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』第6章「介護保険の仕組み」第1節「要介護認定の仕組みとプロセス」は読んでください。
- 2) 講義内容の関心のあるテーマについて、自身が学びたいことを考えておいてください。

■スクーリング事後学習

- 1) 講義内容で関心を持った内容については、あくまでも自主的なものではありませんが、文献や他の視聴覚教材などから学びを深めてください。

2) 講義で学んだ内容が実践に反映できるとするならば、可能な限り実践に応用してください。

★■高齢者福祉論（仙台3月開講分） 石附 敬 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

本講義は、①老いについての理解と、②高齢者福祉に関する制度の理解の2つの柱で構成します。前半では、ライフコースの視点から老いというものを自身の身近な問題として考えていきます。後半では、介護を中心とした高齢期の生活課題に対応した制度体系について理解していきます。

■到達目標

- 1) 高齢期の特徴を説明できる。
- 2) 高齢者保健福祉制度の発展過程について説明できる。
- 3) 介護保険制度とサービスの体系について説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) 老いについて①	社会的な老い 心と身体の老い 少子高齢社会、健康・介護・経済・生活意識等 戦後から介護保険制度の成立まで 制度概要、サービス体系、事例検討
2) 老いについて②	
3) 高齢者を取り巻く諸問題	
4) 高齢者保健福祉の発展	
5) 介護保険制度とサービス体系	
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント、配付資料、教科書をもとに講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験のみ（持込全て可）。※スクーリング講義で説明した内容について理解を問います。

■スクーリング時の教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度（第4版）』中央法規出版、2015年（旧版でも可）を持参してください。

■スクーリング事前・事後学習

教科書の講義テーマに関係する箇所を事前に読んで、自分なりに学びたいことを考えてきてください。受講後は、体系的に知識を整理することと、それぞれの関心のあるテーマについて、書籍、論文、新聞記事など読み学びを深めてください。

■スクーリングで学んでほしいこと

少子高齢社会が進展するわが国で、高齢者を取り巻く環境や生活にどのような諸問題や課題があるのかを確認し、高齢者を支えている制度の1つとしての介護保険制度を中心に、高齢者支援の関連法規やまた高齢者を支えるには他職種で連携・協働しながら支援する必要があることを理解してもらいたい。さらに、私自身の今までの社会福祉士としての実践を通して、社会福祉士としての知識や技術のみならず、倫理観や価値観を伝えていけたらと思っております。

■到達目標

- 1) わが国の高齢社会の現状や課題とそれに対する施策を説明できる。
- 2) 介護保険制度の体系、目的やサービス種類と内容、利用までの流れを説明できる。
- 3) 高齢者を支えるための専門職の役割を理解し、他職種連携・協働を説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) 少子高齢社会と高齢者	高齢社会の現状・高齢者保健福祉の発展 老人福祉法・高齢者虐待防止法等 介護保険制度の体系、目的 サービス種類と内容、利用の流れ 専門職の役割と他職種連携・協働
2) 高齢者支援の関係法規	
3) 介護保険制度①	
4) 介護保険制度②	
5) 高齢者を支援する組織と役割、方法	
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料、教科書をもとに講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況30%+スクーリング試験70%（持込すべて可）

※試験は国家試験過去問題の中から改変して出題予定

試験では、とくに「到達目標」に記載の内容について評価を問います。

■スクーリング時の教科書

『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』（中央法規出版）は必ず持参してください。なお、第4版以前のものでも可能とする。

■スクーリング事前学習

高齢者の特徴や現状を、自分なりに考えてスクーリングに参加してください。

◆高齢者福祉論

中里 仁・石附 敬・小森弘道・後藤美恵子

講義

受講する組合せにより、「★■高齢者福祉論」（p. 134～136）と「★■介護概論」（p. 137をご参照ください。

※「★■高齢者福祉論」と「★■介護概論」の2科目の合併授業のため、スクーリング中2回の試験が実施されます。

★■介護概論 後藤美恵子

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

わが国における高齢化社会における介護の社会的背景を理解し、現代社会における高齢者の人生を支える上での重要となる介護の概念、さらに、社会福祉の基本理念を踏まえた上で、人としての尊厳を重視した高齢期の生活支援のあり方についての理解を深化させ、介護とは何か、その本質を再考する。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会的背景	介護の社会的背景
2) 介護の概念	介護の概念と生活支援
3) 介護の専門性	介護の範囲と専門性
4) 介護過程	ケアマネジメントにおける介護過程
5) 認知症高齢者	認知症高齢者の理解と支援
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料をもとに講義を進める。

■スクーリング評価の基準

- ・授業への参加状況20%+スクーリング試験80%（持込可）
- ・試験は単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験課題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング時の教科書

教科書『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度（第4版）』（旧版でも可）を参考程度に使用します。

※テキストを持っていない場合でも受講において支障はありません。

■スクーリング事前学習

テキスト『高齢者に対する支援と介護保険制度』の第1章「高齢者の特性」の中の第1節「高齢者の社会的理解」・第3節「高齢者の精神的理解」、第2章「少子高齢社会と高齢者」、第11章「介護の概念や対象」、第12章「介護過程」、第14章「介護各論②」の中の第1節「認知症ケア」をスクーリングの受講する前に読んでおいてください。

児童（・家庭）福祉論（仙台・盛岡開講分）

君島 昌志

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 児童・家庭福祉は福祉分野では最も長い歴史があること、しかし、人権や権利の歴史はまだ短いこと。
- 2) 子どもだけでなく家庭への支援が求められていること。

3) 児童福祉分野だけでなく関連分野の理解が必要であること。

■到達目標

- 1) 児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭施策の全体像を説明できる。
- 2) 多岐にわたる児童に関する法律や制度を把握し、社会福祉援助技術につながる知識の基礎を活かすことができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 児童・家庭の生活実態と社会情勢	貧困家庭の児童、児童虐待対応の現状、少子化による諸問題
2) 少子化問題と次世代育成支援	少子高齢社会の現状とその対応、次世代育成支援の取り組み
3) 児童福祉の歴史	戦前の児童保護の時代から戦後の児童福祉の展開
4) 児童の権利保障	児童の人権保護と権利擁護の史的展開
5) 児童福祉の法制度①	児童福祉法の概要
6) 児童福祉の法制度②	組織、多様な施策、サービス等
7) 児童福祉の法制度③	児童虐待の理解と防止対策
8) 児童福祉の法制度④	ドメスティックバイオレンス
9) 児童福祉の法制度⑤	ひとり親家庭、貧困対策
10) 児童福祉の法制度⑥	障害児、母子保健
11) 児童福祉の法制度⑦	児童相談所の対応
12) 児童福祉の法制度⑧	社会的養護
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料も用いながら、講義を進める。途中DVDも視聴する。

■スクーリング評価の基準

授業の最終日に試験（持込可）を行う。（授業の最終日に行うスクーリング試験100%で評価する。）試験の形式は論述式、出題範囲は授業内容すべて。

■スクーリング時の教科書

参考文献として、千葉喜久也『児童・家庭福祉論』みらい（最新版でなくても可）、を持参のこと。また、当日、レジュメを配付する。

■スクーリング事前学習

教科書は一通り目を通して授業に臨んでください。

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

児童（・家庭）福祉論（札幌開講分）

渡辺 憲介

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

近年の家族形態や社会構造の変化に伴い、特に核家族化・ひとり親家庭など家族の形態に変化が生じてきています。家族が地域から孤立等により家庭内の子育てに大きな変化が生じてきている中で子どもを取り巻く様々な問題が生じてきています。この講義では、

- ①最近の子どもや家庭を取り巻く環境について理解する。
- ②その中で起きてくる子どもたちの様々な問題について理解する。
- ③様々な問題に対応する児童相談所や市町村の対応と機能について理解する。
- ④社会的養護としての児童福祉施設・里親について理解する。

等について解説と考察を行います。地域共同体や家族共同体が脆弱化している現代社会において子育ての責任を家族だけに押し付けるのではなく地域の中にある様々な社会資源・専門機関等との連携を取りながらの子育て支援をしていく大切さを一緒に考えてみます。

■到達目標

- 1) 子ども達が生活している地域社会で起きている様々な問題等について理解し原因等について説明できる。
- 2) 児童福祉の法体系を理解し、法体系の仕組みの中で行われている実際の諸政策について説明できる。
- 3) 児童福祉施設の機能と役割・子どもの権利擁護の保障について理解し、児童福祉施設の現場で行われている実践内容について説明できる。
- 4) 保育制度、里親制度について説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 子育て環境をめぐる現状	子ども達が生活する上での様々な問題 子どもの権利条約採択までの子どもの権利の歴史 苦情解決・第三者評価・自己評価 児童家庭福祉の法体系と実施機関 養護系・問題行動系施設を中心に 児童家庭福祉に従事する専門職 児童虐待が起こる背景と制度施策 親権喪失宣言と親権一部停止制度 里親の法制度と児童委託 保育所の役割・機能と保育にかかわる施策 児童相談所の機能と市町村の役割 少子化に伴う様々な対策
2) 子どもの権利について	
3) 子どもの権利擁護の保障	
4) 児童家庭福祉と行政・実施機関	
5) 児童福祉施設の機能と役割	
6) 児童家庭福祉の専門職	
7) 児童虐待の背景と対策	
8) 親権について	
9) 里親制度	
10) 保育制度	
11) 児童相談所と市町村の役割	
12) 子育て支援と少子化対策	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配布資料とパワーポイントを中心に講義を進めていきます。適宜教科書を使用します。

■スクーリング評価の基準

授業の最終日に試験を行います。(授業への参加状況50% スクーリング試験50%)

持込は不可です。出題範囲は授業内容すべてから出題の予定。

■スクーリング時の教科書

参考文献として、千葉喜久也『児童・家庭福祉論』みらい（最新版でなくとも可）を持参のこと。

■スクーリング事前学習

子どもの権利の歴史・児童家庭福祉に従事する専門職等について事前学習をして来てください。

■スクーリング事後学習

苦情解決・児童虐待・里親制度・保育制度・児童相談所と市町村の役割等については、今後も学習を深めていってください。

児童（・家庭）福祉論（東京・新潟開講分） 千葉喜久也 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

児童（・家庭）福祉論は、子どもの福祉を実現することを目標に掲げ、その実現には子どもを取り巻く家庭の福祉の実現なしには達成できないとの考えから児童・家庭福祉論として発展してきた。この講義では、

- ①最近の子どもや家庭を取り巻く環境について
- ②子ども虐待や生活支援を必要とする家庭の問題
- ③児童相談所や市町村の役割と機能
- ④児童福祉施設の理解

等について解説と考察を行います。いつの時代でも未来を託すことができるのは子どもたちです。子どもが明日への希望を持って生き生きするとき、その社会の未来は期待できます。しかし、社会のゆがみやひずみが社会的に弱い存在である子どもに強く影響します。従来から「子どもは社会を映す鏡である」といわれます。この講義では、子どもや家族が安心して暮らせるための方策や援助方法の実際について共に考えていきます。

■到達目標

- 1) 子ども虐待について説明が出来る。
- 2) 児童相談所の機能と役割について説明が出来る。
- 3) 児童福祉施設（5種類程度）について説明が出来る。
- 4) 児童手当制度、児童扶養手当制度、里親制度について説明が出来る。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 子どもや家庭を取り巻く環境	子どもの生活問題と格差問題
2) 子ども虐待について	児童虐待が起こる背景
3) 虐待の背景と対策	児童虐待防止と対策
4) 子どもの成長と発達	子どもの発達保障と子どもの権利について
5) 児童福祉施設の機能と役割	児童福祉施設の体系について
6) 乳児院・児童養護施設	養護系施設の現状と課題
7) 保育所の役割と機能	保育所の現状と課題
8) 児童相談所の機能と市町村の役割	児童相談所と市町村の役割と連携について
9) 児童福祉の歴史	これまでの児童福祉の歩みと先人の活動内容
10) 子育て支援と少子化対策	少子化対策の現状と課題
11) 子ども家庭への相談援助活動	子ども家庭福祉の実践と相談活動内容の紹介
12) まとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

テキスト、配布資料をもとに途中ビデオなども見ながら講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業の最終日に行うスクーリング試験100%で評価します。持込は不可です。

試験内容は、児童相談所、子ども虐待、児童福祉施設に関する内容を出題します。

■スクーリング時の教科書

テキストを持参してください（最新版でなくても可）。社会福祉は経済的貧困を救済することを主な課題として発展してきたが、21世紀に入り、その目的は、社会生活上何らかの援助を必要とする人々が、地域で自立生活ができるように支援することになった。人々が安心して暮らせるための方策としては、教育や住宅、雇用の保障にかかわるサービスや社会保障もあるが、社会福祉はそれらの制度と密接なかかわりをもちつつ、それとは独立した対人援助を基軸とする援助活動であり、システムである。児童福祉論（児童・家庭福祉論）は子どもと子どもを取り巻く家庭に焦点を当て、児童福祉（社会福祉）の制度を活用しながら、どのような支援が可能か、できるのか、テキストを活用して学習します。

■スクーリング事前学習

事前にテキストを読み理解できないところや疑問点を整理しておいてください。

★■更生保護制度論 菅原 好秀

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

更生保護とは、犯罪や非行に陥った者の改善更生を図るため、必要な指導監督、補導援護の措置を行い、また、一般社会における犯罪予防活動を助長することによって、犯罪や非行から社会を保護し、個人及び公共の福祉を増進することを目的としています。つまり、「再犯の防止」「改善更生」という2つの特別予防目的を掲げて、これを車の両輪のように活用することによって「社会の保護」という一般予防目的を達成し、それによって「個人及び公共の福祉を増進する」ことを目的としています。

本科目では、相談援助活動において必要となる更生保護の制度趣旨を踏まえ、刑事司法・少年司法分野で活躍する組織、団体及び専門職、刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について、具体的に学んでいきます。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 更生保護の全体像	施設内処遇と社会内処遇について 保護観察制度の制度趣旨について 保護司・更生保護女性会・BBSについて 医療観察制度の手続きについて 医療観察制度の現実的な問題点について
2) 保護観察制度	
3) 更生保護の担い手	
4) 医療観察制度	
5) 医療観察制度の現状と課題	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにし

てください。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング時の教科書

渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』南窓社、2011年の所持が必要です。

■スクーリング事前学習

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

就労支援サービス論 三浦 剛 講義

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

★■社会福祉援助技術演習A・◆社会福祉援助技術演習I

担当教員は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照 演習

■スクーリングで学んでほしいこと

この科目では、社会福祉士に求められる相談援助に係る基本的知識と技術を、演習形式の授業により実践的に習得することを目的としている。学んで欲しい内容は以下の通り。

- ・相談援助技術の基盤となる価値、倫理について体験的に理解する。
- ・その際必要となる専門職としての自己覚知を体験する。
- ・相談援助技術の基礎であるコミュニケーション能力を身につける。
- ・基本的な面接技術を身につける。
- ・実際の相談援助の過程を事例研究を通して理解する。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 相談援助技術の枠組みに関する学習	ソーシャルワークの価値、知識、理論 マクロレベル・メゾレベル・ミクロレベルの枠組み
2) 自己覚知を促すための体験学習	自己理解、他者理解
3) 相談援助技術に求められるコミュニケーション	利用者主体、自己決定の尊重、自立支援

4) 社会福祉の価値、倫理に関する体験的学習	社会正義、人権保護、権利擁護
5) 基本的なコミュニケーション技術の習得のための体験的学習	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション
6) 相談援助過程の学習（相談援助事例の研究）①	児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレスの事例を紹介
7) 相談援助過程の学習（相談援助事例の研究）②	児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、成年後見制度利用者、低所得者、嗜癖問題を抱えた家族、ホームレスの事例を紹介
8) 相談援助の基盤と専門性に関する学習 質疑応答 スクーリング試験	社会福祉士に求められる相談援助に関する知識・技術
9) 体験学習・次年度実習ガイダンス（実習免除者は受講不要）	

■講義の進め方

スクーリングにおいては、以下の統一内容を中心に、各担当教員が演習をおこなう。演習ではグループディスカッション、役割取得訓練、ロールプレイングなどのグループワークをおこなう。

■スクーリング評価の基準

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング時の教科書

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士 相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（初版でも可）

■スクーリング事前学習

『新・社会福祉士養成講座7・8 相談援助の理論と方法』などのテキストを確認しておくこと。

★■社会福祉援助技術演習B・◆社会福祉援助技術演習II

担当教員は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とする。スクーリングで学んで欲しい内容は以下の通り。

- ・社会福祉士に必要とされる専門知識、専門技術の習得や専門職として求められる相談援助の一連の過程
- ・支援計画立案に関する基本的な知識・技術
- ・社会資源の活用、ネットワーク形成の知識・技術
- ・社会生活上の課題、環境の中の個人に対する理解の深化

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導①	インテーク・アセスメント
2) 相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導②	プランニング・支援の実施
3) 相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導③	モニタリング・効果測定
4) 相談援助場面及び援助過程を想定した実技指導④	終結・アフターケア
5) 事例を使用した実技指導①	支援計画の立案に関する事例検討
6) 事例を使用した実技指導②	アウトリーチ, ネットワーキング, チームアプローチ
7) 事例を使用した実技指導③	社会資源の活用 (調整・開発含む)
8) サービス評価法に関する学習 質疑応答	サービス評価法の実際
9) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記テーマに基づき、配付資料を活用しながら、ロールプレイを中心に演習を進めていきます。最終コマでは、振り返りとして記述式（一問一答および選択問題）の試験を行います。

■スクーリング評価の基準

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング時の教科書

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士 相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（初版でも可）

■スクーリング事前学習

『新・社会福祉士養成講座7・8 相談援助の理論と方法』などのテキストを確認しておくこと。

★■社会福祉援助技術演習C

担当教員は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉士として必要である、社会福祉援助技術（相談援助）に係る知識と技術の習得を目的とする。ここで学んで欲しいことは以下の通り。

- ・児童，障害者，高齢者虐待などの社会問題の発生機序を理解し，具体的な支援方法を学ぶ。
- ・社会的排除をキーワードにホームレス，犯罪者，外国人などへの支援方法について社会資源の活用も含め具体的に理解する。
- ・これまでの体験的な学習の一般化，体系化を図り，社会福祉援助技術理論と技術の統合を目指す。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 事例に基づく総合的・包括的援助の実践の習得①	虐待, 家庭内暴力
2) 事例に基づく総合的・包括的援助の実践の習得②	成年後見制度利用者, 外国人
3) 事例に基づく総合的・包括的援助の実践の習得③	低所得者, ホームレス
4) 相談援助の理論と方法・地域福祉の理論と方法①	アウトリーチ, ニーズ把握, 地域福祉の計画
5) 相談援助の理論と方法・地域福祉の理論と方法②	ネットワーキング, 社会資源の活用・調整・開発, サービスの評価
6) 地域福祉の基盤整備と開発事例と実技指導①	社会調査, 福祉計画, アウトリーチ
7) 地域福祉の基盤整備と開発事例と実技指導②	ネットワーク形成, 社会資源開発
8) 地域福祉の基盤整備と開発事例と実技指導③ 質疑応答	ソーシャルアクション, ネゴシエーション, コンサルテーション
9) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記テーマに基づき、配付資料を活用しながら、事例分析を中心に演習を進めていきます。最終コマでは、振り返りとして論述式の試験を行います。

■スクーリング評価の基準

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング時の教科書

長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士 相談援助演習（第2版）』中央法規出版、2015年（初版でも可）

■スクーリング事前学習

『新・社会福祉士養成講座7・8 相談援助の理論と方法』などのテキストを確認しておくこと。

★社会福祉援助技術実習指導A

担当教員は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照 演習

■スクーリングで学んでほしいこと

社会福祉援助技術実習の意義について理解をするとともに、児童・高齢者等、実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解をする。

また、次年度の相談援助実習に向けて、実習計画書の意義と策定方法を学ぶ。そして、これまで学修してきた社会福祉学の専門知識を深化させるとともに、各自の援助能力の開発・今後の課題の明確化・自己理解を深める場とし、相談援助専門職としての倫理観を理解する機会とする。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 実習分野における利用者理解	児童, 障がい者, 高齢者等各領域における利用者理解
2) 実習関連分野における理解	施設, 事業者, 団体, 地域社会等
3) 関連業務に関する理解	介護, 保育等
4) 「実習計画案」の作成の意義と方法	作成の意義と方法

■講義の進め方

教科書および配付資料等を活用しながら, 実習関連分野における理解を深めるとともに, 実習計画書の策定方法について具体的説明を行います。

■スクーリング評価の基準

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング時の教科書

- 1) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第1分冊）』東北福祉大学（「演習A」時に配付済み）
- 2) 『社会福祉援助技術実習の手引き（第2分冊）』東北福祉大学（「実習指導A」申込者に配付）
- 3) 『社会福祉援助技術実習 課題ノート』東北福祉大学（「実習指導A」申込者に配付）
- 4) 長谷川匡俊・上野谷加代子・白澤政和・中谷陽明編『社会福祉士 相談援助実習（第2版）』中央法規出版（初版でも可）

■スクーリング事前学習

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』記載の事前課題に取り組んでおくこと。

★■社会福祉援助技術実習指導B

担当教員は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

相談援助実習にかかわる知識と技術について, 事例等を用いた個別指導ならびに集団指導を通して, 具体的に理解し, 実践できるようになることを目標とする。社会福祉士として求められる資質, 技能, 倫理, 自己に求められる課題把握等, 専門職としての総合的な能力を身につける。併せて, これまでの具体的な学習体験を, 概念化し理論体系のなかに位置づけることができる能力を身につける。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 相談援助に係る知識と技術に関する理解	専門性の理解（倫理綱領含む）
2) プライバシー保護と守秘義務の理解	プライバシー保護・守秘義務の理解

3) 実習記録の記録内容及び記録方法に関する理解	実習記録の記録内容・記録方法
4) 実習計画案の作成指導①	実習課題の整理
5) 実習計画案の作成指導②（地域別実施）	実習課題の達成方法
6) 実習施設関連の基本的理解（地域別実施）	社会資源の把握
7) 実習課題の整理①	価値・倫理・知識・技術に関する課題の整理①
8) 実習課題の整理②	価値・倫理・知識・技術に関する課題の整理②
9) 全体総括①	実習の評価・総括①
10) 全体総括②	実習の評価・総括②

■講義の進め方

1)～4)は実習事前指導B-1, 5) 6) は実習事前指導B-2, 7～10) は実習事後指導B-3として行います。

■スクーリング評価の基準

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング時の教科書

「社会福祉援助技術実習指導A」と共通

■スクーリング事前学習

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』記載の事前課題に取り組んでおくこと。

◆社会福祉援助技術現場実習指導

担当教員は『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照 演習

※『★社会福祉援助技術実習指導B』p.146～147参照

■スクーリング講義内容

- (1)「実習指導B-1」を「実習事前指導」と読み替える。(2)「実習指導B-2」はありません。
(3)「実習指導B-3」を「実習事後指導」と読み替える。

■スクーリング評価の基準

①レポート課題（1～4）を（1～3）に、（B-1, B-2, B-3）を（事前・事後）と読み替える。

精神医学 浅野 弘毅・滝井 泰孝・高野 毅久 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

「精神医学」では、精神保健福祉士の仕事を行うにあたって必要とされる精神医学の知識を体系的に学ぶことを目的としています。スクーリングでは、代表的な精神疾患とその治療、病院精神科医療と地域精神科医療および精神科医療における人権擁護について具体的に学びます。

■到達目標

- 1) 精神疾患の診断におけるプロセスを順序よく説明できる。

- 2) 代表的な精神疾患とその治療について説明できる。
- 3) わが国における病院精神科医療と地域精神科医療の現状について説明できる。
- 4) 精神科医療における人権擁護の重要性について説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 精神医学の概念	正常と異常, 精神障害の成因と分類
2) 精神疾患の診断	精神科診療 (面接と問診), 精神症状, 検査
3) 代表的な精神疾患①	ICD-10 (国際疾病分類第10版) のF2～F6の障害
4) 代表的な精神疾患②	ICD-10 (国際疾病分類第10版) のF7～F9の障害
5) 病院精神科医療	わが国の精神科病院の歴史と現況, 急性期医療, 精神科病院の実際
6) チーム医療と精神保健福祉士の役割および精神科医療と福祉の連携	チーム医療と精神保健福祉士, 精神科医と精神保健福祉士との対話, 精神科医療と福祉の連携をめぐる様々な議論と制度の変遷
7) 精神科救急医療および地域精神科医療	精神科救急医療の必要性と実際, 地域精神科医療の概念と歴史・諸外国の取り組み, わが国における地域精神科医療, ケアマネジメントへの期待と課題, ACT
8) 入院患者の人権擁護とインフォームドコンセント	精神科医療に関する法律と入院制度, 権利の主体とインフォームドコンセント
9) 脳と身体の疾患・精神作用物質による精神障害と神経系疾患	ICD-10 (国際疾病分類第10版) のF0・F1・Gの障害
10) 精神疾患の治療①	身体療法 (薬物療法・非薬物療法) と精神療法
11) 精神疾患の治療②	環境・社会療法と精神科リハビリテーション
12) 各種専門療法と通院リハビリテーション	作業療法・集団精神療法・社会生活技能訓練・心理教育等の各種専門療法と断酒会・家族会・障害者総合支援法による各種事業・当事者活動 (ソーシャルクラブ) や通院リハビリテーション
13) スクーリング試験	

※担当教員ならびに上記各コマの内容・流れが異なる場合がある。なお, 平成27年度は1～4コマを「ビデオ・スクーリング」として開講する (担当: 滝井泰孝先生)。5～8コマ: 浅野弘毅先生, 9～12コマ: 高野毅久先生担当予定。

■講義の進め方

板書とICTを活用し資料を配付する。適宜教科書を参照する場合がある。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況 (20%) + スクーリング試験 (80%) で評価。講義で学んだ内容を踏まえ, 試験問題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います (教科書・ノート・資料持込可)。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー1 精神医学—精神疾患とその治療』へるす出版, 2013年 (新版でも可)

■スクーリング事前学習

事前に教科書を読んで分からないところを明らかにし, 不明な点は石井厚監修『新版精神保健第2版』医学出版社, 2013年などを参考にして調べてください。

◆★精神保健福祉援助技術総論（前半）・■精神保健福祉援助技術総論Ⅰ

志村 祐子

講義

※「◆★精神保健福祉援助技術総論」のスクーリング受講者は同一年度に（後半）と合わせてスクーリングを受講すること。

■スクーリングで学んで欲しいこと

ソーシャルワーカーの基本的役割の理解

ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割の理解

基本的援助技術について

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 精神保健福祉士の専門性の理解①	専門職としてのソーシャルワーカーの倫理 精神保健福祉士の役割と意義 ソーシャルワークの定義 精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの歴史
2) 精神保健福祉士の専門性の理解②	
3) 精神保健福祉士の専門性の理解③	
4) 国家資格制度化の概要	
5) ソーシャルワークの理論	診断主義と機能主義, 生態学的アプローチ, 生活モデルと医学モデル, 個別援助技術の原理と原則
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって, 講義を進める。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%とスクーリング試験80%で評価します。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー3 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）（専門）』へるす出版（新版でも可）

※「◆★精神保健福祉援助技術総論」のスクーリング受講者は, 受講の際, 上記の教科書の所持が必要となります。

■スクーリング事前学習

テキスト第1章から第4章まで読んでくること

◆★精神保健福祉援助技術総論（後半）・■精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

志村 祐子

講義

※「◆★精神保健福祉援助技術総論」のスクーリング受講者は同一年度に（前半）と合わせてスクーリングを受講すること。

■スクーリングで学んで欲しいこと

基礎的相談援助技術を基に、多職種といかに連携していくかを理解して欲しい。
人のライフステージにおける課題とメンタルヘルスについての理解をして欲しい。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 援助技術の概要	各援助技術の復習
2) 専門職としての記録	ソーシャルワーカーの記録について
3) 関連する援助技術の概要①	ケアマネジメント
4) 関連する援助技術の概要②	SST, チームアプローチ
5) ライフステージにおける課題の理解	ライフステージの各段階におけるメンタルヘルスの課題
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、講義を進める。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%とスクーリング試験80%で評価します。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー 3 精神保健福祉援助の基盤〔基礎〕〔専門〕』へるす出版（新版でも可）

※「◆★精神保健福祉援助技術総論」のスクーリング受講者は、受講の際、上記の教科書の所持が必要となります。

■スクーリング事前学習

テキスト第5章、およびケアマネジメント、SSTについて事前学習をしてきて下さい。

精神保健福祉援助技術各論

大和田誠子

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

精神保健福祉は、障害のある人たちだけの支援にとどまらず、国民全体の課題を視野に入れた展開が必要になってきている。子どもから高齢者を対象としたメンタルヘルスの課題に応える。それら具体的支援の展開を通して日常生活に反映させる。特に、増加している児童虐待、アディクション問題、DV等の問題は発達上早期の人間関係や発達課題に焦点をあてるとともに、生活再建のために親子関係の再構築、家族の再統合の取り組みも必要になってくる。ソーシャルサポート・ネットワーキング・ケースマネジメント等の方法を用いて具体的支援を展開していく。何よりも、ソーシャルワーカーはクライアントの健康性に着目し、あるいは引き出し、そこに関わって支援を展開していくことについて事例を参考に理解してほしい。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) ソーシャルワークの方法①	ケースワークとその実際
2) ソーシャルワークの方法②	グループワークとその実際（家族支援を含む）
3) ソーシャルワークの方法③	地域生活支援と具体的方法
4) 危機介入について	理論と実際から理解する
5) セルフヘルプについて	自尊心と回復
6) まとめ	小グループにわかれ事例検討をする
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント・配付資料を中心に講義，必要に応じてグループワークを行う。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況30%＋スクーリング試験70%

講義はグループの形態をとることがあり，その際のグループへの貢献度も含まれる。

試験の解答は，テーマに適切な内容であること。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー 4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開』へるす出版（新版でも可）を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

あらかじめテキストを学習し理論を把握し，記載されている事例について考察をしておくこと。

■お断り

※この科目は，25年度のスクーリングから，スクーリング単位1単位・6コマのスクーリングとなり，上記の教科書の所持が必要になります。

◆★精神保健福祉論Ⅰ・■精神保健福祉の理論 阿部 正孝 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

「精神保健福祉とは何か」「障害とは何か」を学びながら，我が国の精神障害者福祉の歴史の変遷について理解を深めていくことを目指します。

■到達目標

精神保健医療福祉の歴史と動向，精神障害者に対する支援の基本的な考え方を説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 障害者福祉の理念と精神障害の概念	ソーシャルワーカーの方向性
2) 精神保健福祉の歴史の変遷	精神保健福祉の沿革
3) 我が国の精神保健福祉の動向	精神障害者・その家族の実際
4) 精神保健福祉士の専門性と倫理	精神保健福祉士の役割と意義
5) 精神障害者の人権・権利擁護	人権思想の展開
6) まとめ	

7) スクーリング試験

■講義の進め方

講義内容にそって、配付資料も用いながら、講義を進める。

■スクーリング評価の基準

スクーリング時に話した内容についての理解を問います。

スクーリング試験90%+授業への参加状況10%

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉養成セミナー4 精神保健福祉の理論と相談援助の展開』へるす出版（新版でも可） 第1章～第4章
注）教科書は参考程度に使用し、スクーリング講義用資料を用いて講義します。

■スクーリング事前学習

教科書を通読程度に眺めてください。

精神保健福祉が誰のために必要なのか？ 学んでおいてください。

我が国の精神医療事件について概観しておいてください。

精神科リハビリテーション学 八巻 幹夫

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

精神保健福祉の支援対象者は「疾病と障害」を持ちながら生活しているひとびとです。支援活動を展開するために、生活の中に生じる生活障害を理解し、精神科医療・保健・福祉に関する知識や支援の理念および技術を学ぶことが必要となります。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 我が国の精神科医療施策	精神病患者監護法・精神保健福祉法
2) 精神障害者福祉	障害者自立支援法・障害者総合支援法
3) リハビリテーションの理念と発展	リハビリテーションの基本原則
4) 障害概念と生活障害	ICIDH・ICF・あたりまえの生活
5) 生活構造と生活機能	生活の三重構造・生活構造
6) 精神科リハビリテーションの展開過程	評価・計画・実施
7) 精神科リハビリテーションの技術①	精神科デイケア・作業療法
8) 精神科リハビリテーションの技術②	生活技能訓練（SST）・心理教育
9) 生活支援の理念	エンパワーメント・リカバリー
10) 地域生活支援①（地域移行支援）	相談支援事業
11) 地域生活支援②	訪問看護指導・ケアマネジメント
12) 地域活支援③・質疑応答	自助グループ支援・ピアサポーター
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（テキスト、自筆ノート持込可）。到達目標についての理解度を評価します。

■スクーリング時の教科書

・新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『改訂新版精神保健福祉士セミナー 5 精神科保健福祉におけるリハビリテーション』へるす出版、2014年（新版でも可）

※平成24年9月以前履修登録者は、下記の教科書を持参してください。

日本精神保健福祉士養成校協会編『改訂新・精神保健福祉士養成講座 3 リハビリテーション学』中央法規出版、2009年

■スクーリング事前学習

へるす出版テキストの場合は第1章～第6章を、中央法規出版のテキストの場合は第3、5、6、8章を読み込んでください。

◆★精神保健福祉論Ⅱ・■精神保健福祉のサービス 阿部 正孝 ———— 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

精神障害者への支援の在り方を学びます。当事者を取り巻く環境を考えながら、精神保健福祉の援助や課題について理解を深めることを目指します。

■到達目標

精神保健福祉の歴史の変容・精神障害者の生活の実際を説明できるようになる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 精神保健福祉法の内容	精神保健福祉法までの歴史の変遷 人権・権利擁護 障害者基本法と障害者総合支援法 医療保険制度・介護保険制度・所得補償 行政組織と民間組織・インフォーマル
2) 精神保健福祉の流れ	
3) 精神障害者福祉制度とサービス①	
4) 精神障害者福祉制度とサービス②	
5) 相談援助の組織・機関・専門職	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

上記講義内容にそって、配付資料も用いながら、講義を進める。

■スクーリング評価の基準

スクーリング時に話した内容についての理解を問います。

スクーリング試験90%＋授業への参加状況10%

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉養成セミナー 6 精神障害者の生活支援一制度・システムとサービス』へるす出版（新版でも可） 第1章～第4章注）教科書は参考程度に使用し、スクーリング講義用資料を用いて講義します。

■スクーリング事前学習

教科書を通読程度に眺めてください。

精神障害者への偏見・差別はなぜ起きるか？把握しておいてください。
精神障害の定義を理解しておいてください。

◆★精神保健福祉論Ⅲ・■精神保健福祉の制度 菅原 好秀 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

精神障害者は、あらゆる機会において差別対象とされ、偏見の犠牲になる可能性が高い。そのため、福祉の共通課題である人権の擁護あるいは保護が精神障害者福祉の課題といえます。

本講義では、精神障害者にとって、今日よりよく生きるために求められているのは何であり、そこにどのような法的問題が存在し、それに伴う権利擁護の問題の現状を明らかにし、これらの状況に対応するための権利擁護システム、特に更生保護の視点を踏まえた精神保健福祉に関する法的視点について学んでいきます。また、精神障害者に関して問題となった事例につき、判例の見解を踏まえて具体的な問題点を学んでいきます。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 精神保健福祉法の意義と内容	精神保健福祉法の意義と入院形態について
2) 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係	社会処遇と精神障害者の犯罪について
3) 更生保護制度における関係機関や団体との連携	保護観察、BBS会、更生保護女性会、協力雇用主について
4) 医療観察制度の概要	医療観察制度の手続きについて
5) 医療観察制度の現状と課題	医療観察制度の現実的な問題点について
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング時の教科書

1) 『更生保護制度』（南窓社）と2) 『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー6 精神障害者の生活支援』（へるす出版）（新版でも可）の所持が必要です。

※24年度以降「精神保健福祉論Ⅲ」履修登録者で、1)の教科書をお持ちでない場合はご連絡ください。

※2)の教科書をお持ちでない方には、必要部分のコピーを配付します。

■スクーリング事前学習

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡

辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の法学の問題をチェックしておいて下さい。

■精神保健福祉援助演習A

阿部 正孝・志村 祐子・山本 操里・狩野 俊介・小野 芳秀 ほか ———— 演習

■スクーリングで学んでほしいこと

相談援助技術の基本的な知識、また、ロールプレイなどの技術の実践を行う中で、基本的な対人援助技術を身につけていけるようにする。そのなかで、援助者としての自分の適性に気づけるよう、意識して学ばれることを望みます。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術	オリエンテーションおよび精神保健福祉領域における相談援助の基本、専門職としての価値観
2) 基本的なコミュニケーション技術	基本的なコミュニケーション技術と面接技術
3) 基本的相談援助技術	相談援助技術の概念と範囲、情報の収集・整理・伝達、課題の発見と分析、記録技術、ジェノグラムとエコマップの活用方法
4) グループダイナミクス活用技術	グループダイナミクス活用技術とその効果、グループワークの活用方法
5) 個別援助技術	ロールプレイによる面接技術ならびに個別援助技術の基本と事例検討
6) 集団援助技術	個別援助技術の基本と事例検討
7) 地域援助技術	地域援助技術の基本と事例検討
8) 自己覚知	自己覚知の必要性と他者理解

※演習において「小テスト」「ガイダンス」「精神保健福祉士援助実習A選考試験（面接）」を実施する。

※担当教員により上記各コマの内容および流れが異なる場合がある。

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

小テスト（20%）＋選考試験（面接）（20%）＋演習内容（40%）＋素行評価※（10%）＋演習レポート（10%）により総合的に評価する。グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

※素行とは、普段からの各種申込・提出期日の遵守状況やことば遣い・態度を指す。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー7 精

神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕へるす出版、2014年（新版でも可）

■スクーリング事前学習

- ①『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の「在宅学習15のポイント」から予習しておくこと（p.155「■スクーリング講義内容」の各テーマに対応する「在宅学習15のポイント」は下表を参照）。

テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)	テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)
1)	1・3	5)	13
2)	7	6)	13
3)	4・6・8・10・12	7)	13
4)	9	8)	2

- ②「精神保健福祉援助演習A」1単位めレポートを作成し期日までに提出していること。
- ③所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』『■受講の流れ』参照）。

■スクーリング事後学習

- ①『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の「在宅学習15のポイント」の15回を参照し、演習内容を振り返りながら援助者としての自己の適性について振り返りを行う。
- ②「精神保健福祉援助演習A」2単位めレポートを作成し、期日までに提出すること。

◆★精神保健福祉援助演習

阿部 正孝・志村 祐子・八巻 幹夫・大和田 誠子 ほか

演習

■スクーリングで学んでほしいこと・スクーリング講義内容

新カリキュラムとの合同開講とし、「精神保健福祉援助演習A」の内容に準じる。1日めの演習終了後に「体験学習・次年度実習ガイダンス」を開催する。また演習の受講後、所定の手順に沿って「実務経験による体験学習免除申請」または「体験学習」を実施すること（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』）。

■到達目標・講義の進め方

「精神保健福祉援助演習A」に準じる。

■スクーリング評価の基準

演習内容（80%）＋素行評価※（10%）＋演習レポート（10%）により総合的に評価する。グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

※素行とは、普段からの各種申込・提出期日の遵守状況やことば遣い・態度を指す。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版、2014年

※新版でも可。中央法規出版の教科書でも可とするが、「精保演習A」と合同で受講する場合は上記改訂新版の教科書を各自で購入するなど所持していることが望ましい。

■スクーリング事前学習

- ①『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の「在宅学習15のポイント」から予習しておくこと（p.155「■スクーリング講義内容」の各テーマに対応する「在宅学習15のポイント」は下表を参照）。

※「在宅学習15のポイント」は上項「■スクーリング時の教科書」の新カリキュラム用（へるす出版）の教科書に対応している。旧カリキュラム指定の教科書（中央法規）のみを所持している方は自身で、同教科書の各ポイントに対応する箇所について学習すること。

テーマ	「在宅学習15のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習15のポイント」（回）
1)	1・3	5)	13
2)	7	6)	13
3)	4・6・8・10・12	7)	13
4)	9	8)	2

- ②「精神保健福祉援助演習」1単位めレポートを作成し期日までに提出していること。
 ③所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照）。

■スクーリング事後学習

- ①『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の「在宅学習15のポイント」の15回を参照し、演習内容を振り返りながら援助者としての自己の適性について振り返りを行う。
 ※学習方法については上項「■スクーリング事前学習」の1)と同様。
 ②「精神保健福祉援助演習」2単位めレポートを作成し、期日までに提出すること。
 ③実務経験により「体験学習免除」が認められた者以外は「体験学習」を実施する。

■精神保健福祉援助演習B

阿部 正孝・志村 祐子・八巻 幹夫・大和田 誠子 ほか 演習

■スクーリングで学んでほしいこと

演習Aにおいて学んだことをその後どれだけ自分が身につけているかの自己評価と他者からの評価を真摯に受けとめ、対人援助を行っていく上での自己の適性の再確認。

相談援助に必要な専門的知識と技術をしっかりと理解し、実習において活用できるところまで到達して欲しい。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) オリエンテーション	オリエンテーションおよび「精保演習A」の振り返り
2) 専門的知識と技術の理解①	グループワーク、ロールプレイングを用いた相談援助の過程を想定した実技指導（インテーク（受理面接）から終結およびアフターケアまで）

3) 専門的知識と技術の理解②	課題別事例（社会的排除・退院支援・地域移行）についてグループワーク，ロールプレイング
4) 専門的知識と技術の理解③	課題別事例（地域生活支援）についてグループワーク，ロールプレイング
5) 専門的知識と技術の理解④	課題別事例（児童虐待・嗜癖問題）についてグループワーク，ロールプレイング
6) 専門的知識と技術の理解⑤	課題別事例（就労・雇用）についてグループワーク，ロールプレイング
7) 専門的知識と技術の理解⑥	課題別事例（精神科デイケア）についてグループワーク，ロールプレイング

※実際のスクーリングは下記①～③の流れの通り「精保演習B」と「精保実習指導A」を組み合わせて開講する（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』精神保健福祉援助実習B「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ開講の流れ」参照）。

①精保実習A事前指導（「精保演習B-1+実習指導A-1」）2日間

↓

②精保実習A（福祉施設実習）

↓

③精保実習A事後指導（「精保演習B-2+実習指導A-2」）2日間

※精保実習A事前指導（「精保演習B-1+実習指導A-1」）の1日めに「現場体験学習」、精保実習A事後指導（「精保演習B-2+実習指導A-2」）において「精神保健福祉援助実習B選考試験（面接）」ならびに「帰校指導」を実施する。

※担当教員により上記各コマの内容および「精保実習指導A」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

※実習免除者（「精保演習B」：7コマ）

1日め「精保演習B（4コマ）」+2日め「精保演習B（3コマ）」

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

『精神保健福祉援助実習A課題ノート』（20%）+選考試験（面接）（20%）+演習内容（50%）+演習レポート（10%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕』へるす出版、2014年（新版でも可）

■スクーリング事前学習

【実習受講者・実習免除者共通】

①『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の「在宅学習15のポイント」から予習しておくこと（p.157～158「■スクーリング講義内容」の各テーマに対応する「在宅学習15のポイント」はp.159表を参照）。

テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)	テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)
1)	1	5)	9・10
2)	2・3・4	6)	6・7・15
3)	5・6	7)	14
4)	7・12		

- ②「精神保健福祉援助演習B」1単位めレポートを作成し期日までに提出する。
- ③『精神保健福祉援助実習A課題ノート』を所定の部分まで完成させ演習当日に持参し提出する。
- ④所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』『■受講の流れ』参照）。

【実習受講者のみ】

精保実習A事前指導

- ①「精神保健福祉援助実習A計画（案）」【様式4】を演習受講日ごとに定められた期日までに提出（「精保実習A」受講者のみ）し、最低1回の添削指導を受けてから受講に臨むこと（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』精神保健福祉援助実習指導A「■レポート課題」、本冊子1部の各課題の期日を参照）。
- ②実習先に提出する「実習生個人記録」【様式6】「健康診断書」【様式7】「誓約書」【様式8】「実習機関への交通手段」【様式9】「実習先から配慮を希望する内容」【様式10】（任意）の書類を完成させ演習当日に持参し提出すること。
- ③「精保実習A事後レポート」を演習受講日ごとに定められた期日までに提出。
※冊子ならびに各様式は「精保演習A」受講後、「精保実習指導A」ならびに「精保演習B（実習免除者）」受講希望者にそれぞれ別途配付。

精保実習A事後指導

- ①「精保実習A事後レポート」を作成し演習受講日ごとに定められた期日までに提出（本冊子1部の各課題の期日を参照）。
- ②『精神保健福祉援助実習A課題ノート』を所定の部分をすべて完成させ演習当日に持参し提出する。

■スクーリング事後学習

【実習受講者・実習免除者共通】

「精神保健福祉援助演習B」2単位めレポートを作成し、期日までに提出する。

■精神保健福祉援助演習C

阿部 正孝・志村 祐子・八巻 幹夫・大和田 誠子 ほか

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

実習を通して学んだこと、感じたことを自分の言葉として表現でき、他者の評価と共に自己評価できるように、積極的にグループ討論などに参加して欲しい。

学んだことが実践で即活用できるように意識しながら学んで欲しい。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) オリエンテーション	精神科医療機関における実習に向けたオリエンテーションならびに地域福祉計画等の諸施策、精神障害者の生活のしづらさの理解
2) 専門的知識と技術の理解①	事例研究（退院支援・地域移行）についてグループワーク、ロールプレイング
3) 専門的知識と技術の理解②	事例研究（危機状態への介入・入院形態）についてグループワーク、ロールプレイング
4) 専門的知識と技術の理解③	事例研究（就労支援・リワーク）についてグループワーク、ロールプレイング
5) 専門的知識と技術の理解④	事例研究（ピアサポート）についてグループワーク、ロールプレイング
6) 専門的知識と技術の理解⑤	事例研究（貧困・低所得問題）についてグループワーク、ロールプレイング
7) 実習体験に基づく包括的援助実践の習得①	相談援助に係る知識と技術の習得を目的に、実習における個別的体験に基づくグループワーク・個別面接指導
8) 実習体験に基づく包括的援助実践の習得②	相談援助に係る知識と技術の習得を目的に、実習における個別的体験に基づくグループワーク・個別面接指導・まとめと総括

※実際のスクーリングは下記①～③の流れの通り「精保演習B」と「精保実習指導A」を組み合わせて開講する（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』精神保健福祉援助演習B「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ開講の流れ」参照）。

①精保実習B事前指導（「精保演習C-1 + 実習指導B-1」）2日間

↓

②精保実習B（医療機関実習）

↓

③精保実習B事後指導（「精保演習C-2 + 実習指導B-2」）2日間

※精保実習B事後指導（「精保演習C-2 + 実習指導B-2」）において「帰校指導」を実施する。

※担当教員により上記各コマの内容および「精保実習指導B」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

※実習免除者（「精保演習C」：8コマ）

1日め「精保演習C（4コマ）」+ 2日め「精保演習C（4コマ）」

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

【精保演習C】

『精神保健福祉援助実習B課題ノート』（20%）+ 選考試験（面接）（20%）+ 演習内容（50%）+ 演習レポート（10%）

【精保実習指導B】

『精神保健福祉援助実習B課題ノート』（10%）＋精保実習B評価表（10%）＋精保実習B記録（20%）＋演習内容（40%）＋実習事後課題レポート（10%）＋帰校指導内容（10%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

■スクーリング時の教科書

新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習【基礎】【専門】』へるす出版、2014年（新版でも可）

■スクーリング事前学習**【実習受講者・実習免除者共通】**

- ①『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の「在宅学習15のポイント」から予習しておくこと（p.161「■スクーリング講義内容」の各テーマに対応する「在宅学習15のポイント」は下表を参照）。

テーマ	「在宅学習15のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習15のポイント」（回）
1)	13・14	5)	9・10
2)	1・2	6)	5・6
3)	7・8	7)	15
4)	3・4	8)	15

- ②「精神保健福祉援助演習C」1単位めレポートを作成し期日までに提出する。
 ③『精神保健福祉援助実習B課題ノート』を所定の部分まで完成させ演習当日に持参し提出する。
 ④所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』『■受講の流れ』参照）。

【実習受講者のみ】**精保実習B事前指導**

- ①「精神保健福祉援助実習B計画（案）」【様式14】を演習受講日ごとに定められた期日までに提出（「精保実習A」受講者のみ）し、最低1回の添削指導を受けてから受講に臨むこと（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』精神保健福祉援助実習指導B「■レポート課題」、本冊子1部の各課題の期日を参照）。
- ②実習先に提出する「実習生個人記録」【様式16】「健康診断書」【様式17】「誓約書」【様式18】「実習機関への交通手段」【様式19】「実習先から配慮を希望する内容」【様式20】（任意）の書類を完成させ演習当日に持参し提出すること。
- ※冊子ならびに各様式は「精保演習B」受講後、「精保実習指導B」ならびに「精保演習C（実習免除者）」受講希望者にそれぞれ別途配付。

精保実習B事後指導

- ①「精保実習B事後レポート」を作成し演習受講日ごとに定められた期日までに提出（本冊子1部の各課題の期日を参照）。
- ②『精神保健福祉援助実習B課題ノート』を所定の部分をすべて完成させ演習当日に持参し提出する。

■スクーリング事後学習

【実習受講者・実習免除者共通】

「精神保健福祉援助演習C」2単位めレポートを作成し、期日までに提出する。

■精神保健福祉援助実習指導A

阿部 正孝・志村 祐子・八巻 幹夫・大和田 誠子 ほか

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

①精保実習B受講前

施設実習に向け、これまでの学びを体系的に整理し、自分の課題を明確にできるよう、事前学習もしっかりと取り組んで欲しい。

②精保実習B受講後

施設実習を踏まえ、自己への気づき、地域における障害者の理解・精神保健福祉士の役割についての整理、確認。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意義ならびに精神保健福祉士としての職業倫理、法的責務、守秘義務等のプライバシー保護、利用者理解（障害・疾病の理解）
2) 実習の準備①	「実習計画（案）」の作成と実習先機関の基本的理解ならびに必要なとされる専門的知識と技術に関する理解
3) 実習の準備②	実習記録の書き方ならびに考察、実習生としての態度形成について
4) 実習課題の整理①	地域における精神障害者の生活の実情について実習体験を踏まえ整理
5) 実習課題の整理②	地域における各種関係機関の役割
6) 実習課題の整理③	諸制度・サービスの実際の運用について
7) 実習課題の整理④	実習体験を踏まえた自己覚知、実習記録・評価表による振り返り指導
8) 実習課題の整理⑤	医療機関実習に向けた目標ならびに課題の整理

※実際のスクーリングでは「精保演習B」と「精保実習指導A」を組み合わせて開講する（『レポート課題集A社福・精保指定科目編』精神保健福祉援助演習B「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ開講の流れ」参照）。

※演習前半（「精保演習B-1＋実習指導A-1」）において「現場体験学習」を実施する。

※担当教員により上記各コマの内容および「精保演習B」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

『精神保健福祉援助実習A課題ノート』（10%）＋精保実習A評価表（10%）＋精保実習A記録（20%）＋演習内容（40%）＋実習事後課題レポート（10%）＋帰校指導内容（10%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

■スクーリング時の教科書

- 1) 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー 8 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版, 2013年
※新版でも可。
- 2) 『精神保健福祉援助実習A課題ノート』
- 3) その他, 補助教材（必要に応じ適宜配付）

■スクーリング事前学習

【実習受講者・実習免除者共通】

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の本科目「在宅学習15のポイント」から予習しておくこと（p.162「■スクーリング講義内容」の各テーマに対応する「在宅学習15のポイント」は下表を参照）。

テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)	テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)
1)	1・2・3・4・5・6・7・9	5)	14
2)	15	6)	12・14
3)	13	7)	8
4)	12	8)	-

※「精神保健福祉援助演習B」■スクーリング事前学習参照。

■スクーリング事後学習

※「精神保健福祉援助演習B」■スクーリング事後学習参照。

■精神保健福祉援助実習指導B

阿部 正孝・志村 祐子・八巻 幹夫・大和田 誠子 ほか

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

①精保実習B受講前

医療機関実習に向けて課題を整理するため、事前に実習先について理解を深める。病院ワークの役割について理解ができるよう、これまでの学習を体系的に整理する。

②精保実習B受講後

実習を客観的に振り返り、自分の課題が整理できるように他者からの評価を踏まえ、自己覚知ができるようにする。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) オリエンテーション	精神保健医療福祉の現状の基本的理解
2) 実習の準備①	「実習計画（案）」の作成と精神科医療機関の基本的理解ならびに必要なとされる専門的知識と技術に関する理解
3) 実習の準備②	精神疾患と患者の理解
4) 実習課題の整理①	精神科医療機関における精神保健福祉士の役割の実際について整理
5) 実習課題の整理②	入院から地域移行・地域支援の実際について実習での体験を踏まえて整理
6) 実習課題の整理③	実習記録・評価表による振り返り指導
7) 実習課題の整理④	精神保健福祉援助実習の総括

※実際のスクーリングでは「精保演習C」と「精保実習指導B」を組み合わせで開講する（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』精神保健福祉援助演習C「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ開講の流れ」参照）。

※担当教員により上記各コマの内容および「精保演習C」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

『精神保健福祉援助実習B課題ノート』（10%）＋精保実習B評価表（10%）＋精保実習B記録（20%）＋演習内容（40%）＋実習事後課題レポート（10%）＋帰校指導内容（10%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

■スクーリング時の教科書

1) 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー8 精神保健福祉援助実習指導・現場実習』へるす出版、2013年

※新版でも可。

2) 『精神保健福祉援助実習B課題ノート』

3) その他、補助教材（必要に応じ適宜配付）

■スクーリング事前学習

【実習受講者・実習免除者共通】

1) 『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』の本科目「在宅学習15のポイント」から予習しておくこと（上記「■スクーリング講義内容」の各テーマに対応する「在宅学習15のポイント」はp.165表を参照）。

テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)	テーマ	「在宅学習15のポイント」(回)
1)	—	5)	—
2)	—	6)	—
3)	—	7)	—
4)	12・13		

※「精神保健福祉援助演習C」 ■スクーリング事前学習参照。

■スクーリング事後学習

※「精神保健福祉援助演習C」 ■スクーリング事後学習参照。

◆★精神保健福祉援助実習（事前・事後指導）

阿部 正孝・志村 祐子・八巻 幹夫・大和田 誠子 ほか

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

「精神保健福祉援助演習B・C」および「精神保健福祉援助実習指導A・B」に準じる。

■到達目標

『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照

■スクーリング講義内容

実習事前指導

テーマ	内容
1) オリエンテーション	精神保健福祉援助実習に向けたオリエンテーションならびに地域福祉計画等の諸施策、精神障害者の生活のしづらさの理解 「実習計画（案）」作成指導
2) 実習の準備①	グループワーク、ロールプレイングを用いた相談援助の過程を想定した実技指導（インテーク（受理面接）から終結およびアフターケアまで）
3) 実習の準備②	課題別事例（社会的排除・退院支援・地域移行）についてグループワーク、ロールプレイング
4) 実習の準備③	課題別事例（地域生活支援）についてグループワーク、ロールプレイング

実習事後指導

テーマ	内容
1) 実習課題の整理①	課題別事例（児童虐待・嗜癖問題）についてグループワーク、ロールプレイング
2) 実習課題の整理②	課題別事例（就労・雇用）についてグループワーク、ロールプレイング
3) 実習課題の整理③	課題別事例（精神科デイケア）についてグループワーク、ロールプレイング

4) 実習課題の整理④

実習記録・評価表による振り返り指導

5) 実習課題の整理⑤

精神保健福祉援助実習の総括

※実習事前指導の1日目の実習指導終了後に「実習直前ガイダンス」を開催する。

※「精神保健福祉援助演習B・C」および「精神保健福祉援助実習指導A・B」の包括的内容とする。

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、板書とICTを活用し資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

『精神保健福祉援助実習課題ノート』（10%）＋精保実習評価表（20%）＋精保実習記録（20%）＋演習内容（40%）＋実習事後課題レポート（10%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお評価基準については、実習教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り改定していく。

■スクーリング時の教科書

1) 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『改訂新版精神保健福祉士養成セミナー8精神保健福祉援助実習』へるす出版、2013年

※新版でも可。中央法規出版の教科書でも可とするが、へるす出版の新版の教科書を各自で購入するなど所持していることが望ましい。

2) 『精神保健福祉援助実習課題ノート』東北福祉大学（演習受講者に配付）

■スクーリング事前学習

実習事前指導

1) 『精神保健福祉援助実習課題ノート』を所定の部分まで完成させ演習当日に持参し提出する。

2) 所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』参照）。

3) 「精神保健福祉援助実習計画（案）」を演習受講日ごとに定められた期日までに提出（「精保実習A」受講者のみ）し、最低1回の添削指導を受けてから受講に臨むこと（『レポート課題集A（社福・精保指定科目編）』精神保健福祉援助実習指導B「■レポート課題」、本冊子1部の各課題の期日を参照）。

4) 実習先に提出する「実習生個人記録」「健康診断書」「誓約書」「実習機関への交通手段」「実習先から配慮を希望する内容」（任意）の書類を完成させ実習事前指導当日に持参し提出すること。

※冊子ならびに各様式は「精保演習」受講後、「精保実習」受講希望者に別途配付。

実習事後指導

1) 「精保実習事後レポート」を作成し受講日ごとに定められた期日までに提出（本冊子1部の各課題の期日を参照）。

2) 『精神保健福祉援助実習課題ノート』を所定の部分をすべて完成させ演習当日に持参し提出する。

社会福祉の基礎 三浦 剛

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 社会福祉の概念とその理念を、史的展開に基づいて講義します。
- 2) 現代社会の福祉的課題とそれに対応する制度について講義します。
- 3) 社会福祉の専門性について、価値、知識、技術の枠組みに沿って講義します。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会福祉の歴史	社会福祉の歴史を学ぶ。
2) 社会福祉の理念	社会福祉の理念を理解する。
3) 社会福祉の概念	社会保障、社会福祉の概念を理解する。
4) 生活と福祉	現代日本社会の福祉的課題について知る。
5) 社会福祉制度	福祉的課題とそれに対応する制度を知る。
6) ソーシャルワークの枠組み	ソーシャルワークの枠組みを理解する。
7) ソーシャルワークの実際	ソーシャルワーク実践の実際を知る。
8) 質疑応答	
9) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（自筆ノート、プリントのみ持込可）

■スクーリング時の教科書

教科書『社会福祉基礎』（実教出版）を用いますので、持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書『社会福祉基礎』は事前に読んできてください。

基礎演習 寺下 明・門脇佳代子・小野 芳秀 ほか

演習

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

発達障害者の地域支援 三浦 剛

講義

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリングで学んでほしいこと

知的障害者福祉論では、「知的障害」を持っている人たちが、いまだに社会で十分に受け入れられていないのは何故なのかを検証する気持ちで学んでください。とくに、国民は皆平等と憲法では謳われていますが、現実には、さまざまな分野で「知的障害」を持っている方々が差別や偏見を受けながら生活しているのはどのような要因があるかを調べてください。今日の知的障害者福祉施策は、「施設」から「地域」へといった政策が展開されています。しかし、実際の生活実態および知的障害者福祉政策の課題を具体的に学んでほしいと思います。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 知的障害者福祉の基本的理念と指針	隔離主義から利用者主体へ
2) 知的障害者福祉関連法の理念と知的障害者の概念と実態	理念から乖離, 概念の変容
3) 障害者総合支援法と社会生活支援の進展	法律は不完全燃焼状態
4) 施設福祉と在宅福祉の現状と課題	「施設」と「在宅」との一元化
5) 一般就労と福祉的就労の実態	「就労」とは何か
6) 今後の知的障害者福祉の課題と展望	成年後見制度・グランドデザインなど
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料にもとづいて講義を進めます。教科書も使用します。

■スクーリング評価の基準

授業への出席状況20%+スクーリング試験80%で評価する。スクーリング試験は教科書, 配付資料を持込可とする。

■スクーリング時の教科書

教科書：赤塚俊治著『新・知的障害者福祉論序説』中央法規出版は、必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書は、全ページを読んでください。用語や言葉の意味を理解することよりも、一度、教科書を読んでおくとスクーリング時において授業に入りやすくなります。また、障害者福祉全般に関する法律および関連文献も読んでおくと授業も理解しやすいかと思います。

■スクーリング事後学習

知的障害者福祉論では、「知的障害」「障がい」「人権」「差別・偏見」「生きる・生活」をキーワードにしながらか授業を展開しますが、そのなかでも関心のあるテーマについては、「私」生活をヒントに学習を深めてください。

ケアマネジメント論 高橋 誠一

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

ケアマネジメントというと介護保険のケアマネジメントがよく知られているが、より広く、なぜケアマネジメントが必要とされるようになったのか、ケアマネジメントの目標と焦点とは何か、ケアマネジメントの機能とは何か、基本的な考え方と具体的な実践方法はどのようなものか、どのようにさまざまな分野で活用されているのかを理解する。とくに、ケアマネジメントにおけるストレングスモデルの意義についても、理解を深めたい。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) ケアマネジメントの基本	ケアマネジメントの定義、目標、歴史、焦点、実践機能
2) アセスメント	ニーズアセスメント、包括的アセスメント
3) ケアプラン	ケアプランの構造と展開過程
4) 直接サービス	利用者の主体的判断の尊重、ケアマネジャーの役割
5) 間接サービス	仲介、連結、調整、権利擁護、ネットワーク構築、コンサルテーション
6) モニタリング	モニタリングの機能と過程
7) 評価	評価の役割と方法
8) 質疑応答	補足とまとめ
9) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料にもとづいて講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング時の教科書

教科書『ケースマネジメント入門』を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■参考図書

ラップ、ゴスチャ著『ストレングスモデル—リカバリー志向の精神保健福祉サービス』金剛出版、2014年

NPO論 金 政信

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

今、我が国の民間非営利組織（NPO）は、福祉・医療分野、子ども教育、環境問題、地域づ

くり、国際交流・協力など様々な分野で活動の枠を広げ、各地域での重要性が高まってきています。NPOの活動が活発な分野や地域は光り輝いていると言ってもよいでしょう。

ところで、このNPOとは一体いかなる団体や組織なのでしょう。また、何を行っているのでしょうか。言葉としてはよく耳にしますが、よくわからない、あるいは不明な点も多いと思います。

そこで本講座では、我が国におけるNPOの位置づけや役割、活動を支える制度の実態や、様々な分野での活動内容の実像や実態を把握、検討することで、NPOに対する自分の意見や考えをきちんと述べられるようにすることを目指します。

■到達目標

- 1) NPOに関する基礎的内容を理解し、知識として蓄積し説明できるようになる。
- 2) NPOのさまざまな分野での活動を理解し、実態が把握できるようになる。
- 3) NPOへの興味と理解を深めつつ、NPOについてディスカッションができるようになる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内 容
1) ボランティアについて	活動の概念、NPOとの違いなど NPOとは、NPOとNGO、市民事業体として、沿革と規模、セクターの形成と構造など 事業分野、規模、経営や組織の性格等からの類型化など、特に福祉NPOについて理解を深める 組織的特徴、経営管理的特徴など 財務報告、収入源、顧客、マーケティング、フィランソロピーやメセナについて、企業の社会貢献活動など 財務上の課題、人材育成、悪質NPOの排除、連携など、講義全体のまとめ
2) NPOの概念、生成と発展、NPOセクターの形成と構造	
3) NPOの形態（種別）、NPOの事業分野	
4) NPOの組織および管理の特徴	
5) NPOの財務と資金調達、NPOの顧客とマーケティング NPOと企業	
6) 最近のNPOをめぐる問題と課題、まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%で評価する。

到達目標に記載の内容について評価を含める。試験では単なる知識ではなく、試験テーマに沿って自分自身の見解がどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング時の教科書

資料配付しますが、教科書（田尾雅夫・吉田忠彦著『非営利組織論』有斐閣アルマ）も使用しますので持参ください。

■スクーリング事前学習

『レポート課題集』記載の「在宅学習15のポイント」にそって事前学習として教科書を読み、スクーリングに臨んでください。

◆福祉施設管理論 高橋 誠一 講義

「★■福祉経営論」(p.133)をご参照ください。

リハビリテーション論 稲垣 成昭 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

リハビリテーションは、複数の専門職により行われており、福祉専門職従事者の方々もチームの一員です。今後の福祉専門職種の方々は、チームの一員としてリハビリテーションを担う必要があります。どのようなシステムで行われているのかを的確に把握し、地域で“普通の生活”を送ることの重要性を理解し、リハビリテーションの基本的な考え方を説明できるように学んでいただきたい。

■到達目標

『レポート課題集B(共通基礎・福祉専門編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) リハビリテーション概論①	語源、定義、対象、領域
2) リハビリテーション概論②	リハビリテーションの思想と歴史
3) リハビリテーション概論③	対人援助職に必要とされる態度
4) リハビリテーション専門職種	各種専門職種と過程(プロセス)
5) リハビリテーションの基本にあるもの	日常生活動作(ADL)と生活の質(QOL)
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心(教科書も適宜使用)に講義を進めます。また、適宜グループワークを実施します。

■スクーリング評価の基準

- ・授業への参加状況50% + スクーリング試験50%(持込可)。
- ・試験では特に到達目標記載内容について理解を問います。

■スクーリング時の教科書

- ・澤村誠志編『リハビリテーション論』メヂカルフレンド社、2008年を参考程度に使用します。
- ・当日資料を配付いたします。

■スクーリング事前学習

教科書第1・2・6章をある程度読んでからスクーリングに出席してください。

■参考図書

- ・砂原茂一著『リハビリテーション』岩波新書、1981年
- ・江藤文夫編著『よくわかるリハビリテーション』ミネルヴァ書房、2005年
- ・中村隆一編著『入門リハビリテーション概論 第7版』医歯薬出版、2009年

「★■福祉行財政と福祉計画」(p. 123) をご参照ください。

■スクーリングで学んでほしいこと

少子・高齢化社会を迎えるわが国において、子どもの人権といった問題から、家族・親族間の高齢者における介護・扶養といった問題は、身近な問題といえます。福祉の実務においては、例えば認知症である利用者の財産管理はどのように対処したらいいのでしょうか、虐待を繰り返している両親に対して、子どもの救済を図るためにはどのようにしたらいいのでしょうか。遺産を相続するにあたって、親族間でトラブルが生じた場合にはどのようにしたらいいのでしょうか。経験や勘で対応するのではなく、福祉の現場において、最低限の法律の知識に基づいてアドバイスができる人材が現在求められています。

講義では、家族の新しいあり方と法の関係について現状を認識し、現代の問題点を把握し、よりよく快適な生活を享受し、安心して老後を送るためにはどのようにすべきなのかについて、具体的に学んでいきます。

■到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 家族法の全体像	家族法の特質について
2) 親族	親族の意義、役割について
3) 婚姻制度	婚姻制度の意義について
4) 婚姻の解消	離婚について
5) 親子	人工生殖の問題について
6) 養子制度	普通養子制度と特別養子制度について
7) 親権（児童虐待を含む）	児童虐待の法律上の対応について
8) 成年後見制度の概要	後見・保佐・補助について
9) 法定後見制度と任意後見制度	任意後見制度の役割について
10) 成年後見制度の現状と課題	成年後見制度の現実的な問題点について
11) 家族法の現状と課題	家族法の現実的な問題点について
12) まとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

板書を中心に、教科書も用いながら進めます。しっかりと講義を聴き、ノートをとるようにしてください。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）とスクーリング試験（80%）で評価する。スクーリング試験は持込可とする。

■スクーリング時の教科書

渡辺信英著『福祉社会の家族法 親族編』南窓社、2008年

■スクーリング事前学習

事前に教科書を読んでわからないところとわかるところをある程度、分類把握し、できれば渡辺信英著『更生保護制度（付）社会福祉士・精神保健福祉士の法学問題とその対策』（南窓社）などで、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験問題の法学の問題をチェックしておいてください。

社会福祉法制 志田 民吉

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 社会福祉は社会権的基本権（人権）です。人権や権利の用語を適切に使用できるようになっていただきたい。また社会福祉法（制）は、「社会福祉の向上・増進」が目的ですから、それと法制度との関連を理解してください。
- 2) 児童や障害者の福祉の例から理解できるように、社会福祉法令改正は頻繁に行われています。どのような方向に制度は改正されていくのか、についてのイメージを習得してください。

■到達目標

- 1) 社会福祉法（制）とは何か、について説明ができる。
- 2) 人権、権利の用語を適切に使用することができる。
- 3) 各種の、例えば児童福祉法、老人福祉法などの法律を国際標準で説明ができる。
- 4) 社会福祉関連の判決文が読解できる。
- 5) 各種の虐待防止法制度を説明できる。
- 6) 社会福祉関連の法律制度の近未来の形がイメージできる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 我が国の社会福祉法の動向	最近の社会福祉法制度の改正動向
2) 社会権的基本権の法的性格	国際人権規約（A・B）など人権関連宣言の概説、人権又は権利の概念及び用法、社会権的基本権の法的性格（裁判所判例と学説）
3) 社会福祉と法①	社会福祉の概念と法との関連
4) 社会福祉と法②	社会保障制度審議会勧告（昭和25，同37，平成7年）と社会福祉法体系
5) 社会福祉法の歴史	日本の法の由来、社会福祉法制度の歴史
6) 社会福祉と法③	社会福祉法の概要
7) 社会福祉と法④	社会福祉と裁判
8) 生活保護法の概要	生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法
9) 老人福祉法の概要	国連原則、老人福祉法、介護保険法
10) 障害者福祉法の概要	身体・知的・精神（保健）障害者福祉法、障害者総合支援法
11) 児童福祉法の概要	児童福祉法、国連宣言や条約、母子寡婦福祉法
12) 社会福祉と虐待防止法	社会福祉と児童・障害者・高齢者の各虐待防止法

■講義の進め方

原則として、「社会福祉法制」の『レポート課題集』『在宅学習15のポイント』に対応した講義内容を心掛け、判決例を中心とした事例（新聞などの記事）も積極的に活用します。

■スクーリング評価の基準

授業の参加状況50%＋スクーリング試験50%

■スクーリング時の教科書

あらかじめ配付する『社会福祉法講義ノート』を用いて授業は行いますが、指定の教科書（『社会福祉法入門』有斐閣）を小項目などの細部について活用しますから、持参してください。ただし、以前の教科書『社会福祉サービスと法』を持参でも可とします。

■スクーリング事前学習

配付した『社会福祉法講義ノート』を、テキストを参考にしながら一読しておいてください。また、読解が難しいなどの質疑ができるような事前学習をお願いします。

■スクーリング事後学習

「社会福祉は制度と実践の車の両輪」という意味を確認しておいてください。特に、「社会福祉法（制度）がなければ社会福祉行政はない」ということの意味が取れるようなスクーリングの受講のまとめをしてください。

レクリエーション実技 金 義信・山内 直子・吉澤 秀晃 実技

※実技を伴いますので動きやすい服装で授業に臨んでください。

■スクーリングで学んでほしいこと

1. コミュニケーション・ワークを構成している「ホスピタリティ」・「アイスブレイキング」の基本的技法について体験的に学びます。
2. 支援の目的や対象者に合わせたコミュニケーション・ワークと素材・アクティビティの選択、そして対象者間の相互作用の活用について体験的に学びます。
3. 競技として勝敗や記録を主の目的としている「スポーツ」と遊戯的な要素を持ち楽しむ事や体を動かす事を主の目的として行なわれる「レクリエーション・スポーツ」の両者を体験的に学び相違点を検討します。
4. 子どもから高齢者までの、だれでも、いつでも、どこでも、自分の能力や目的に合わせて、気軽に楽しめる「ニュースポーツ」の種目を幾つか体験的に学びます。
5. 武道の学習では、我が国固有の文化として伝統的な行動の仕方が重視される運動に対する伝統的な考え方を理解し、それに基づく行動の仕方を「短剣道形」を通して、体験的に学びます。

■到達目標

- 1) コミュニケーション・ワークに必要なホスピタリティについて基礎的な支援ができる。
- 2) ホスピタリティトレーニングやアイスブレイキングについて基礎的な支援ができる。
- 3) スポーツとレクリエーション・スポーツの違いを論じることができる。
- 4) ニュースポーツの特性について論じることができる。

5) 日本古来の伝統的な(武道)運動文化性について述べるができる。

■スクーリング講義内容

スクーリングの実技種目は、受講者構成や人数及び施設環境等の関係により、下記の内容と異なる場合もあります。予めご了承ください。

テーマ	内容
1) コミュニケーション・ワーク①	レクリエーションにおけるホスピタリティ
2) コミュニケーション・ワーク②	コミュニケーションに必要な態度、行動と示し方
3) コミュニケーション・ワーク③	アイスブレイキングの基本技術
4) コミュニケーション・ワーク④	アイスブレイキングのプログラム作成
5) ニュースポーツ①	ウォーキングの理解と実践
6) ニュースポーツ②	ウォークラリーの理解と実践
7) ニュースポーツ③	ターゲットバードゴルフの理解と実践
8) ニュースポーツ④	ユニカールの理解と実践
9) 武道①	短剣道形を行うための作法と留意点
10) 武道②	短剣道形の基本動作
11) 武道③	短剣道形の応用動作
12) 武道④	短剣道形の実践(運用:演武形式)

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。また、ワークや実技も行います。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%+実技への参加50%

■スクーリング時の教科書

①配付したプリントを使用します。

②教科書:日本レクリエーション協会『レクリエーション支援の基礎』を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書:日本レクリエーション協会『レクリエーション支援の基礎』のVII巻末資料

1~5について理解を深めておいてください。

特講・社会福祉学1(介護保険と社会福祉士の課題)

特講・社会福祉学10(スクール・ソーシャルワーク論)

特講・社会福祉学13(福祉産業論)

特講・社会福祉学7(精神保健福祉士国家試験対策講座B)

『レポート課題集B(共通基礎・福祉専門編)』参照

特講・社会福祉学18(生活困窮者自立支援の実際)

未定

■ スクーリングで学んでほしいこと・学習目標

個人の尊厳を保持しながら主体的に生活できるように、介護実践の目的に基づいた生活支援を展開するための知識や実践理論の習得を通して専門技能を体得すると共に、介護理念、専門性を構築します。(1)介護実践技術の基本目標、介護観についての理解、(2)生活支援の展開における基本介護の意義、目的の理論的背景に基づいた介護技術の習得、(3)生活機能アセスメント方法の理解、(4)個々に応じたケアスキルの展開方法の理解について、学習します。

■ 到達目標

『レポート課題集B（共通基礎・福祉専門編）』参照

■ スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 介護技術①	身体各部の名称、運動・移動の原則、生活環境整備 体位と姿勢、トランスファー 衣生活の理論と実践 排泄の理論と実践 食事の理論と実践
2) 介護技術②	
3) 介護技術③	
4) 介護技術④	
5) 介護技術⑤	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■ 講義の進め方

配付資料にそって、介護の実践技術を修得するための講義と演習を交えながら、授業を進める。

■ スクーリング評価の基準

- ・授業への参加状況50%＋スクーリング試験50%
- ・試験は単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえた上で、試験課題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■ スクーリング時の教科書

教科書『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度（第4版）』（最新版でなくても可）を参考程度に使用します。

※テキストを持っていない場合でも受講において支障はありません。

■ スクーリング事前学習

テキスト『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』の第13章「介護各論①」をスクーリングを受講する前に読んでおいてください。

(23～) 介護実習事前（・事後）指導 後藤美恵子

■ スクーリングで学んでほしいこと

本科目は、介護実習と連動し、理論から実践化、実践から理論化する有機的な統合能力を習得すると共に、福祉科教員として、福祉専門職養成者に求められる総合能力を涵養する。(1)介護実

習の意義および目的を理解し、自己の目的意識。(2)利用者の日常生活障害。(3)利用者のneedsに即した介護過程。(4)施設の機能および役割。(5)実践を体系化するための記録作成の方法。(6)基礎知識・技術、理論を実践化するための応用展開。(7)介護実習と福祉科教育の関係性について、学習します。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 介護実習の目的	介護実習の意義および目的を理解し、自己の目的意識
2) 日常生活障害と介護	利用者の日常生活障害、needsに即した介護過程
3) 施設機能	施設の機能および役割
4) 実践記録	実践を体系化するための記録方法
5) 理論と実践化	基礎知識・技術、理論を実践化するための応用展開
6) 介護実習と福祉教育	介護実習と福祉科教育との関係性

■講義の進め方

配付資料にそって、授業を進める。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%、受講態度50%により評価する。

■スクーリング時の教科書

介護実習事前指導スクーリング申込者に『介護実習の手引き』、スクーリング時に『介護実習事前事後指導—技術編—』等を配付。

■スクーリング事前学習

事前に送付している『介護実習の手引き』をスクーリングの受講する前に読んでおいてください。

※続けて行われる「介護技術」(p.176)のスクーリング講義概要と併せてご覧ください。

(~22) 介護実習事前(・事後)指導+介護技術 後藤美恵子 ———— 講義・演習

(23~)「介護実習事前(・事後)指導」と「★■介護技術」(p.176~177)をあわせてご参照ください。

教育実習の事前(事後)指導 吉井 宏・佐藤 暢芳 ———— 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

教育実習に臨むにあたり、どのような心構えが必要か、また専門教養や理論に裏付けられた技術は最低どの程度必要なのか、学習指導案や板書は万全か、など教育実習において戸惑うことのないよう、模擬授業なども行い実習前に学び、確認します。

■到達目標

『レポート課題集F（高等学校福祉科教諭免許状関連科目）』＝通信教育部ホームページで4月以降提示されるものを参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 教科「福祉」の理解 2) 授業を創る① 3) 授業を創る② 4) 授業を創る③ 5) 授業を創る④ 6) 授業を創る⑤ 7) 実習ガイダンス	教科「福祉」の9科目 指導案の書き方、教材、教具 指導案の検討・作成 教材、教具の活用 模擬授業 模擬授業の評価・まとめ

■講義の進め方

少人数の授業となるので、模擬授業をはじめ学生の皆さんにも教育実習を意識した内容にしていきたい。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況30% + スクーリングへの取り組み状況40% + 模擬授業の評価30%
特に、「到達目標」記載の内容について評価に含めます。

■スクーリング時の教科書

- ・事前指導スクーリング申込者に配付予定の『中等教育実習の手引』（東北福祉大学）
- ・『福祉科指導法入門』中央法規出版（＝「福祉科の指導法」の教科書）
- ・『高等学校新学習指導要領 解説 福祉編』（＝「福祉科の指導法」の教科書）

※以上3冊は必ず持参ください

- ・『高等学校新学習指導要領の展開 福祉編』明治図書（実習にあたり大いに参考となりますので、購入を推奨いたします）
- ・科目「社会福祉基礎」の教科書（「社会福祉の基礎」を履修登録で配本、もしくは巻末の教材購入申込書を使用して購入が可能）
- ・『福祉教科教育法』ミネルヴァ書房

※以上3冊をお持ちの方は持参ください。

■スクーリング事前学習

科目「社会福祉基礎」についての模擬授業を行いますので、各自で指導案や教材教具についての予習を行っておくとよいでしょう。

教職実践演習（高） 寺下 明

演習

■スクーリングで学んでほしいこと

教員として求められる4つの事項、すなわち、使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、児童生徒理解や学級経営等に関する事項、教科等の指導力に関する事項について学んでほしい。

■到達目標

『レポート課題集F（高等学校福祉科教諭免許状関連科目）』＝通信教育部ホームページで4月に降提示されるものを参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 教職について	履修カルテをもとにこれまでの学習を振り返る
2) 教育論	教育論について討論
3) 教師論①	現代社会の教育諸問題と教職の課題について討論
4) 教師論②	求められる教員の資質について討論
5) 教師論③	教員の仕事と役割について講義と討論
6) 教育実習の報告	教育実習についての報告と討論
7) 特別支援教育	特別支援教育についての講義と討論
8) 学習指導要領①	学習指導要領についての講義と討論①
9) 学習指導要領②	学習指導要領についての講義と討論②
10) 模擬授業①	模擬授業と討論①
11) 模擬授業②	模擬授業と討論②
12) ロールプレイング	ロールプレイングと討論
13) まとめ	教員としての資質能力の確認、総括・補完指導

■講義の進め方

演習形式で進めるが、講義や模擬授業などもある。

■スクーリング評価の基準

授業への取り組み（プレゼンテーションや模擬授業、討議やディスカッションなど）100%により、教員としての資質能力を総合的に判断する。

■スクーリング時の教科書

教科書『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』を持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書に目を通しておいてください。

障害者教育総論 辻 誠一

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

障害者教育の歴史を踏まえ、我が国の特別支援教育の制度や障害者教育全般の基礎的内容を理解することをねらっています。障害者教育総論は、人間の生き方理解に繋がる重要な学習です。将来、どんな職業を目指そうとも、これらを学ぶことは大いに意義のあることです。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 特別支援教育の制度と実際	障害児教育の歴史・制度の概要と理念
2) 障害者教育①	視覚、聴覚、肢体、病虚弱、言語障害教育

- 3) 障害者教育②
- 4) 発達障害教育
- 5) 学校現場の実際
- 6) まとめ
- 7) スクーリング試験

知的, 情緒, 重複障害教育
 発達障害の定義・指導の実際
 特別支援学校及び小・中学校の教育

■講義の進め方

授業計画にそって、ビデオやDVDを活用し授業を展開します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%+スクーリング試験50%（自筆ノートのみ持込可）

■スクーリング時の教科書

佐藤泰正編『特別支援教育概説 改訂版』（学芸図書）は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書の第1章「特別支援教育の基本的考え方」を読んできてください。

■スクーリング事後学習

スクーリング事後学習として、理論を具現化するため、ぜひ実際に特別支援学校等の文化祭や学習発表会、運動会などを見学するなどの体験をお勧めします。

■参考図書

- (1) 辻誠一著『改訂・特別支援教育のコツと技』日本文化科学社, 2010年
- (2) 辻誠一著『子どもを見つめる事例研究の進め方』東洋館出版社, 2011年
- (3) 教科書『特別支援教育概説 改訂版』（学芸図書）の各章末にある「引用及び参考文献」

知的障害者の心理 大関 信隆

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- (1) 知的障害者の行動（主には学習行動）を心理学的な側面から検討する授業です。「気持ちの理解」の授業ではなく、関わり方の土台となる対象者の行動メカニズムの理解を、心理学的な知見、実験結果等の知見をもとにして考えていきます。
- (2) 授業では知的障害者の行動に関する一般法則について検討します。知的障害は個別性が高いと言われますが、それはどの対象にも言えることです。一般的な法則は「個」の特徴を捉える際の最初の切り口となります。一般法則を理解しつつ、ご自身が体験している個の事例をその一般法則と突き合わせながら授業に臨んでください。
- (3) 最終的な狙いとしては、一人の対象を理解する際に「心理学」というある種の軸を土台に、理論と経験とを融合させてベターな関わりを仮説立てられることを目指したいと思います。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 知能, 知的障害に関する基本概念を理解する	ここでは知能という精神機能をどのようなものとして捉えるのかを, 知能検査の説明なども交えながら学びます。

2) 記憶の構造と制御, 認知過程を理解する	記憶にはどのような段階があるのか, 物事を記憶するために, 我々はどのような手段を講じているのか, について実験から得た知見も交えながら学びます。
3) 概念作用と記憶の働きを理解する	言語の発達と, 言語が学習に与える影響や意義について学びます。概念というキーワードを中心に, 言葉が物事の理解にいかに重要なかを学習します。
4) 学習の成立過程と理論を理解する	学習理論について学びます。私たちの行動発生メカニズムを説明することのできる, 古典的条件付けやオペラント条件付けといったテーマを扱います。
5) 非言語 (注意) 媒介・記憶と学習過程を理解する	人の注意機能について知り, 移行学習という実験手法を用いながら, 注意を向ける機能と学習との関連について学びます。
6) 動機づけと認知, 学習過程を理解する	動機付けが学習に及ぼす効果について学びます。社会的剥奪や成功・失敗期待, 外的指向性といったテーマを扱います。
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書と配付資料, それに対応した呈示資料を使いながら授業を進めます。教科書には多くの実験例やそこから得られた知見が書かれています。この知見と, 応用としての関わり方との関連性を中心に述べていきます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100% (持込可)

■スクーリング時の教科書

教科書 梅谷忠勇著『図解 知的障害児の認知と学習—特性理解と援助』田研出版, 2004年は必ず持参してください。この教科書をベースに理解を深めていきます。

■スクーリング事前学習

教科書はサラッとでも構わないので一通り目を通しておいてください。

本科目は知的障害者における「心理学」の授業です。どれでも構いませんので心理学の概論書に目を通しておいてください。

本科目は特別支援学校教諭免許状関連科目です。「知的障害者の心理」と「知的障害者の生理・病理」, そして「知的障害教育」が一つのセットとなった科目です。「～心理・生理・病理」は知的障害者の生物体としての基本システムを理解することが主たる目的であり, 「～教育」はそれをふまえた上での教育方法を理解することが主たる目的です。これらは言わば両輪です。両者の関係をよく意識しながら, 授業の準備をしてください。

肢体不自由教育 鳴海 宏司

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 子どもの運動発達
- 2) 肢体不自由教育の対象となる子どもたちの実際と教育課程
- 3) 肢体不自由教育における自立活動の実際
- 4) 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」の実際

5) 肢体不自由のある子どものキャリア教育

■到達目標

- 1) 「養護・訓練」の目標と「自立活動」の目標の違いを説明できる。
- 2) 子どもの障害の状態に応じた「自立活動」の内容の取り上げ方を解説できる。
- 3) 「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」がどのような計画書か説明できる。
- 4) 肢体不自由のある子どものキャリア教育がどのようなものか説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 肢体不自由教育の基礎的理解	子どもの運動発達、教育課程の編成 健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成 環境の把握、身体の動き、コミュニケーション 作成意義と内容および活用の実際 キャリア教育の求められる背景
2) 自立活動の具体的内容①	
3) 自立活動の具体的内容②	
4) 個別の指導計画と個別の教育支援計画	
5) 肢体不自由教育におけるキャリア教育	
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めますが、自立活動の具体的内容の学習で実技体験もしていただきます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%+スクーリング試験80%（自筆ノートの持込可）。

試験では、特に「子どもの運動発達」と「自立活動の目標」について問います。

■スクーリング時の教科書

教科書『肢体不自由教育ハンドブック』を持参してください

■スクーリング事前学習

教科書の第1章第2節、第2章第1節及び第4章第1節を読んできてください。また、『特別支援学校学習指導要領解説―自立活動編―』を読んできてください。

■参考図書

- 1) 日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』慶應義塾大学出版会、2007年
- 2) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説―自立活動編―』海文堂出版、2009年

知的障害教育 青木 真澄

講義

■スクーリングで学んで欲しいこと

知的障害の特別支援学校で実際にどのような教育が行われているのかを学んで欲しい。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) ○知的障害教育の教育課程の構造 ・特別支援教育における教育目的及び教育目標	・特別支援学校の教育の目的
2) ○知的障害教育の教育課程の構造 ・特別支援教育における教育課程編成の原則	・教育課程の編成の原則
3) ○知的障害教育の教育課程の構造 ・知的障害児の特別支援教育における教育課程	・知的障害児の特徴・学習上の特性、およびそれを考慮した教育課程
4) ○知的障害教育の教育課程の構造 ・特別支援教育における教育課程編成の取り扱い	・学校教育法施行規則に規定されている教育課程編成に関する事項
5) ○日常生活の指導の指導内容と指導方法 ・生活集団を対象とした日常生活の指導 ・日常生活の指導における個別指導	・「朝の会」「給食」「掃除」の指導内容と方法 ・日常生活指導における個別指導
6) ○遊びの指導の指導内容と指導方法 ・遊びの指導のねらい ・遊びの指導の展開	・遊びの指導が導入された背景 ・遊びの指導の効果的な展開方法
7) ○生活単元学習の指導内容と指導方法 ・生活単元学習の教育的意義 ・生活単元学習の指導の展開	・生活単元学習のねらい ・生活単元学習の分類
8) ○生活単元学習の指導内容と指導方法 ・単元の指導計画作成の留意点 ・生活単元学習の効果的な展開方法	・学習指導要領に示されている生活単元学習の指導計画作成上の留意点 ・学校生活全体を見通した計画作成、年間指導計画の作成、単元の指導計画の作成
9) ○作業学習の指導内容と指導方法 ・作業学習の教育的意義	・作業学習のねらいと作業学習の変遷、今後の方向性
10) ○作業学習の指導内容と指導方法 ・作業学習の種類とその展開例	・特別支援学校、知的障害支援学級の作業学習の具体的な展開例
11) ○作業学習の指導内容と指導方法 ・職場実習の意義と指導の展開 ・職場実習の効果的な展開方法	・職場実習の意義 ・職場実習の計画作成の留意点 ・職場実習の事前指導、巡回指導、事後指導の具体例
12) グループセッション 13) スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書をもとにしながら、学校現場での実践的指導方法についての理解を深めるよう、視聴覚教材を用いたり、討議をしたりしながら授業を展開する。

■スクーリング評価の基準

スクーリングの授業参加が50%+スクーリングの試験点数が50%（教科書・ノート持込可）。試験では特に、到達目標記載内容等についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

『知的障害児の特別支援教育入門』は持参してください。

■スクーリング事前学習

インターネットで知的障害児特別支援学校のホームページにアクセスし、実際にどのような教育が行われているのかを学習して欲しい。

■参考図書

月刊雑誌『実践障害児教育』学習研究社

月刊雑誌『特別支援教育研究』東洋館出版社

季刊雑誌『特別支援教育の実践情報』明治図書

重複障害教育総論 鳴海 宏司

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- 1) 重複障害教育の対象となる子どもの実態
- 2) 障害の重い子どものコミュニケーション
- 3) 障害の重い子どもの運動・動作

■到達目標

- 1) 重度・重複障害児について発達の側面と行動的側面から説明できる。
- 2) 障害の重い子どもの実態把握をするときの基本姿勢を説明できる。
- 3) 障害の重い子どもと気持ちや意図を共有するために必要なことは何か説明できる。
- 4) 子どもの必要に応じて姿勢作りがなされていることを解説できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 重複障害と重度・重複障害	重複障害児、重度・重複障害児の概念 実態把握の目的、内容、方法、留意点等 気持ちや意図の共有とかかわるときの基本的態度 ポジショニングの2つの視点、意味 姿勢保持、姿勢変換のためのかかわり方
2) 重度・重複障害児の実態把握	
3) 原初的コミュニケーション	
4) 重度・重複障害児の姿勢作り	
5) 身体とその動きへのかかわり方	
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めますが、姿勢保持や姿勢変換のためのかかわり方等については実技体験もしていただきます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%＋スクーリング試験80%（自筆ノートの持込可）。

試験では、特に「障害の重い子どもの実態把握」について問います

■スクーリング時の教科書

教科書『重度・重複障害のある子どもの理解と支援』は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書の第2部第3章と第3部第2章は読んできてください。

■参考図書

- 1) 鯨岡俊著『原初的コミュニケーションの諸相』ミネルヴァ書房, 1997年
- 2) 高橋純・藤田和弘編著『障害児の発達とポジショニング指導』ぶどう社, 1998年

発達障害者の心理 黄 淵熙

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

近年、子どもの心と発達の問題として学習障害、自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害(ADHD)などの発達障害が注目されるようになりました。また、発達障害の全体像が明らかになってくるにつれ、発達障害本来の症状や特徴とは別に、環境との相互作用の中で形作られてくる二次障害へのケアとサポートの必要性も出てきています。

本講義では、発達障害の定義や特徴などの基本事項を踏まえた上で、疑似体験や討論などを通して発達障害のある児・者が経験する心理上の問題と二次障害を防ぐためのかわり方について考えていきたいと思います。

■到達目標

『レポート課題集D(特別支援編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 発達障害とは	発達障害の定義と種類
2) 発達障害のある児童の心理・行動特性①	学習障害児の心理・行動特性
3) 発達障害のある児童の心理・行動特性②	ADHD児の心理・行動特性
4) 発達障害のある児童の心理・行動特性③	自閉症スペクトラム児の心理・行動特性
5) 発達障害のある子どもへの心理的支援	自己有能感を育てるための支援
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。疑似体験や討論を行います。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況30%+スクーリング試験70%(持込は自筆ノートのみ可)

試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容を踏まえた上で、試験テーマに沿って自分の見解をどれだけ論述できるかについて問います。

■スクーリング時の教科書

プリントを配付しそれに基づいて進めていきます。

■スクーリング事前学習

自分が関わっている事例もしくは参考図書に載っている事例を基に行動および心理的問題について考えてきてください。

■スクーリング事後学習

スクーリングで学習した概念に基づいて自分が関わっている事例を分析し、よりよい対応について考察してください。

■スクーリングで学んで欲しいこと

特別支援教育が注目され、発達障害児にたいしても、耳にしたり関わる機会が増えているかと思われます。しかし、発達障害は障害像が重なる場合も多く、定義があいまいな面もあり、その実像を理解したり、関わり方や指導の方法を習得するのは非常に難しいことです。

今回のスクーリング講義では、映像などで実際の様子を見ながら、それぞれの障害の定義や指導方法について学びたいと思います。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 特別支援教育とは	特別支援教育の歴史と内容について 発達障害の定義について 定義と特性、指導方法について 定義と特性、指導方法について 定義と特性、指導方法について
2) 発達障害とは	
3) 自閉症について	
4) ADHDについて	
5) 学習障害について	
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイント（資料として配付）で講義し、指導方法などについてグループワークも行う。途中DVDも視聴する。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況20%+スクーリング試験80%（持込不可）

■スクーリング時の教科書

教科書『軽度発達障害の教育』は参考程度に使用。主には当日配るレジュメで講義をします。

■スクーリング事前学習

自分がどこに関心があるか考え、特に何を学びたいかを事前に考えてきてください。

■参考図書

小枝達也編著『ADHD,LD,HFPDD,軽度MR児 保健指導マニュアル』診断と治療社, 2002年

■スクーリングで学んで欲しいこと

自閉性障害のある児童生徒の社会自立を目指し、発達を促す指導内容として、どのような内容を設定したら良いかについての理解を深めて欲しい。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 変容をもたらす中核的な機能の発達課題①コミュニケーションの機能を高める発達課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの機能を高める発達課題の選択の視点について ・コミュニケーションの機能を高める発達課題、その実践例について
2) 変容をもたらす中核的な機能の発達課題②コミュニケーションの機能を高める課題を教育課程にどのように位置付けたらよいか	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの機能を高める課題を教育課程にどのように位置付けるかについて
3) 変容をもたらす中核的な機能の発達課題③認知機能を高める発達課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能を高める発達課題をどのような視点で選択するかについて ・認知機能を高める発達課題の実践例について
4) 変容をもたらす中核的な機能の発達課題④認知機能を高める課題を教育課程にどのように位置付けたらよいか	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能を高める課題を教育課程にどのように位置付けるかについて
5) 学習活動を効果的に進めるための方策①効果的な指導方法を選択する、生活の文脈を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な指導方法の選択について ・生活の文脈を活かした指導について
6) 学習活動を効果的に進めるための方策②段階的な指導プログラムを用意する、自閉症の認知特性を考慮した場の設定や教材を用意するー構造化ー	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的な指導プログラムについて ・認知特性を考慮した場の設定や教材について
7) 不適切な行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉児における不適切な行動の原因について ・不適切な行動への対応について
8) グループセッション	
9) スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書をもとにしながら、学校現場での実践的指導方法についての理解を深めるよう、視聴覚教材を用いたり、討議をしたりしながら授業を展開する。

■スクーリング評価の基準

スクーリングの授業参加が50%＋スクーリングの試験点数が50%（教科書・ノート持込可）。試験では特に、到達目標記載内容等についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

『知的障害を伴う自閉児の特別支援教育』は持参してください。

■スクーリング事前学習

インターネットで知的障害児特別支援学校のホームページにアクセスし、自閉症児に対して、実際にどのような教育が行われているのかを学習してください。

■参考図書

月刊雑誌『実践障害児教育』学習研究社

月刊雑誌『特別支援教育研究』東洋館出版社

この科目のスクーリングは、通学課程の集中講義を受講していただく形式です（12/24～26・3日間15コマ+試験・国見キャンパスを予定）。希望者には4月以降に講義内容をお送りさせていただきますので、メール（uc@tfu-mail.tfu.ac.jp）またはFAXまたは郵送などでお申し出ください。

障害者(児)教育実習の事前(・事後)指導 庭野賀津子・辻 誠一 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

特別支援学校における教育実習は、特別支援学校教員免許状取得のための学習の一部である。しかし、別の面からすれば、これまで大学において履修してきた障害者教育に関する理論や技術等を実際の場で生かし、確かめ、深める機会でもある。

教育実習者は、学生の身分としての実習ではあるが、現実には特別支援学校の一教員と同様の勤務を行うものであり、教育者としての責任ある言動をもって実習に臨まなければならない。

実習にあたっては、現場で戸惑うことのないように、事前に、障害者への接し方や学習指導案の作成のしかた等の最小限の必要事項を学び、確認しておく必要がある。また、終了後は、実習の成果を、“理論と実践”の統合の視点からまとめる必要がある。

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容（1）～5）が1日目 6）～9）が2日目

テーマ	内容
1) 特別支援学校の実際①	聴覚障害者を主として指導する学校
2) 特別支援学校の実際②	知的障害者を主として指導する学校
3) 特別支援学校の実際③	肢体不自由者を主として指導する学校
4) 特別支援学校の実際④	病弱者を主として指導する学校
5) 実習ガイダンス	実習内諾・実習依頼の諸手続き
6) 学習指導案の作成	特別支援学校における指導案作成の留意点
7) 授業分析	特別支援学校における授業の分析方法について
8) 観察記録・実習日誌の書き方	実習中の観察記録の取り方および実習日誌の書き方について
9) 生徒指導・実習の心得	特別支援学校における生徒指導について、実習生としての心構えについて

■講義の進め方

教科書にしたがって、教育実習の概要、学習指導案の書き方、諸注意について講義をします。また、適宜、特別支援学校の教育現場の様子のビデオを視聴し、理解を深めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング時に筆記試験は行いません。事前指導スクーリング受講後、指定期日までに『障害者教育実習の手引き』に記載された課題に基づき、指導案を作成することが必要です。スクーリング時の授業参加態度20%、指導案（事前レポート）80%で評価します。

■スクーリング時の教科書

教科書『障害者教育実習の手引き』を使用しますので、スクーリング当日必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書『障害者教育実習の手引き』を事前に読んでおいてください。

■スクーリング事後学習

指定期日までに『障害者教育実習の手引き』に記載された課題に基づき、指導案を作成することが必要です。

■スクーリング受講条件・諸注意

申込締切日の時点で『レポート課題集D（特別支援編）』記載の受講条件を満たしているのみが受講できます。交通機関の遅延（当日）が理由であるうとも遅刻・欠席すると、実習の受講ができなくなりますので、余裕をもってご来校ください。

■参考図書

授業中に紹介します。

特別支援教育支援員概論 庭野賀津子・鳴海 宏司 講義

※1日目は運動できる服装で受講してください（更衣室はありません）。

■スクーリングで学んでほしいこと

【1日目：1～4コマ（鳴海宏司先生）】

- ① 脳性運動障害のある子どもの理解と介助の実際
- ② 小児慢性特定疾患の子どもの理解と日常的なかかわりでの留意点

【2日目：5～8コマ（庭野賀津子先生）】

- ①特別支援教育についての理解
- ②特別支援教育支援員の役割
- ③発達障害の理解と支援

■到達目標

『レポート課題集D（特別支援編）』参照

■スクーリング講義内容（1）～4）が1日目 5）～8）が2日目

テーマ	内容
1) 肢体不自由教育の対象になる子ども①	脳性まひ児の身体の動きへのかかわりと車いす操作
2) 肢体不自由教育の対象になる子ども②	脳性まひ児の認知や行動の特性
3) 病弱教育の対象になる子ども①	慢性疾患の子どもの学校生活の実際
4) 病弱教育の対象になる子ども②	学習性無気力、主観的健康統制感、自己効力感
【2日目】	
5) 特別支援教育の現状	我が国の特別支援教育の現状について知る
6) 特別支援教育支援員の役割	学校現場における特別支援教育支援員の役割について具体的に知る
7) 発達障害の理解と支援	発達障害児の理解と支援について、具体的な事例を通して知る

8) まとめと質疑応答

二日間の授業の内容のまとめと、質問があれば受け付ける

9) スクーリング試験

■講義の進め方

1～4 コマめは、パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めますが、車いす操作等については実技体験もしていただきます。教科書も適宜使用します。

5～8 コマめは、教科書にしたがって、特別支援教育支援員としての心構えや、各障害への対応等について講義します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加態度10%、スクーリング試験90%（自筆ノートのみ持込可）により総合的に評価します。1～4 コマ部分についての試験では、特に「脳性まひ児の感覚・認知・行動の特性」について問います。

■スクーリング時の教科書

教科書『特別支援教育支援員ハンドブック』は必ず持参してください。

■スクーリング事前学習

教科書『特別支援教育支援員ハンドブック』をよく読んできてください。特に第3章の3および4を読んできてください。

■スクーリング事後学習

教科書『特別支援教育支援員ハンドブック』を読んで復習をしてください。

■参考図書

【1日目】

- 1) N. R. Finnie編, 梶浦一郎・鈴木恒彦訳『脳性まひ児の家庭療育』医歯薬出版, 1999年
- 2) 全国特別支援学校病弱教育校長会・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所『病気の子ども理解のために』2008年

【2日目】

授業中に紹介します。

福祉心理学 渡部 純夫

講義

p. 120をご覧ください。

心理学概論 佐藤 俊人

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学の基礎を学び、自分や他者の心を理解することは日常生活の多くの場面で有効なものです。

心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学びます。

研究をはじめて間もない方にとっては心理学の全体像をイメージしていただき、また、すでに

研究が進んでいる方にとっては、その再確認をしていただけることをめざします。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかを学ぶ。
2) 心の構造①（精神分析的な視点から）	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
3) 心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
4) 日常生活の中の学習理論①	古典的条件づけの基本について学ぶ。
5) 日常生活の中の学習理論②	古典的条件づけの応用可能性について学ぶ。
6) 日常生活の中の学習理論③	オペラント条件付けの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
7) 発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
8) 発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
9) 欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合うための方略を学ぶ。
10) カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
11) カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
12) まとめ	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可）

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング時の教科書

『図説 現代心理学入門 三訂版』培風館、2006年（古い教科書「改訂版」でも可）

■スクーリング事前学習

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？ アルカリ性の液体をつけると…？ 理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。4つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

このスクーリングでは、「ミュラーリヤー錯視」（皆川州正担当；新潟会場＝佐藤俊人担当）、「刺激の弁別閾」（大関信隆担当；新潟会場＝柴田理瑛担当）、「印象形成」（柴田理瑛担当）、「長期記憶の検索」（佐藤俊人担当）という4つの実験を体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（仙台会場は1日1つずつの実験を行い4日間、新潟会場は2日めに2つの実験を行い3日間のスクーリングとなります）。

テーマ	内 容
1) オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2) 刺激の弁別閾①	知覚における閾値の考え方を学び、感覚弁別実験の概要を理解する。
3) 刺激の弁別閾②	実験実施。
4) 刺激の弁別閾③	感覚弁別実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
5) ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6) ミュラーリヤー錯視②	実験実施。
7) ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8) 印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
9) 印象形成②	実験実施。
10) 印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。

- 11) 長期記憶の検索①
12) 長期記憶の検索②
13) 長期記憶の検索③

記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。
実験実施。
長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。

■講義の進め方

受講者は、実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

■スクーリング評価の基準

スクーリング期間中に行った4つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します（実験中に提出できない場合は仙台：8/22 新潟：9/10必着で提出）。

最終の単位認定は実験レポートとは別に、「単位認定レポート」（『レポート課題集C（心理専門編）』の23～24ページに示されている課題1から課題4のうちいずれか1課題：2000字程度）の提出後となります（12/24必着で提出。ただし9月卒業希望者や10月生科目等履修生は仙台会場8月末、新潟会場9/10必着で提出）。

※「新潟会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■スクーリング時の教科書

スクーリングでは教科書は使用しません。適宜、資料を配付します。

■スクーリング事前学習

『福祉心理学科 スタディガイド』のII章を熟読してきてください（社会福祉学科・科目等履修生の方は6月ごろ『福祉心理学科 スタディガイド』の配本申請をして入手してください）。

※スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを持参してください。

心理学実験Ⅱ 西野美佐子・中村 修・吉田 綾乃・平川 昌宏 実験

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験Ⅱと心理学実験Ⅰが目的とするものは半分同じで、半分異なると言っていいでしょう。

「同じもの」は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして○○な行動をするのだろうか？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいでしょうか？ この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうか、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

次に「異なるもの」ですが、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う4つのテーマは以下に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこで

は何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

このスクーリングでは、「系列学習法」（担当：平川昌宏）、「鏡映描写」（担当：西野美佐子）、「概念学習」（担当：中村 修）、「社会的影響」（担当：吉田綾乃）という4つの実験を体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により変更になります（仙台会場は1日1つずつの実験を行い4日間、東京会場は2日めに2つの実験を行い3日間のスクーリングとなります）。

テーマ	内容
1) オリエンテーション	心理学における実験の意義および仮説検証のロジックの説明
2) 系列学習法①	テーマおよび実験方法の説明
3) 系列学習法②	実験実施
4) 系列学習法③	データ分析と実験レポートの記述法
5) 鏡映描写①	テーマおよび実験方法の説明
6) 鏡映描写②	実験実施
7) 鏡映描写③	データ分析と実験レポートの記述法
8) 概念学習①	テーマおよび実験方法の説明
9) 概念学習②	実験実施
10) 概念学習③	データ分析と実験レポートの記述法
11) 社会的影響①	テーマおよび実験方法の説明
12) 社会的影響②	実験実施
13) 社会的影響③	データ分析と実験レポートの記述法

■講義の進め方

受講する方は、実験ごとに、(1)その実験についての概説を聞く、(2)実験の実施、(3)実験データの整理と分析、(4)レポート作成という一連の作業を行います。(2)は個人作業またはグループ作業となります。

■スクーリング評価の基準

スクーリング期間中に行った4つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します（実験中に提出できない場合は仙台：9/1 東京：10/8（9月卒業生特例：9/30＝ただし卒業要件に入れることはできません）必着で提出）。

最終の単位認定は実験レポートとは別に、「単位認定レポート」（『レポート課題集C（心理専門編）』の29～30ページに示されている課題1から課題4のうちいずれか1課題：2000字程度）の提出後となります（12/24必着で提出。ただし9月卒業希望者や10月生科目等履修生は仙台会場8月末、東京会場9月末必着で提出）。

■スクーリング時の教科書

スクーリングでは教科書は使用しません。適宜、資料を配付します。

■スクーリング事前学習

『福祉心理学科 スタディガイド』のⅡ章を熟読してきてください。社会福祉学科・科目等履修生の方は6月ごろ『福祉心理学科 スタディガイド』の配本申請をして入手の上、Ⅱ章を熟読してきてください。

※スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、4色ボールペンを持参してください。

■スクーリング受講上の注意

9月卒業希望者は、東京の「心理学実験Ⅱ」を受講することは可能ですが、卒業要件単位に含めることはできません。10月生科目等履修生が9月東京会場スクーリングを受講するためには、10月以降の新年度の履修登録が必要です。

心理学研究法Ⅰ 木村 進・西野美佐子・吉田 綾乃・大関 信隆 ———— 講義

■スクーリングで学んでほしいこと

この科目は、心理学において使われるいくつかの代表的な方法のうち、「観察法」「面接法」「質問紙法」についてとりあげ、これらの基本的理解を図ることを目指しています。まず、最初の1コマで心理学における方法論について全般的な講義を行います（担当 木村進）。その後、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれについて2コマずつ講義を行い（担当 「観察法」西野美佐子、「面接法」大関信隆、「質問紙法」吉田綾乃）、これらの方法の特徴およびその効用と限界について具体的に解説していきます。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容	担当
1) 心理学研究法概説	心理学における研究の進め方	木村
2) 質問紙法①	質問紙法の基本的理解と実際	吉田
3) 質問紙法②	質問紙法の効用と限界、実施の際の留意点	吉田
4) 観察法①	観察法の基本的理解と実際	西野
5) 観察法②	観察法の効用と限界、実際の際の留意点	西野
6) 面接法①	面接法の基本的理解と実際	大関
7) 面接法②	面接法の効用と限界、実施の際の留意点	大関

■講義の進め方

1コマめは配付資料と板書で進める。2～6コマめはパワーポイントと配付資料をもとに進める。質問紙法・観察法・面接法のそれぞれの時間に、確認小テストをおこなう。

■スクーリング評価の基準

- ・授業への参加状況（10%）＋「観察法」、 「面接法」、 「質問紙法」に関するスクーリング試験（各30%、合計90%）により評価する。
- ・各試験では、単なる知識の確認ではなく、各研究方法の特徴をふまえたうえで、指定されたテーマあるいは自分自身の興味・関心に基づいて、適切な研究計画を立案することができるかどうかについて問います。

■スクーリング時の教科書

教科書『教育心理学研究の技法』は必ず持参してください。

■スクーリング事後課題（2単位めレポート）

スクーリング終了後、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を実際に用いた研究論文を配付します。配付された研究論文の中から1つを選び、そこで用いられている方法についてまとめ、考察を行うことが「心理学研究法Ⅰ」のレポート2単位めの課題となります（くわしくは、『レポート課題集C（心理専門編）』p. 35～41を参照してください）。

■スクーリング事前学習

受講者は、受講前に『レポート課題集C（心理専門編）』「心理学研究法Ⅰ」のページ、さらに『福祉心理学科 スタディガイド』のⅢ章「心理学研究に取り組む」をよく読んできてください。

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに福祉心理学科専門必修科目・選択必修科目・選択科目A群の科目から7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（心理学実験を含めても可・提出していれば不合格や未採点のものがあっても可・S科目はレポートがないので含められない）。くわしくは、『レポート課題集C（心理専門編）』参照のこと。

心理学研究法Ⅱ

木村 進・白井 秀明・中村 修・平川 昌宏・柴田 理瑛

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 心理検査法①	知能検査法と発達検査法の概要と留意点
2) 心理検査法②	性格検査法（質問紙検査法及び投影法）の概要と留意点
3) 心理統計①	統計的仮説検定とその手続きの概要説明
4) 心理統計②	質問紙調査法に基づくデータ処理の概要説明
5) 心理統計③	相関・連関についての講義と演習
6) 心理統計④	有意差検定についての講義と演習

■講義の進め方

配付資料と板書を基にした講義と、統計処理実習等の個人作業を行います。

カイ二乗検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトを用いた実際のデータ分析も行っていきます。具体的には、ある仮説を確かめるために計画された架空の調査研究を紹介し、その調査によって得られた架空のデータをお渡しします。そのデータに対して、実際に統計処理ソフトSPSSを使って「カイ二乗検定」「t検定」「相関分析（無相関検定）」を行います。そして、その分析結果に基づいて仮説が支持されたかどうかの判断をする、という練習をしていただきます。

■スクーリング評価の基準

事前課題の提出状況30%と、事後課題の提出および採点70%によって評価します（この科目はスクーリング試験は実施しません）。

■スクーリング時の教科書

スクーリング時は教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習・事前課題

受講生は『レポート課題集C（心理専門編）』『心理学研究法II』のページ、ならびに申込者に事前に送付される講義資料をよく読んできてください。

さらに、スクーリング事前学習として『レポート課題集C（心理専門編）』1単位めレポート（課題1）「要約レポート」が課されています。「要約レポート」はスクーリング初日に必ず持参してください（郵送しないこと）。

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに福祉心理学科専門必修科目・選択科目A群の科目から7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（心理学実験を含めても可・提出していれば不合格や未採点のものがあったても可。S科目はレポートがないので7科目に含められない）。くわしくは、『レポート課題集C（心理専門編）』参照のこと。

■スクーリング事後課題

この科目の1単位めのレポートは、スクーリング期間中または終了後決められた期限必着（ただし3月受講で3月卒業希望者は1・2単位めレポートとも終了後3日以内必着）で提出することが求められます。

2単位めのレポートは、原則としてスクーリング受講後に提出してください。

社会心理学 吉田 綾乃

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

社会心理学は、人間の社会的行動の法則性を明らかにする学問です。私たちの社会的行動には不可解な現象が数多く存在します。それらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けています。社会心理学は様々なアイデアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようと試みています。講義では、できるだけ多くの興味深い研究を具体的に紹介しつつ、私たちの持つ心のメカニズムについて考えます。そして人間の社会的行動について客観的に考察する態度を養うことを目的とします。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会心理学とは 対人認知①	社会心理学研究の視点 ゲシュタルト・モデル, 期待効果, ネガティビティ・バイアスなど
2) 対人認知② 態度①	スキーマ, ステレオタイプ, 偏見の自己制御モデルなど 認知的不協和理論, 自己正当化, 説得など

3) 態度②	承諾を生むルール（返報性・一貫性）、プロパガンダなど 傍観者効果、没個人化、権威への服従、多元的無知など 社会的影響、集団思考、同調、少数派の影響過程など 心理学の知識をいかす
4) 援助行動と攻撃行動	
5) 集団と個人	
6) まとめ	
7) 試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料により講義を進めます。現実の出来事や自分自身のものの見方や行動を見直すきっかけになるような社会心理学の研究成果を紹介していきます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験（100%：持込可。スクーリングの内容から出題。論述式）

■スクーリング時の教科書

池上知子・遠藤由美著『グラフィック社会心理学 第2版』サイエンス社 は参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書の第1部1章・2章・3章、第3部8章・10章を中心に読んできてください。

社会心理学（東京開講分） 高口 央

講義

■スクーリングで学んで欲しいこと

社会心理学は、人間の社会的行動の法則性を明らかにする学問です。私たちの社会的行動は多くの要因の複雑な影響を受けています。社会心理学は、様々なアイデアに基づいた実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようと試みています。講義では、いくつかの研究を紹介しつつ、社会的行動について客観的に考察する態度を養うことを目的とします。

■到達目標

- 1) 社会心理学の研究視点やそれを実現するための研究方法の特徴を説明できる。
- 2) 自己概念、他者に対する印象の形成の過程を説明できる。
- 3) ある対象に対する態度の形成のされ方やその変容の影響過程について説明できる。
- 4) 他者が存在することで生じるひとの行動特徴について説明できる。
- 5) 他者を意識することや社会的規範によって生じる行動変容の特徴について説明できる。
- 6) 複数の集団が存在することによって影響される心理過程について説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 社会心理学とは	研究視点、研究方法
2) 自己と対人認知	自己評価、印象形成
3) 態度形成	認知的不協和理論、説得技法
4) 社会的影響	社会的促進・抑制、社会的手抜き・補償
5) 集団と個人	同調行動、集団間差別
6) 質疑応答	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%＋スクーリング試験50%（持込可）。試験では、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

教科書、池上知子・遠藤由美著『グラフィック社会心理学 第2版』サイエンス社を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書の序章、第1部1章、第2部5章、6章、第1部3章、第3部10章を中心に読んできてください。

■スクーリング事後学習

参考図書など、講義内容に関連する他の書籍資料も読むなど、講義内容から、さらに深く学びたいと思ったテーマについて、自分なりに調べてみてください。

■参考図書

唐沢かおり編『朝倉心理学講座7 社会心理学』朝倉書店

池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子著『社会心理学』有斐閣 など

家族心理学 西野美佐子

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

家族心理学は、1980年代に誕生した心理学で、個人を家族や社会から切り離すことなく、そのシステム内外の関係性を重視して理解し、心理学的支援を行うことを課題とする学問である。人間発達にとって家族とは何か、心身の健康にかかわる家族発達段階と課題、その解決に向けたシステム変化とはなにかをスクーリングの学習目標とする。家族危機の時代といわれる現代社会にあって、家族はいかなる課題に直面しているか、説明できるようになるのが目的です。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 家族心理学とは①	家族心理学台頭の歴史的背景、家族をめぐる社会的状況
2) 家族心理学とは②	家族システム理論・家族内コミュニケーション
3) 家族のライフコースと発達段階①	各発達段階の課題・家族に降りかかるストレス
4) 家族のライフコースと発達段階②	夫婦関係の心理、父性・母性のペアレンティング
5) 家族の心理的査定	エコマップ・ジェノグラム・家族機能尺度（円環モデル）
6) 家族関係への臨床的介入	家族面接の方法・短期療法
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料と教科書を使用し、事例も交え講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験（100％）

■スクーリング時の教科書

岡堂哲雄編『家族心理学入門』培風館 を使用します。

■スクーリング事前学習

教科書の序論・第1章・第2章・第3章・第7章・第9章・第18章・第20章を読んでください。

人間関係論

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

環境心理学 柴田 理瑛

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

環境心理学は、人間と環境を一つのシステムとして捉え、物理的な環境だけでなく、社会的、対人的な環境における人間の心理を明らかにする心理学の研究分野です。たとえば、毎日の生活を快適にするためには、部屋のインテリアや採光、温度などをどのように設置すれば良いかといったことについて研究されています。一方、地球温暖化などの環境問題はなぜ発生するのか、解決するにはどのようなアプローチがありえるか等についても盛んに研究されています。このように、最適な心理反応を得るための物理的環境の条件や、環境問題における人間の心理を研究するのが環境心理学です。

この科目では、職場環境や居住環境の快適性、地球温暖化などの環境問題といったテーマに焦点を当てながら、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。各テーマの代表的な研究だけでなく応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して環境心理学についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 住宅環境と居住性	居住環境の機能性・快適性・安全性について オフィス環境の機能性・快適性・安全性について
2) オフィス環境の快適性	
3) 地域環境と快適性	地域環境の快適性と評価について
4) 地球環境と人間	共有地の悲劇・グローバル・チェンジについて 環境配慮行動・リスク認知について
5) 環境保全の実践	
6) まとめ	

7) スクーリング試験

■講義の進め方

プレゼンテーションと配付資料を活用しながら授業を進める。環境心理学のそれぞれの分野における代表的な研究内容と実験について、視聴覚メディア等を視聴することもある。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況(20%) + スクーリング試験(80%:持込可)で評価します。具体的には、スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述できるかについて問う予定です。

■スクーリング時の教科書

教科書『快適環境の社会心理学』を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書『快適環境の社会心理学』を所持している方は第一章に目を通しておくようにしてください。

生涯発達心理学 木村 進

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

一人の非行少年がいるとする。友達が悪いから非行をするようになったと言う人もいるし、親の育て方に問題があったのだろうと考える人もいる。現在の状態をそれまでの積み重ねの結果と見るのが、発達の視点である。生涯発達心理学は、人は絶えず変化するものと捉え、その変化の様相とその変化をもたらす要因を明らかにしようとするものである。

講義では、人の一生をいくつかの段階に区切って説明するが、それぞれの段階は、有機的な関連性をもって積み重なっていくということを理解してほしい。そのためには、受講生一人一人が、自分の中の発達ということに目を向けて、自分の経験としての発達を踏まえて理解することが効果的であろう。

■到達目標

『レポート課題集C(心理専門編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 生涯発達とは何か	①生涯発達の理解(研究の歴史も踏まえて) ②ライフコースからみた発達
2) 発達段階と発達課題	①発達段階とは ②その具体的な内容 ③発達課題とは ④その具体的な内容
3) 発達のプロセス①幼児期まで	①新生児期~乳児期~幼児期の発達の流れ ②母子関係の重要性の理解
4) 発達のプロセス②児童期	①児童期とは ②児童期の発達の特徴 ③児童期から青年期へ
5) 発達のプロセス③青年期	①青年期とは(特徴) ②青年期における発達 ③自我同一性の確立へ

6) 発達のプロセス④成人期	①成人期前期の特徴と発達課題 ②成人期後期（中年期）の特徴と発達課題
7) 発達のプロセス⑤老年期	①心理学的に捉えた老年期の意味 ②老年期の特徴と発達課題 ③サクセスフル・エイジングに向けて
8) 発達のメカニズム①発達の生物学的側面	①脳の発達 ②遺伝の仕組み ③遺伝に起因した障害
9) 発達のメカニズム②発達の心理・社会的側面(1)	①遺伝と環境 ②遺伝に関する心理学的研究 ③環境の影響
10) 発達のメカニズム③発達の心理・社会的側面(2)	①成熟と学習 ②初期学習 ③発達の法則
11) 発達の臨床	①発達の臨床とは ②障害の理解 ③心の問題の理解
12) まとめの話と質疑応答	①まとめの話「発達を理解した？」 ②質疑応答
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書にもとづいて講義を進める。必要に応じて資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験（100%：持込は自筆ノートのみ可）

■スクーリング時の教科書

平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ ライフサイクル』ミネルヴァ書房

■スクーリング事前学習

教科書の p. 1～115は読んできてください。

児童青年心理学 西野美佐子・中村 修 講義

このスクーリングは「児童期・思春期」部分（担当 西野美佐子・6コマ）と「青年期」部分（担当 中村修・6コマ）に分けて講義を行い、スクーリング試験も別々に行います。先に「児童期・思春期」から講義を行います。

（児童期・思春期部分） 西野美佐子担当分

■スクーリングで学んでほしいこと

児童期とは、小学校入学から第2次性徴が発現するまでの時期で、およそ6歳から12歳頃の時期に相当するが、この児童期をより深く理解するために、就学前の幼児期と思春期についても理解する必要がある。この児童期は、他の年齢に比べて罹患率が低い等から比較的安定した時期と見られている。しかし、今日小1プロブレムや中1プロブレムなど移行期にともなう子どもの問題行動が社会問題となっている。また9・10歳の壁として知られる論理的思考のつまずき、ギャングエイジに代表される友達関係の変質、この時期特有の心身症、収束したかに見える発達加速現象など、児童期・思春期の発達理解には知らなければならないことが多い。自分の育ちを振り返りながら平穏な児童期と疾風怒涛の青年期の始まりに当たる思春期について、理解を深めて

もらいたい。今日の子どもの発達や子どもたちが置かれた状況の理解が深まることで、子どもたちとの時間ももっと前向きにとらえられるようになることを期待している。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 児童期とは①	発達段階の中での位置づけ 児童期を取り巻く生態学的環境 その発達的特徴と教育課題 その発達的特徴と教育課題 文化と子どもの発達 睡眠科学と子どもの発達・子どもの個性への理解
2) 児童期とは②	
3) 低学年と中学年	
4) 高学年と思春期	
5) 子どもらしさを捉える①	
6) 子どもらしさを捉える②	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料と教科書を使用しながら講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（10%）とスクーリング試験（90%）

■スクーリング時の教科書

心理科学研究会編『小学生の生活とこころの発達』福村出版

■スクーリング事前学習

教科書の第2部と第3部を読んできてください。

（青年期部分） 中村 修担当分

■スクーリングで学んでほしいこと

「アイデンティティ」と「移行」、2つをキーワードに青年期の発達を概観していきます。この時期の発達課題として設定されるアイデンティティについて、「アイデンティティはどうやって形成されるのか」「アイデンティティはどうして必要なのか」など、アイデンティティ「に関する」「にまつわる」「から展開される」疑問に迫っていきたいと思います。また、青年期は人生というライフスパンのあくまで一時期です。生涯という流れの中で青年期を捉えるために、「青年期への移行」「青年期からの移行」についても考えていくこととなります。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 青年期はどういう時期なのか？①	青年期の位置づけをめぐる歴史的展開 発達における「文脈」 自己概念の分化と統合、それに関わる他者の存在 アイデンティティ形成プロセス アイデンティティとキャリア形成
2) 青年期はどういう時期なのか？②	
3) アイデンティティ概念①	
4) アイデンティティ概念②	
5) 青年期から次の発達期へ	
6) まとめと質疑応答	

7) スクーリング試験

■講義の進め方

配付資料をもとに板書もしながら進めます。またDVDを用いて事例を紹介します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（配付プリント、レポート課題3・4単位めの教科書使用可）

試験では、スクーリングで学んだ内容を十分に活用した上で、試験テーマにもとづいて論を展開できるかについて問います。

■スクーリング時の教科書

プリントを配付しそれにもとづいてすすめていきますが、レポート課題3・4単位めの教科書（菊池武利監修 沼山博編集『トピックス 思春期・青年期と向き合う人のための心理学』中央法規出版、2004年）の関連ページも講義中に指摘しますので、できればお持ちください。

■スクーリング事前学習

教科書の第1章と第4章を読んできてください。

老年心理学 吉川 悠貴

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

本科目では、心理学的な観点から高齢期（老年期）の理解をはかります。また、認知症や死の問題など、高齢期に関わる現代の課題をとりあげながら、具体的な理解を深めます。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 加齢の考え方	加齢を捉えるための諸概念と現状
2) 加齢と関係する心身の変化①	加齢と身体的変化
3) 加齢と関係する心身の変化②	加齢に伴う感覚・知覚、注意・反応の変化
4) 加齢と関係する心身の変化③	加齢と記憶
5) 加齢と関係する心身の変化④	加齢と知的機能
6) 高齢期における適応①	高齢期の発達と環境変化
7) 高齢期における適応②	高齢期の適応とパーソナリティ
8) 認知症の理解とケア①	認知症の基礎的理解
9) 認知症の理解とケア②	認知症のある人の心理と対応
10) 認知症の理解とケア③	認知症の人を介護する家族の理解と支援
11) 高齢期における適応③	高齢期と死の問題
12) 全体のまとめと質疑応答	
13) 試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（50%）＋スクーリング試験（50%：持込可）

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます。

■スクーリング時の教科書

教科書『介護福祉士養成テキストブック10 発達と老化の理解』および『介護福祉士養成テキストブック11 認知症の理解』（最新版でなくても可）は、参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書は参考程度に使用しますが、各教科書の第1章の概要を把握しておくといよいでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、高齢期の捉え方や高齢者の心理について、各自事前に考えておいてください。

教育心理学 白井 秀明

講義

■スクーリングで学んで欲しいこと

「教育」について再考する心理学的な視点を学んで欲しいと思います。そのためには、「教える」「学ぶ」という普段何気なく使っていることばの意味について、各自が自分で再吟味する必要があります。そこで、授業の目標を次の「到達目標」に掲げる4点に絞ります。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 「教育」ってなんだろう？	①「人間らしさ」とは何か ②「教育」をうばうとヒトはどうなるのか ③教育は、学校教育だけか？（学校外教育の重要性・再び学校教育とは）
2) 教育と発達の関係	①発達って？ ②発達は何によってもたらされるのか？ ③2つの対照的な発達観（ピアジェの発達段階説・ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」）
3) ヴィゴツキーとピアジェの「教育と発達の関係」の比較	①ヴィゴツキーの「教育観」とは ②ピアジェの考え方の弱点 ③ヴィゴツキーから教育を捉え直す
4) 「教える」とは…その根底にある態度・考え方	①学習者の「つまずき」を理解する ②「子どもの味方になる」とは ③学習者のつまずきを支援するには？ ④学習意欲の正体？ 学習意欲を引き出すには（外発的動機づけを利用する・内発的動機づけを利用する）
5) 教育評価について	①今の自分の考えを書いてみよう！ ②目的的活動と評価活動について ③再び「評価」とは ④授業の改善と調整のための教育評価
6) まとめ	

■講義の進め方

白井が作成した（書き込むための余白を多めにとった）プリント教材と資料を使い授業を進めます。スクーリングの中で2つのレポート課題のエッセンスもお話しします。

■スクーリング評価の基準

スクーリング最終時限に行われる試験100%で評価します。持込不可。スクーリングの内容から2題。「授業の感想」も書いてもらいます。授業での学びが日頃の仕事や生活のこととどのように結びつけられるようになったのかを白井の授業の自己評価として知りたいからです。

■スクーリング時の教科書

スクーリングでは教科書に沿った進め方はしません。教科書を持参して授業中に自分で線を引き、書き込むなどは自由になさってください。

■スクーリング事前学習

教科書『教育心理学－思想と研究』の第1章から第8章を中心に一読してきてください。わかるところもあるし、わからないところもたくさんあるな、と思ってもらえれば結構です。

障害児の心理 木村 進

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

「私の子どもは障害児ですか？」と母親から尋ねられることがある。「アスペルガー障害は治らないんですよ」と担任の教師から尋ねられた。私は、40年近く障害を持った子どもやその親、あるいは担任の教師たちとつきあってきた。発達心理学者の立場で、障害をどのように理解し、それにどのようにアプローチしてきたかということをもとに、障害児についているいろいろな角度から考えてみたい。

講義では、まず「障害」ということをどのように理解したらいいかということから始め、具体的な障害の理解を促進し、そして障害をもつ子どもの心理的特徴を論じた後で、どのように働きかけたらいいかについて考えてみたい。受講生一人一人の障害児との関わりは異なると思われるので、ここでは初心者向けの内容を取り上げる予定である。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 「障害」とは何か	授業のオリエンテーション/ ①WHOの見解 ②発達心理学からの考察
2) 「障害」と発達・教育	①発達とは何か ②教育とは何か ③障害児の発達の理解 ④障害児教育のあり方
3) 知的障害の理解	①知的障害の定義 ②知的障害児の心理的特徴 ③知的障害児の理解
4) 運動障害の理解	①運動障害（肢体不自由）とは ②運動障害の症状 ③運動障害の心理的特徴

5) 言語障害の理解	①言語障害の定義と理解 ②心理的な視点からの言語障害 ③言語障害への支援
6) 心因性情緒障害の理解	①心因性情緒障害とは ②心因性情緒障害の症状 ③心因性情緒障害の原因と治療
7) 自閉症スペクトラム障害の理解	①自閉症とは (診断基準) ②自閉症の理解 ③自閉症児の心理的特徴
8) ADHDの理解	①ADHDとは (診断基準) ②ADHDの症状 ③ADHDの理解と支援
9) LDの理解	①LD (学習障害とは (診断基準)) ②LDの症状 ③LDの発見と支援
10) 幼年期の障害	①幼年期の障害をどのように捉えるか ②幼年期に起こりがちな障害 ③「気になる子」の理解
11) 障害児の理解	①障害児を理解するとは ②障害を持つ人への生涯発達の視点からの支援のあり方
12) まとめの話と質疑応答	①障害を理解するとは (まとめの話) ②質疑応答
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書にもとづいて講義を進める。必要に応じて資料を配付する。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験 (100% : 持込は自筆ノートのみ可)

■スクーリング時の教科書

教科書『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』と資料 (当日配付) を使用します。

教科書『障害者心理～その理解と研究法』の持参でも可。

■スクーリング事前学習

教科書については、特に次のところを予習してきてください。

22年度以降配本の教科書『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』序章2, 3章, 5章, 6章, 7章, 8章, 9章, 15章, 19章。

21年度以前配本の教科書『障害者心理—その理解と研究法』Ⅰ(全), Ⅱ(全), Ⅲ(1・2・6)。

人格心理学 皆川 州正

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学は、個人や集団の理解、行動の予測、適応や成長の援助などを目的としています。とりわけ、人格心理学は、その人らしさをどう理解するのか、そしてその人の行動をどの程度予測することができるのか、その人らしさの強みを活かし、弱みを補って適応や成長を図るにはどうしたらよいか問われているでしょう。また、そのためにさまざまな見方や理論が展開されています。そのような問題意識をもって学んでほしいと思います。

■到達目標

『レポート課題集C (心理専門編)』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 人格・性格・気質とは	心理学における人格の定義, 人格と性格と気質の違い, 研究の課題と臨床における応用について学ぶ。
2) クレッチマーのタイプ論, ユングのタイプ論	タイプ論の基本的な考え方, 利点と欠点について学ぶ。代表的なタイプ論として, クレッチマーの類型論とユングの類型論をとりあげて, その考え方と応用について学ぶ。
3) タイプA・C, アイゼンクのタイプ論, キャッテルとアイゼンクの特性論	人格と健康の関連として, タイプAとタイプC, アイゼンクのタイプ論について学ぶ。特性論の基本的な考え方, 利点と欠点について学ぶ。代表的な特性論として, キャッテルとアイゼンクの特性論をとりあげ, その考え方と応用について学ぶ。
4) 特性5因子, 状況論・相互作用論(状況の力, 文化の影響)	特性論の集大成である5因子モデルをとりあげ, その考え方と応用について学ぶ。 ミッセルによる状況論と「人一状況論争(一貫性論争)」と, その後の展開, 特に相互作用論について学ぶ。人の行動に影響を及ぼしている状況の力や文化の影響についても学ぶ。
5) レヴィンの力動論	力動的構造論の基本的な考え方, 利点と欠点について学ぶ。代表的な構造論として, レヴィンの場の理論をとりあげ, その考え方と応用について学ぶ。
6) フロイトの力動論	代表的な力動的構造論として, フロイトの精神分析理論をとりあげ, その考え方と応用について学ぶ。
7) アドラー心理学, ユング心理学, アサジョーリの精神統合理論	無意識について, フロイトとは異なる視点からとらえたフロイトの弟子たちの考え方とその応用について学ぶ。
8) バーンの交流分析①	バーンの交流分析をとりあげ, その考え方と応用について学ぶ。
9) バーンの交流分析②	交流分析について補足する。事例を紹介する
10) ロジャーズの自己理論	人間性心理学の基本的な考え方, 利点と欠点について学ぶ。代表的な人間性心理学の理論として, ロジャーズの自己理論のとりあげ, その考え方と応用について学ぶ。
11) 学習理論・認知論	学習理論・認知論の基本的な考え方, 利点と欠点について学ぶ。恐怖症, 攻撃行動, 無気力, 社会的行動が学習によるという見方について学ぶ。
12) まとめ	これまでの人格理論について総括し, 補足する。
13) スクーリング試験	学んだことを踏まえて試験を行う。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。途中, 人格理解のためのワークもを行います。教科書と視聴覚教材も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

オンデマンド・スクーリングのため, スクーリング試験100%で評価します。

■スクーリング時の教科書

教科書1)『心理学理論と心理的支援(第2版)』は必ず所持ください(旧版でも可)。

■スクーリング事前学習

教科書1)の第3章と教科書2)の第3部第2章は読んでおいてください。

心理アセスメント 渡部 純夫

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理アセスメント」では、臨床心理学的視点から、対象となるクライアントをどのようなことに注意を払って捉えていくのかを話していきます。そのためには、「正常と異常」の捉え方や、心理学モデルからの見立て、さらには言語的・非言語的な面からの評価をどうすればよいか、身につける必要があります。講義では、日ごろの人との接し方を思い起こしながら、学んでほしいと考えています。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 正常と異常の判断方法	平均的規準, 病理的規準, 価値的規準, 民俗的規準, 発達の規準
2) 心理臨床家の視点	身体と心理, 問題の捉え方, 社会的視点, 病理の捉え方
3) アセスメント①	面接法のポイント
4) アセスメント②	観察法のポイント
5) アセスメント③	検査法のポイント
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

資料は用いずに、アセスメントの考え方をわかりやすく伝えていきたいと思います。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況(20%) + スクーリング試験(80% : 持込不可)

試験では、アセスメントの基本について問います。

■スクーリング時の教科書

教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

「面接法」「観察法」「検査法」についての内容を、教科書を中心に調べ、自分が他人を評価するときの特徴についてまとめてきてください。

臨床心理学(仙台・東京開講分)

清水めぐみ

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

心理臨床の実践では、他者と場を共有することであらゆる感覚を駆使して伝達されるものが重

視されます。臨床心理学では、ほかの参加者と時間や場所を共有しながら、先人の歩んだ道のりや見出した見解を学んでいきます。実際に教室に足を運ぶこと、話を聞くこと、資料を見ること、映像資料を視聴することなどを通じてあらゆる感覚を活かしながら「自分の心を通じて人の心を理解しようとする」ことがどのようなことであるのか、体得するための糸口をつかんでいただきたいと考えています。加えて、レポート作成上の留意点についてもお伝えします。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 臨床心理学とは	自分のこととしての臨床心理学、臨床心理学の領域
2) 「無意識」ということ	精神分析について学ぶ
3) 分析心理学	分析心理学について精神分析と絡めつつ学ぶ
4) 精神力動的発達理論	関係において発達する心について学ぶ
5) 行動療法	学習理論に基づく考え方を学ぶ
6) クライアント中心療法	Client centeredの考え方について学ぶ
7) 心理アセスメント	心理アセスメントの概要について学ぶ
8) 心理アセスメントの方法と留意点	臨床における配慮について学ぶ
9) 臨床心理学的援助の実際	心理療法について学ぶ
10) 臨床心理学的援助の枠組み	スクール・カウンセリングについて学ぶ
11) 援助専門家の力	援助に際しての「善意」の功罪について学ぶ
12) まとめ	11回までの講義に関する議論
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

- ・上記講義内容の順番は、日ごとのコマ数や開始時間などによって変更になることがあります。
- ・パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書も適宜使用します。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込不可）

■スクーリング時の教科書

神田久男編『心理臨床の基礎と実践』樹村房を随時参照します。

■スクーリング事前学習

教科書にはひととおり目を通してからご参加ください。

■スクーリング受講にあたっての留意事項

臨床心理学は、心理学の応用分野です。この分野での実践や修学の経験がない方には「福祉心理学」「心理学概論」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからなどの受講をお奨めします。したがって、4月新入生が入学直後の5月に受講することはお奨めしません。

臨床心理学（新潟開講分） 横山 知行・小山 智子

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

臨床心理学とは、なんらかの心の困難を抱えたひとへのよりよい支援を行うための、また、ひとびとの心の健康の保持と増進を目指すための学問分野です。この心という捉えどころのないものを扱うために、さまざまなアプローチが用いられています。スクーリングでは、そのうち代表的なものを、公刊された事例や映像資料などを用いながら概説していきます。

■到達目標

- 1) 臨床心理学の基本的概念について説明することができる。
- 2) 精神分析, 分析心理学, 人間性心理学, 認知・行動理論のそれぞれについて説明することができる。
- 3) 代表的な心理検査法について, 説明することができる。
- 4) 発達段階により生じやすい心理的困難とその支援について説明することができる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 臨床心理学とは	イントロダクション
2) 無意識という公理系①	精神分析学概説
3) 無意識という公理系②	分析心理学概説
4) 現象学という観点	人間性心理学
5) 行動と心	行動理論, 認知・行動理論
6) 心理検査①	観察法, 質問紙法, 投映法
7) 心理検査②	知能検査, 認知機能検査
8) 子どもの心理臨床	児童・思春期に生じやすい心理的困難とその支援
9) 青年期の心理臨床	青年期に生じやすい心理的困難とその支援
10) 成人期・老年期の心理臨床	成人期・老年期に生じやすい心理的困難とその支援
11) システム論の視座	臨床心理学的家族支援, 地域支援
12) まとめと質疑応答	
13) 試験	

■講義の進め方

教科書とあわせて、パワーポイントや配付資料を使用し、講義を進める。公刊された事例や映像資料なども用いる。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況50%＋スクーリング試験50%（自筆ノートのみ持込可）。

試験では到達目標に記載された内容について問います。

■スクーリング時の教科書

神田久男編『心理臨床の基礎と実践』樹村房

■スクーリング事前学習

受講にあたり、事前に教科書に目を通してきてください。

■スクーリング受講にあたっての留意事項

臨床心理学は、心理学の応用分野です。この分野での実践や修学の経験がない方には「福祉心理学」「心理学概論」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからなどの受講をお奨めいたします。

■スクーリングで学んでほしいこと

様々な心理療法があり、それぞれの理論的背景、アプローチの違いを習得してほしい。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 心理療法の概要と実際①	歴史, 精神分析
2) 心理療法の概要と実際②	クライアント中心療法
3) 心理療法の概要と実際③	認知行動療法, ビデオ学習
4) 心理療法の実際	カール・ロジャースの面接のビデオによる学習
5) 心理療法の概要と実際④	箱庭療法, ビデオ学習
6) 心理療法の概要と実際⑤	遊戯療法, ビデオ学習
7) 心理療法のワーク体験①	受講者に実際のワークを体験してもらう
8) 心理療法のワーク体験②	受講者に実際のワークを体験してもらう
9) 心理療法の概要と実際⑥	ワークの振り返り, 森田療法, ビデオ学習
10) 心理療法の概要と実際⑦	内観療法, サポートィヴ・サイコセラピー・ビデオ学習
11) 心理療法の概要と実際⑧	倫理について, 面接の経過, ビデオ学習
12) まとめ	レポートについて, 心理療法の講義のまとめ
13) スクーリングの試験	スクーリングを通して学習したことの再確認

■講義の進め方

配付レジュメを用いて講義を進めます。実際の両方場面のビデオを見たり、7・8コマめではグループに分かれてワークを行い、理解を深めます。

■スクリーニングの評価の基準

スクーリング中に行うテスト（100%：自筆ノートのみ持込可）。

テストには、スクーリング中に見ていただくカール・ロジャースの面接場面のビデオについての出題が含まれます。そこには、到達目標にある、クライアント中心療法の特徴を捉えた上で、自分自身の見解をどれぐらい論述できるかについて問います。

■スクーリング時の教科書

レジュメの配付により、教科書は使用しない。

■スクーリング事前学習

教科書には目を通してきてほしい。

■スクーリング受講申込条件

「心理療法」のスクーリングは、受講申込締切日までに、心理学概論、人格心理学、臨床心理学、心理アセスメント、カウンセリングⅠ・Ⅱ、カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱのなかから4科目程度以上学習を終えていない方は申込みをご遠慮ください（学習を終えているとは、たとえばSR履修ならば、スクーリング受講済+レポート提出済、R履修ならばレポート提出済+科目修了試験受験済にしておくこと）。ただし、強制ではありません。

心理療法（札幌開講分）

鴨澤あかね

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

- ・心理療法の成り立ちと代表的な理論に関する基礎知識を身につける
- ・心理療法がおこなわれている現場や用途について理解する。
- ・体験的な学習（グループ・ディスカッション）を通じ、他者理解と自己理解の意義を理解する。

■到達目標

- 1) 心理療法の学派にどのようなものがあるかとその特徴を説明できる。
- 2) 心理療法が用いられている領域と、各領域での主な用いられ方について説明できる。
- 3) 心理療法と、“ただ話を聞くだけ”との違いを説明できる。

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 現代社会とこころ	現代社会の在り方とこころのケアについて
2) 心理療法の成り立ち	心理療法の歴史とカウンセリングとの関係
3) 心理療法の学派と技法①	精神分析
4) 心理療法の学派と技法②	人間性心理学
5) 心理療法の学派と技法③	認知行動療法
6) 心理学的アプローチ①	非言語的アプローチ
7) 心理学的アプローチ②	心理アセスメント
8) 心理学的アプローチ③	集団心理療法
9) 心理療法が用いられる領域①	医療領域と心理療法
10) 心理療法が用いられる領域②	教育領域と心理療法
11) 心理療法が用いられる領域③	産業領域と心理療法
12) まとめと質疑応答	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

毎回、6名程度の小グループに分かれ、グループリーダーと音読者を1名ずつ決めて授業を行います。具体的には、授業のテーマに即した資料を担当教員が配付し、その資料の内容を各グループの音読担当者が分担して全体にむけて音読します。その後、資料に記された内容について小グループでディスカッションし、グループのリーダーが意見をまとめて全体に発表します。さらにそれらの意見に対して教員がコメントするとともに、全体ディスカッションを行います。

■スクーリング評価の基準

- ・授業への参加状況80%＋スクーリング試験20%（持込可）。
- ・試験では、講義内容の理解、およびグループ・ディスカッションを通じて学んだこと等について問います。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習

- ・心理療法について自身が持っているイメージと、なぜ心理療法を学びたいと思ったかについて考えてきてください。
- ・講義内容の関心あるテーマについて、下記の参考図書などを読んで、学びたいことを考えて

きてください。

■スクーリング事後学習

- ・心理療法に対する考え方が受講前と受講後でどのように変化したか、あるいは変わらないかを振り返って確認してください。
- ・講義内容からさらに興味を持ったことについて、知識や体験を広げてください。

■参考図書

教科書『カウンセリングを学ぶ（新版）』（有斐閣）

カウンセリングⅠ・Ⅱ 産業カウンセリングⅠ・Ⅱ カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

認知心理学 西林 克彦

講義

■スクーリングで学んで欲しいこと

認知のメカニズムなど認知心理学それ自体のおもしろさも楽しんでもらえれば、それはそれでよいと思います。ただ、認知心理学的な視点から学習や教育を見ると、どのような問題点や方向が見えてくるのかなど、現実を考える道具として欲しいとも願っています。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 認知心理学の概要	既存知識のはたらき
2) 機械的暗記と有意味学習の違い①	学習対象の量、精緻化
3) 機械的暗記と有意味学習の違い②	3種の学習曲線、仮説演繹過程
4) 機械的暗記と有意味学習の違い③	成長によるエラー、賞罰、認識過程
5) 理解と応用①	理解の三層構造
6) 理解と応用②	応用できない知識の形態
7) 理解と応用③	有機的知識構造
8) 知識と教育①	苦手とできない理由
9) 知識と教育②	コアと周辺
10) 文章理解①	わかったつもりという状態
11) 文章理解②	わかったつもりを壊し方
12) まとめ	
13) スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに受講者に疑問を投げかけながら講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験（100%：持込可）

■スクーリング時の教科書

教科書『間違いだらけの学習論—なぜ勉強が身につかないか』新曜社、1994年、『わかったつもり—読解力がつかない本当の原因』光文社、2005年 を使用します。

■スクーリング事前学習

上記教科書も含めた認知心理学や学習心理学に関する書籍などに目を通して、この領域に固有のタームや考え方に親しんでおくと、講義も聴きやすく疑問もわきそれなりの効用が期待できるかと思います。

学習心理学 柴田 理瑛

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では、生体が自己の経験を通して行動を変容させていく過程や仕組みについて学びます。初めに、生体が特定の環境に曝されることによって誘発される学習と、生体が環境に働きかけることで誘発される学習について学び、次に記憶の構造や様々な技能の獲得について学んでいきます。各テーマの代表的な研究だけでなく応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して学習についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 古典的条件づけ	条件刺激、条件反射、パブロフの犬について スキナー箱、強化、強化スケジュールについて 刷り込み、生物学的制約について 運動、認知、知覚技能の習熟について 多重貯蔵庫モデル、ワーキングメモリについて
2) オペラント条件付け	
3) 条件づけの制約	
4) 技能学習	
5) 記憶の構造	
6) まとめ	
7) スクーリング試験	

■講義の進め方

プレゼンテーションと配付資料を活用しながら授業を進める。また、学習心理学のそれぞれの分野における代表的な研究内容と実験について、視聴覚メディア等を視聴することもある。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込可）で評価します。具体的には、スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述できるかについて問う予定です。

■スクーリング時の教科書

教科書『学習心理学への招待：学習・記憶のしくみを探る（改訂版）』を参考程度に使用します。

■スクーリング事前学習

教科書『学習心理学への招待：学習・記憶のしくみを探る（改訂版）』を所持している方は第一章に目を通しておくようにしてください。以前の教科書『グラフィック学習心理学：行動と認知』をお持ちの方は序章に目を通しておくようにしてください。

- 特講・福祉心理学 1（表情の心理学）
- 特講・福祉心理学 4（スクール・カウンセリング）
- 特講・福祉心理学 8（ストレスとつきあう心理学）
- 特講・福祉心理学 9（コミュニティ心理学）
- 特講・福祉心理学 11（受容と排斥の心理学）
- 特講・福祉心理学 12（犯罪心理学）

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

統計情報を見る眼 平川 昌宏

講義

■スクーリングで学んでほしいこと

私たちは普段テレビや新聞などでたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことができます。この講義では、まず、統計情報の種類やそれらの特徴について理解することを目的とします。さらに、それを解釈する際の統計的な考え方について学んでいくことを目的とします。

スクーリングでの学習を通して、普段接している統計情報を、それまでとは異なった視点で眺め、「読みこなし」「使いこなせる」ようになっていただければと思います。また、受講生の皆さんが自身の「明らかにしたい事柄」について科学的にアプローチするための方法として、統計や統計的な考え方を身につける第一歩としていただければと思います。

なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。今回のスクーリングでも、理解を深めるために簡単な計算をしていただきます。特に計算の苦手な方は、電卓を持参してください。

■到達目標

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

■スクーリング講義内容

テーマ	内容
1) 統計情報の有効性とその落とし穴	統計詐欺の3つのパターン
2) 1つの変数の特徴を記述する	代表値・外れ値・散布度・標準偏差
3) 2つの変数の関係を記述する	相関・相関図・相関係数
4) 相関を解釈する・データの世界から一般の世界へ	擬似相関・記述統計・推測統計・母集団・サンプル・サンプリング
5) 統計的検定の考え方	確率的推測・統計的検定・帰無仮説

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 6) 統計的検定の結果を見る際の留意点 | 第1種の過誤・第2種の過誤・交互作用 |
| 7) まとめ | |
| 8) スクーリング試験 | |

■講義の進め方

空欄穴埋め式の配付資料にそって、パワーポイントを提示しながら講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

授業への参加状況（10%）＋スクーリング試験（90%：持込可）。

■スクーリング時の教科書

教科書『考える技術としての統計学』は参考程度に使用します。

■スクーリング事前・事後学習

皆さんの身の回りの統計情報について意識して目を向けるようにしておいてください。そして、スクーリングを受講した後で、その統計情報についての見方に変化があったかどうかを確かめていただきたいと思います。

人的資源論

『レポート課題集C（心理専門編）』参照

相談支援 乳児保育

『幼保特例講座科目ガイド』参照